まさに佳境。アウトドアシーズンのハイライト8月である。

恒例の全日本選手権は、まず全国の予選を勝ち抜いてきた精鋭男女各49校による高校大会がその口火。山口県での開催は初めて。つづいて教職員、中学生、高専と熱戦がうけつがれる。

教職員は男子44、女子10チームが参加、来年に国体を控える長野県で闘志を燃やす。この大会もことしで20年の球史を刻むことになる。

まっくろに陽灼けした中学選手による全国大会は、すっかり球界に〝定着〟した。

男女16チーム、500人近い選手のなかからきっと、明日の日本ハンドボールを背負う選手が育つことだろう。

高専も早いもので4年目の全国大会だ。組織の確立もかなり進んでおり、参加校の熱意は全日本高校や全日本学生（11月）に負けないものがある。

開幕の早い青森国体のブロック代表が、月末までにほとんど出揃う。ことしは成年男子が一県一代表制を採っている。

日本協会行事も活発だ。教育系大学研修会は、すっかり軌道にのったし、JHAレフェリーコースは、いよいよ最後の段階。成果が期待される。

8月といえば夏合宿の季節でもある。伝統の大学勢に加えて、ことしは日本リーグ各チームのキャンプインもかなり伝えられる。

国際関係では16日、18日韓国で九州高校選抜男女によって日韓高校交流が行われる。

# HAND BALL 8月のハンドボール CALENDAR

**1日(月)**▽第28回全日本高校選手権開始式（15時、山口高校＝山口市糸米）

**2日(火)**▽全日本高校第2日、男女各1回戦（10時、山口高）

**3日(水)**▽全日本高校第3日、男女各2回戦（10時、山口高）▽第6回全北海道中学生(札幌)

**4日(木)**▽全日本高校第4日、男女各3回戦（10時、山口高）▽北陸3県中学大会（福井）

**5日(金)**▽全日本高校第5日、男女各準々決勝（10時、山口高）

**6日(土)**▽全日本高校第6日、男女各準決勝（10時、山口高）

**7日(日)**▽全日本高校最終日、男女各決勝（9時女子決勝、10時男子決勝、山口高）

**9日(火)**▽全国スポーツ～ハンドボール～少年団交歓乗鞍キャンプ（岐阜県高山市・11日まで）

**10日(水)**▽第20回全日本教職員選手権第1日、男女各1回戦（10時長野県立屋代高校）

**11日(木)**▽全日本教職員第2日、男女各2回戦（10時、屋代高）

**12日(金)**▽全日本教職員第3日、女子準決勝、男子3、4回戦（10時、屋代高）

**13日(土)**▽全日本教職員最終日、女子決勝、男子準決勝、決勝、男女各3位決定戦（10時、屋代高）

▽「土曜の集い」（17時、東京青少年総合センター）

▽第7回全北海道クラブ選手権及び国体北海道予選（室蘭・14日も）

**17日(水)**▽第6回全国中学生大会開会式(16時、茨城県麻生中学)

**18日(木)**▽全国中学生第2日、男女各2回戦(8時30分、麻生中)

**19日(金)**▽全国中学生最終日、男女各準決勝、決勝（10時30分、麻生中）

▽第24回関東選手権及び国体関東予選（横浜、21日まで）

▽第3回東北ミニ国体及び第30回東北選手権（郡山市、22日まで）

**20日(土)**▽国体北信越予選（長野県戸倉町、21日も）

▽国体近畿予選（和歌山県打田町、21日も）

▽国体四国予選(松山、21日も)

**23日(火)**▽第4回全国教員養成大学研修会（東京青少年総合センター、26日午前中まで）

**25日(木)**▽第4回全国高専選手権開会式(17時、秋田県立体育館)

**26日(金)**▽全国高専第2日（秋田県立体育館）

▽昭和52年度JHAレフェリーコース後期第1日（10時、日本体協、29日まで。ただし27、28日は青山学院体育館）

**27日(土)**▽全国高専最終日（秋田県立体育館）

▽第29回東海選手権及び国体東海予選(静岡市体育館、28日も)

▽国体九州予選(大分、28日も)

**29日(月)**▽男子ナショナルチーム昭和52年度第2次強化合宿（三重県鈴鹿市、9月4日まで）

(注)会場のうち一部は雨天時変更されるものがあります。

今月からこの欄を設けました。ご利用下さい。

掲載する大会は、当分の間ブロック・レベル以上に限ります。

各ブロック協会、各地学連同実連、同高体連などからの情報提供を期待します。

「ハンドボール」

52年8月号（第155号）目次



【表紙写真】日本リーグ女子、日本ビクター、加藤の攻撃。対大崎電気（7月10日・静岡県営草薙体育館）

静岡新聞社提供

# 台湾で3ケ国リーグ(10月中旬)を準備

## ～世界選手権アジア地域予選～

### クウェート棄権　微妙なサウジアラビアの動き

第9回世界選手権Aグループアジア予選は、日本、クウェート、サウジアラビア、台湾の4ケ国が参加して行われる予定だったが、本誌前号情報のとおり、クウェートが、6月末、正式にエントリーを取り消し、参加国は3ケ国となった。

このため、IHF(国際ハンドボール連盟)と、渡辺和美アジア選出IHF理事は、アジア予選の競技法式をトーナメント(ノックアウト・システム)から、総当り戦(リーグ戦)に変更することを決め、その開催地として台湾をあげて折しようを進めている。

渡辺理事によれば、会期は10月12日から18日までで3ケ国2回総当り、レフェリーはヨーロッパから一ペアが派遣される。

日本、サウジアラビアとも「台湾集結」には賛意を示しており、クウェート棄権による1回戦不戦勝を主張するかとみえたサウジアラビアも、すでに7月はじめ、IHFの新提案を受けいれた、という。

ただし、サウジアラビアは、決勝を日本で行うという当初案の場合は、日本が航空旅費の二分の一を受けもつことになっていたが、台湾開催になると、全額サウジアラビア側が負担することになり、日本協会の一部は、この点で、3ケ国集結からあるいはサウジアラビアがはずれることもあろう、というみかたをしている。

本誌〆切り(7月25日)までにIHFが、新提案の公表を行っていないのは、台湾協会から開催OKの正式回答がでていないためとみられる。

IHFへの台湾の回答期限は7月30日と伝えられる。

### 決勝の「日本開催」なくなる

渡辺和美IHF理事は、7月20日東京で、アジア予選の法式変更にともない10月21日大阪、23日神戸で予定された極東サイドとアラブサイド勝者の〝決勝〟は行われない、と語った。

これは、サウジアラビアが台湾行きを望まず、日本での決勝を改めて要望した場合、IHFはどのような措置をとるか、という本誌の質問に応えたもので、仮にサウジアラビアが台湾での「3ケ国リーグ」を拒み、旅費面で好条件の日本における決勝を望んでも、IHFは受けつけず、サウジアラビアを「棄権扱い」にするという。

### 実施のたびに一悶着

#### ～最近のアジア予選～

アジア地域で、世界選手権やオリンピックへの予選が行われるようになったのは、昭和46年秋のミュンヘンオリンピック予選(男子のみ、東京、大阪、名古屋)が最初、その永い歴史があるわけではない。

しかし、その後は、予選のたびに、なんらかのトラブルがおこりスムースに実施へこぎつけたケースはないとさえいっていい。

▽第5回世界女子選手権予選(昭48)、韓国が直前で棄権。

▽第8回世界選手権予選(昭49)日本が中東政情の不安からイスラエル行きを渋り、いちどは「棄権」に傾く。

▽第6回世界女子選手権予選(昭50)、インドが棄権。韓国がイスラエルを含めた予選開催に難色を示し、日本×イスラエルの決勝は東京で「密室試合」によって強行

▽モントリオールオリンピック男子予選(昭51)、クウェートが直前で棄権。

### 「全日本」をモスクワ候補選手と呼称

日本協会は、6月19日の全国理事会で、この席上承認した男女ナショナルチーム(男18、女23＝既報)を、一九八〇年のモスクワオリンピック候補選手並びに男子第9回、女子第7回世界選手権候補選手と呼称すると決めたことをその議事録で明きらかにした。

これは、強化委員会の「世界選手権を一区切りとせず、世界選手権—オリンピック—世界選手権…オリンピックと長期展望のもとに強化を進めたい」という方針を全面的にうけいれてのものである。

なお、第9回世界男子選手権(Aグループ)は来年1月26日から2月5日までデンマークで、第7回世界女子選手権(Aグループ)は来年11月24日から12月3日までチエコで開かれる。

## ハンドボール伝来して55年に

ことしは日本ハンドボール界にとって、記念すべきことがらが三つ重なっている。

一つは、ご承知のとおり日本ハンドボール協会の創立40周年(昭和13年2月2日発足)、あとの二つは、日本にハンドボールが伝来して満55年目にあたることと7人制一本化15年である。

ハンドボールが日本に初めて伝えられたのは、大正11年(一九二二)夏、当時、東京高師教授の大谷武一氏(故人)が、日本体育学会夏季講習会で発表した時というのが定説だ。

ドイツのカール・シェレンツ氏によって近代ハンドボールの競技規則が整備されたのは一九二〇年と云われ、大谷氏が紹介するまで、日本にとっては「二年間の空白」があるが、一九二二年以前に、ハンドボールが日本へ伝わった形跡は、今のところまったくない。

ことしを「伝来55年」とする所以(ゆえん)である。

当初、ハンドボールは、その体育的効果に注目され、競技スポーツとして発展した現代でもこの特色は、高い評価をうけている。

ところが、先に告示された「中学校指導要領」でハンドボールは、案段階では「保健体育〃集団的スポーツ〃」の例示から削られ、体育授業面から一歩後退のピンチに立たされていた。

幸い復活されたものの、近年競技としてのハンドボールが、いささか粗暴にすぎるということが、削減の一因にあったとも聞く。

体育と競技を一緒にして考えるのは、どうかと思うが、それはそれとして、ハンドボール関係者にとって、考えなければならぬ問題を秘めているのも確かである。

11人制時代のハンドボールは豪快と同時に爽快であった。一流試合はスマートであった。

それが、38年から全面7人制になり、しかも選手が大型化したため、ラフなプレーが増えた

一本化して15年、日本の7人制ハンドボールは、どこがどう進歩したのか。

55年前、炎天下の講習会で新しいスポーツ・ハンドボールを熱っぽく紹介されたであろう大谷氏は、日本におけるハンドボールが、体育と競技、どちらの面で発展、成長するのを望まれたのだろう?。

40才の日本協会が考えるテーマは多い。(杉山)

## 男女強化合宿日程決まる

強化委とナショナルチームは、今後の強化合宿日程を次のように決め発表した。女子は53年11月まで一気に決められている。

男子の世界選手権アジア予選(別掲)のメンバーは9月末に発表される。本大会(53年1月)の代表メンバーについては未定。

【男子】▽第1次・7月21~30日(名古屋)▽第2次・8月29日~9月4日(鈴鹿)▽第3次(世界選手権アジア予選調整合宿)・9月19~25日(栃木または名古屋)及び10月上旬(東京)▽第4次・10月17~20日(神戸または名古屋)▽第5次・12月22~27日(広島)

【女子】▽第1次・7月24~30日(名古屋)▽第2次・9月3~10日(岩井)▽第3次・53年1月9~14日(四日市または広島)▽第4次~昭和53年度第1次~4月8~15日(調布)▽欧州強化遠征・4月28日~5月11日の予定▽第5次7月23~29日(四日市)▽第6次9月9~15日(名古屋)▽第7次・11月11~18日(岩井または調布)▽第8次・11月26~29日(調布)

### ヤング候補推せん締切る

復活する「ヤング全日本」(男子)の選こうにあたって、埋れた有望大型選手を発掘するため強化委員会が各都道府県の高体連と各地域学生連盟に依頼した候補選手推せんは7月15日〆切られ、同日までに関東学連の22名を筆頭に2学連2協会から学生24、高校生2名が届出られた。

高校選手の推せんが予想以上に少かったのは「183cm以上」という規定の厳しさと「現時点で推せんしなくても、素質のある選手はいずれ見出される」というとらえかたが強かったためのようだ。

強化委員会では、このあと同委の推せん者と合わせて選考を行い今秋11月末までにリストを発表、来年1月19日から27日までの9日間静岡県修善寺町のサイクルスポーツセンター内「日本競輪学校体育館」で強化合宿を行う予定。

## GW・フランクフルト(西独女子)ら来日を希望

日本協会に、ヨーロッパ各国のトップチームから来日の希望が次々と寄せられ、国際渉外担当者はその整理に追われている。

現在、明きらかにされているだけでも、チェコの古豪IPS・スラビア・プラハ(男子、チェコ1部リーグ7位)をはじめ、スペインチャンピオンのカルピサ・アリカンテ(男子)、西ドイツのリーベスアーバンゲン、同女子のGW・フランクフルト、VfRマンハイムの5チーム。このほかスウェーデンのトップチームも来日を打診してきている。西ドイツ女子の両チームは、ともに全国リーグ(ブンデス・リガ)南地区の所属で今シーズンはフランクフルトが9勝1分4敗で3位、マンハイムが4勝4分6敗で4位。フランクフルトは来春3月21日から25日までに2試合と具体的。

## 高校男子千チーム突破

日本協会は5月末をもって今年度のチーム登録を〆切ったが、このほど終った集計によると、高校男子が一〇三九チームと、待望の一千台にのった。

他競技のように、第2次世界大戦前、中学ハンドボールの下地がほとんどないハンドボール界だけに、昭和25年、全日本高校選手権が発足して以来、千チーム突破は球界あげての宿願だった。女子も七〇二と、初の七百台をマーク。

なお、主なボールゲームの高校男子登録数は本誌調べによるとバレーボール三四二一、バスケットボール三〇九六、サッカー二九四六、ラグビー一〇四五、ホッケー一七四となっている。(ホッケー以外は51年度の数字)

# 日本協会の動き

## □52年度補正予算成る

日本協会は6月12日の全国理事会で、四二、一九九、五〇六円の昭和52年度予算補正案を承認した。3月の新役員選出の時点で作成された予算案に比べ収支ともに大幅増となっているのが目立つ。

これは、収入面では日本体協の「オリンピック強化委託事業経費」「日本リーグ開催権料」「前年度繰越金」「過年度未収金」などが増額したためで特に「前年度繰越金」が約884万円（未収補助金を含む）久々に黒字となって受けつがれているのが目立つ。

支出面では、新システムによって誕生した強化委員会費として一四、二七二、〇〇〇円が計上された。このうち約785万円は、来春の第9回男子世界選手権Aグループの遠征経費だが、このほか強化合宿、コーチ設置費など積極的な強化対策が数字面でもはっきり打ち出された。

このほかの委員会別予算は次のとおり（単位・円）

▽審判委三、五九九、五〇〇▽技術委六一〇、〇〇〇▽普及指導委四、四一〇、〇〇〇▽財務委二九〇、〇〇〇▽総務委九、六八六、六〇〇▽事務局費六、九三五、九三六▽編集委会議費補助四〇〇、〇〇〇

なお、予備費は一、八三九、四七〇円とされている。

**51年度決算終わる**　一方、昭和51年度決算は、竹下敬臣、武内史衛両公認会計士によって行われ、吉田正次郎日本協会監事の監査も終わり、6月12日の全国理事会に提出された。

総収入五八、九三四、一九九円総支出四八、五三五、四三三円で当期剰余金は一〇、三九八、七六六円となっている。

この結果、49～50年度赤字にあえいだ日本協会財政は、一応建てなおしがなったとみられる。

(注)51年度決算報告は全国代議員会承認後、本誌に掲載いたします。

## □審査委員に片瀬氏

日本協会審判委員会は審判審査委員として新たに片瀬喜代次氏（静岡）を選んだ。

これで審査委員は5名が出揃った。（他の4氏は本誌153号既報）

**高知協会事務局変更**　高知協会事務局はこのほど左記のように変わった。

高知県高知市一宮一五六五・県立高知東高校気付。電〇八八八―四五―五七五一。事務責任者　川崎秀雄氏。

## □強化委、事務組織も"完成"

日本協会強化委員会は7月4日東京で初の事務サイド担当者会議を開き、今後の活動などについて協議した。

その結果、後掲のとおり4セクションの分掌を決めたが、このような事務専門委員会内に、一つの局を設置したのは日本協会では初の試みだけに注目される。

一般事務部門は高田日呂美国内事務担当理事が兼任のかたちでスタッフ入り、強化委事務局専任として宮城薫さん（東女体大出）を迎えることも決まった。なお、既報スタッフのうち、企画の井蕉氏は辞退。

これで、強化委員会は、委員、コーチングスタッフ(男女)、トレーニングドクター群、事務組織の四つの柱の人事が九分どおり"完成"し、残るは男子ナショナルチームのマネジャーと、男子ヤングナショナルの専任コーチ各1名だけとなった。

〔強化委員会事務組織分掌〕・国際担当＝海外情報の収集、強力国及びアジア諸国の動向調査、ナショナルチームの海外交流計画の推進など。

・企画担当　ナショナルチームを"主役"とする国内事業の企画と立案、ナショナルチームの広報活動など。

・チーム担当　いわゆるマネジャー。当分の間はコーチングスタッフの事務補佐とし強化合宿の手つづき、国内試合のマネージメント海外遠征の備品調達など。

・一般事務（事務局）強化委員長男女強化部長から依頼された文書の作成、発送。ナショナルチームの備品管理。公式国際試合の記録整備と保存。強化委会計、強化委内各会議の諸準備など。

## 編集委員長に小松原氏

新体制をしいた編集委員会は6月12日の全国委員会につづいて、7月7日東京で初の本部委員会を開き、懸案の委員長（編集長）に小松原保彦氏（関東、早大出、25才）を選んだ。

48年4月、藤本強氏が辞任して以来、空席のままだった編集委員長のポストがこれで4年ぶりに人を迎えた。

なお、編集委員に本部推せんとして新たに細川雅弘、青木敬子両氏が加わり、新しい試みとして9月号（第156号）以降、各号の編集を本部委員2名の持ちまわりで担当することになった。

# 湧永薬品，7連勝でトップ

第2回日本ハンドボールリーグの男子前期（28試合）は7月17日，湧永薬品（広島）と大同特殊鋼（愛知）の激しい首位争いをフィナーレとして幕を閉じ，この一戦に勝った湧永が1位で折り返し，V2を狙う大同は2位についた。

前年3位の本田技研鈴鹿（三重）が調子の出ぬままBクラスに低迷したのに対し，三景（東京）が3位へ浮上，大阪イーグルスはみごとに勝ちこし4位となっている。

後期は10月9日に開幕。

## 2位に大同，三景3位につける

## イーグルス、4位に食いこむ

### 男子第2週

6月25日広島県立体育館、熊本市体育館で各2試合、26日山口県立体育館で2試合、熊本市体育館福岡市民体育館で各1試合の計8試合が行われた。

▽第1日・広島（観衆千三百）

日新製鋼（広島） 19（8—7, 11—7）14 三菱レ大竹（広島）

| 得 | S | 【日新】 | | 【三菱】 | S | 得 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 三田 | GK | 藤本 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 佐野 | GK | 中嶋 | 0 | 0 |
| 0 | 3 | 大庭 | FP | 善本 | 3 | 1 |
| 1 | 1 | 脇若 | FP | 岩本 | 3 | 1 |
| 5 | 10 | 下茂 | FP | 岡村 | 6 | 3 |
| 5 | 8 | 越智 | FP | 大林 | 4 | 3 |
| 5 | 10 | 徳田 | FP | 大江 | 8 | 5 |
| 3 | 4 | 関本 | FP | 武田 | 6 | 1 |
| 0 | 0 | 泉 | FP | 末弘 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 村川 | FP | 田中 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 吹上 | FP | 沖重 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 吉田 | FP | | | |
| 19 | 36 | (2) | PT | (1) | 30 | 14 |

（審・岡村・横瀬）

(注)テーブルのうち「S」はシュート数を示す。

○……手の内を知りつくした同士後半17分13—13から日新は21分越智で先行、さらに23分相手ボールをカットしての速攻で再び越智、25分徳田が追い討ち16—13。結局この8分間が勝負の岐れ目となった。

三菱も元気な攻守で粘ったが、地力の差が終盤で現れた。

### 湧永、後半に突き放す

湧永薬品（広島） 17（7—5, 10—4）9 大阪イーグルス（大阪）

| 得 | S | 【大阪】 | | 【湧永】 | S | 得 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 本田 | GK | 福井 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 広川 | GK | 今井 | 0 | 0 |
| 0 | 3 | 早川 | FP | 津川 | 8 | 4 |
| 3 | 7 | 高橋 | FP | 山本 | 8 | 3 |
| 1 | 4 | 安達 | FP | 穂積 | 5 | 2 |
| 3 | 6 | 福井 | FP | 松本 | 3 | 3 |
| 0 | 1 | 橋本 | FP | 藤本 | 1 | 0 |
| 1 | 6 | 河原崎 | FP | 戸田政 | 2 | 1 |
| 0 | 1 | 足羽 | FP | 木野 | 5 | 3 |
| 0 | 3 | 北居 | FP | 高橋 | 2 | 1 |
| 1 | 11 | 池本 | FP | 緒方 | 0 | 0 |
| | | | FP | 迫 | 0 | 0 |
| 9 | 42 | (1) | PT | (1) | 34 | 17 |

（審・常田・片山）

○……好調イーグルスが、もうひとつ調子の波に乗れない湧永に対して高橋、福井らで五分にわたりあい、接戦がつづいた。

しかし、前半終了まぎわ湧永は穂積の力投で7—5と余裕をのぞかせ、後半は高橋の好リードから山本、松本らが得点、12分13—7さらに木野が大阪の気勢をそぐ2点をあげて21分15—8と大勢が決まった。

大阪の善戦といえるが、差が開きはじめるとやはりクラブチームだけに根(こん)がうすらぐようだ。

### 大崎、6点差も東の問

▽同・熊本（観衆・千五百）

大同特殊鋼 26（10—7, 16—7）14 大崎電気（埼玉）

○……大崎はGK原田の堅守と攻撃の好テンポで大同ディフェンスを崩すという快調なデキをみせ16分6—0とリード。

ところがこのあと中井に2ゴール許したあたりから動きが鈍くなり、あっという間に同点にされたばかりか、大原、蒲生に射ちこまれてあっさり10—7と主導権をゆずってしまった。

| 得 | S | 【大同】 | | 【大崎】 | S | 得 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 柳川兄 | GK | 岡部 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 倉谷 | GK | 原田 | 0 | 0 |
| 3 | 12 | 藤中 | FP | 佐藤 | 3 | 1 |
| 5 | 8 | 中井 | FP | 井手 | 12 | 2 |
| 4 | 9 | 松原 | FP | 橋本 | 2 | 2 |
| 2 | 6 | 花輪 | FP | 坂口 | 2 | 1 |
| 2 | 4 | 柳川弟 | FP | 斉藤 | 8 | 2 |
| 5 | 6 | 大原 | FP | 新田 | 0 | 0 |
| 0 | 2 | 中本 | FP | 能波 | 8 | 4 |
| 4 | 16 | 蒲生 | FP | 佐伯 | 0 | 0 |
| 1 | 1 | 浦田 | FP | 椿原 | 3 | 1 |
| | | | FP | 武藤 | 1 | 1 |
| 26 | 64 | (1) | PT | (2) | 39 | 14 |

（審・日野・近藤）

地力の差といえばそれまでだがこのあたり試合運びに一工夫が欲しい。後半は、大同の一方的な展開。序盤、大崎の健闘にわいたスタンドが今度は大同の猛攻にあぜんとしていた。

### 三景、残り3分から逆転

三景（東京） 21（9—11, 12—8）19 本田技研鈴鹿（三重）

| 得 | S | 【三景】 | | 【本田】 | S | 得 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 佐藤 | GK | 柴田 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 小林 | GK | 細野 | 0 | 0 |
| 2 | 10 | 佐々木 | FP | 田上 | 14 | 5 |
| 5 | 9 | 鈴木 | FP | 佐藤 | 15 | 7 |
| 0 | 3 | 山村 | FP | 豊岡 | 5 | 3 |
| 0 | 2 | 川島 | FP | 高木 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 中村 | FP | 矢野 | 2 | 2 |
| 6 | 11 | 村田 | FP | 勝田 | 4 | 2 |
| 3 | 6 | 中馬 | FP | 川上 | 0 | 0 |
| 5 | 9 | 西窪 | FP | 松永 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 飯島 | FP | 嶋林 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 吉近 | FP | 西田 | 1 | 0 |
| 21 | 50 | (3) | PT | (1) | 41 | 19 |

（審・島田・森）

○……残り5分18—18から本田は豊岡のゴールで先行、逃げ切れるかとみえたが、三景は27分西窪の巧技で同点、28分佐々木がFTをいきなり打ちこむ意表をついたプレーで逆転に成功、粘ろうとする本田の反撃を村田が好判断で食い止め、さらにダメ押し点。みごとな集中攻撃による逆転劇を演じた。

本田は前半12分6—1とするなどたえず先行しながら、後半射ち合いに誘いこまれ、勝てた試合をまたしても落としてしまった。

### GK本田、要所をおさえる

▽第2日・山口（観衆二千）

大阪イーグルス 19（8—5, 11—12）17 大崎電気

| 得 | S | 【大阪】 | | 【大崎】 | S | 得 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 本田 | GK | 原田 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 広川 | GK | 福本 | 0 | 0 |
| 2 | 12 | 福井 | FP | 佐藤 | 4 | 0 |
| 3 | 10 | 早川 | FP | 能波 | 12 | 5 |
| 2 | 12 | 河原崎 | FP | 井手 | 12 | 5 |
| 4 | 8 | 安達 | FP | 斉藤 | 5 | 1 |
| 7 | 14 | 池本 | FP | 武藤 | 3 | 1 |
| 1 | 9 | 高橋 | FP | 椿原 | 3 | 1 |
| 0 | 0 | 足羽 | FP | 橋本 | 1 | 0 |
| 0 | 0 | 橋本 | FP | 坂口 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 北居 | FP | 新田 | 0 | 0 |
| | | | FP | 家村 | 1 | 4 |
| 19 | 65 | (1) | PT | (2) | 49 | 17 |

（審・青木・槇）

○……大阪は守りの固さで14分まで大崎に得点を許さぬ一方、3分福井のゴールを口火に好機を確実に活かし4—0とした。

大崎も後半能波、井手らで反撃し追いこんだが、要所を相手GK本田の好守備でつぶされ24分16—18のあと池本に止めを刺された。

大同特殊鋼 29（12—5, 17—10）15 日新製鋼

| | 【日新】 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 三田 | 0 | 0 |
| | 佐野 | 0 | 0 |
| FP | 泉 | 2 | 1 |
| | 下茂 | 10 | 5 |
| | 脇若 | 5 | 2 |
| | 越智 | 10 | 2 |
| | 大庭 | 5 | 0 |
| | 徳田 | 14 | 3 |
| | 関本 | 6 | 2 |
| | 村川 | 1 | 0 |
| | 吹上 | 1 | 0 |
| | 吉田 | 2 | 0 |

（審・上田 東）

| | 【大同】 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 柳川兄 | 0 | 0 |
| | 倉谷 | 0 | 0 |
| FP | 藤中 | 10 | 3 |
| | 中井 | 7 | 3 |
| | 松原 | 6 | 3 |
| | 花輪 | 7 | 3 |
| | 蒲生 | 13 | 8 |
| | 中本 | 4 | 3 |
| | 大原 | 9 | 5 |
| | 柳川弟 | 3 | 1 |
| | 浦田 | 0 | 0 |

2959（3） PT （1）5615

○……大同は5分2―0のあと蒲生がその破壊力をいかんなく発揮PTを含む連続6ゴールを奪い、あっさり日新をねじふせてしまった。

## 三菱に惜しい守りの荒さ

▽同・熊本（観衆二千）

鈴鹿本田技研 13（7―3、6―8）11 三菱レ大竹

| | 【三菱】 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 藤本 | 0 | 0 |
| | 中嶋 | 0 | 0 |
| FP | 善本 | 5 | 2 |
| | 岩本 | 6 | 2 |
| | 岡村 | 8 | 2 |
| | 大林 | 2 | 0 |
| | 大江 | 11 | 4 |
| | 武田 | 10 | 1 |
| | 田中 | 1 | 0 |
| | 沖重 | 0 | 0 |

（審・島田 森）

| | 【本田】 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 柴田 | 0 | 0 |
| | 細野 | 0 | 0 |
| FP | 田上 | 10 | 4 |
| | 佐藤 | 17 | 7 |
| | 豊岡 | 4 | 1 |
| | 西田 | 2 | 0 |
| | 勝田 | 3 | 1 |
| | 川上 | 1 | 0 |
| | 矢野 | 4 | 0 |
| | 高木 | 0 | 0 |
| | 松永 | 0 | 0 |
| | 嶋林 | 0 | 0 |

1341（6） PT （1）4311

○……前半、本田がセットオフェンスからの変化でポイントしたが後半は、三菱の激しい当たりにあって得点がのびず、三菱は岩本、岡村らの得点を中心に21分9―10と追いあげた。

しかし、このあと三菱はディフェンスに落ち着きがなくなり二人の退場者を出し、PT2本を決められるなど拙いプレーがつづいて25分12―9と再び引きはなされてしまった。

▽同・福岡（観衆千五百）

湧永薬品 22（10―9、12―3）12 三景

| | 【三景】 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 佐藤 | 0 | 0 |
| | 小林 | 0 | 0 |
| FP | 佐々木 | 9 | 3 |
| | 中馬 | 3 | 1 |
| | 村田 | 14 | 3 |
| | 鈴木 | 10 | 1 |
| | 山村 | 6 | 0 |
| | 川島 | 8 | 4 |
| | 西窪 | 3 | 0 |
| | 中村 | 0 | 0 |
| | 飯島 | 1 | 0 |
| | 吉近 | 0 | 0 |

（審・近藤 日野）

| | 【湧永】 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 福井 | 1 | 0 |
| | 今井 | 0 | 0 |
| FP | 津川 | 8 | 4 |
| | 木野 | 7 | 1 |
| | 穂積 | 8 | 3 |
| | 戸田弟 | 8 | 4 |
| | 山本 | 7 | 3 |
| | 松本 | 8 | 6 |
| | 高橋 | 4 | 1 |
| | 藤本 | 1 | 0 |
| | 迫 | 0 | 0 |
| | 緒方 | 0 | 0 |

2253（4） PT （2）5412

○……10分3―3、好試合を予測させる滑り出しだったが、湧永はそのあと木野の好配球から巧みなゆさぶりで三景守備陣を乱し、後半2分まで連続10ゴール、一方的な展開に変った。

三景は後半10分すぎから佐々木村田がシャープなプレーをみせたものの、前半の劣勢を補うまでにはいたらなかった。

〔個人得点5傑（第2週まで）〕①蒲生（大同）28 ②佐藤（本田）25 ③村田（三景）、田上（本田）各20 ⑤中井（大同）19

## 男子第3週

7月1日市川市民体育館で2試合、2日山梨県体育館、静岡県営草薙体育館、3日水海道二高体育館で各1試合の計5試合が行われた。

▽第1日・市川（観衆六百）

大崎電気 20（13―7、7―12）19 日新製鋼

| | 【日新】 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 三田 | 0 | 0 |
| | 佐野 | 0 | 0 |
| FP | 吹上 | 2 | 2 |
| | 下茂 | 13 | 4 |
| | 泉 | 2 | 1 |
| | 脇若 | 3 | 1 |
| | 大庭 | 7 | 3 |
| | 徳田 | 10 | 4 |
| | 関本 | 5 | 1 |
| | 越智 | 7 | 3 |
| | 吉田 | 1 | 0 |
| | 村川 | 0 | 0 |

（審・千野 斉藤）

| | 【大崎】 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 原田 | 0 | 0 |
| | 岡部 | 0 | 0 |
| FP | 斉藤 | 7 | 3 |
| | 能波 | 8 | 4 |
| | 井手 | 12 | 7 |
| | 橋本 | 3 | 2 |
| | 椿原 | 5 | 1 |
| | 武藤 | 2 | 1 |
| | 佐藤 | 2 | 2 |
| | 新田 | 0 | 0 |
| | 佐伯 | 0 | 0 |
| | 坂口 | 0 | 0 |

2039（0） PT （2）5019

○……日新はなんとも拙い試合をした。後半2分14―7と優位に立ちながら、そのあと個人技だけをつなげて攻める大崎の反撃を許しあっという間に2点差とされた。

こうなると勢いは大崎のもの。特に井手が鮮やかな切りこみから一人で得点をあげ20分17―16と逆転した。日新は守りに全く鋭さがなく、追われはじめてから強気に打ちすぎて好機をつぶした。

大崎は残り35秒、ポストから佐藤が巧みに決めて決勝点。後半手固く守ったGK岡部のプレーが賞される。

## 蒲生13点のリーグ新

大同特殊鋼 37（22―7、15―8）15 大阪イーグルス

| | 【大阪】 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 本田 | 0 | 0 |
| | 広川 | 0 | 0 |
| FP | 高橋 | 4 | 1 |
| | 池本 | 7 | 3 |
| | 足羽 | 2 | 0 |
| | 橋本 | 7 | 3 |
| | 河原崎 | 3 | 1 |
| | 早川 | 8 | 3 |
| | 福井 | 8 | 4 |
| | 北居 | 2 | 0 |

（審・大塚 佐野）

| | 【大同】 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 柳川兄 | 1 | 0 |
| | 倉谷 | 0 | 0 |
| FP | 中井 | 6 | 3 |
| | 花輪 | 7 | 1 |
| | 蒲生 | 17 | 13 |
| | 松原 | 6 | 4 |
| | 大原 | 5 | 2 |
| | 中本 | 0 | 0 |
| | 藤中 | 8 | 6 |
| | 浦田 | 2 | 0 |
| | 柳川弟 | 13 | 8 |

3765（2） PT （0）4115

○……イーグルスは4分橋本のゴールで元気なスタートだったが、大同は9分5―1とあっさり主導権を奪い、その後も手をゆるめず圧倒の試合ぶりだった。

イーグルスは序盤、蒲生に高橋藤中に橋本を密着させるなど、なんとか一泡と工夫をこらしたが、大同の力の前には通じなかった。

なお、後半11分29秒停電で試合が4分ほど中断する珍事があった。

▽第2日・山梨（観衆千二百）

湧永薬品 30（15―9、15―2）11 大崎電気

| | 【大崎】 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 原田 | 0 | 0 |
| | 岡部 | 0 | 0 |
| FP | 佐藤 | 7 | 0 |
| | 井手 | 10 | 3 |
| | 橋本 | 0 | 0 |
| | 斉藤 | 8 | 4 |
| | 能波 | 5 | 1 |
| | 椿原 | 7 | 3 |
| | 武藤 | 2 | 0 |
| | 坂口 | 0 | 0 |
| | 佐伯 | 0 | 0 |
| | 新田 | 0 | 0 |

（審・斉藤 千野）

| | 【湧永】 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 福井 | 0 | 0 |
| | 今井 | 0 | 0 |
| FP | 津川 | 12 | 6 |
| | 穂積 | 10 | 4 |
| | 松本 | 7 | 4 |
| | 戸田政 | 6 | 4 |
| | 山本 | 11 | 5 |
| | 木野 | 9 | 6 |
| | 緒方 | 1 | 0 |
| | 高橋 | 2 | 0 |
| | 迫 | 1 | 1 |

3059（1） PT （0）3911

○……前年、大崎に手痛い1敗を喫し優勝を断念させられている湧永は慎重にスタート、特にディフェンスの動きは堅実そのものだった。このため大崎は6分初得点以

後、20分近く無得点。津川、山本穂積らが多彩な攻めを見せる湧永に対すべくもなく、前半25分で14－1とメドがついた。

## イーグルス、一気に主導権

▽同・静岡（観衆八百）
大阪イーグルス 19（10－11、9－3）14 三菱レイヨン大竹

【三菱】

| | 選手 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 藤本 | 0 | 0 |
| GK | 中嶋 | 0 | 0 |
| FP | 武田 | 5 | 1 |
| FP | 大江 | 9 | 5 |
| FP | 大林 | 11 | 4 |
| FP | 岡村 | 5 | 0 |
| FP | 岩本 | 4 | 2 |
| FP | 善本 | 2 | 2 |
| FP | 田中 | 1 | 0 |
| FP | 沖重 | 0 | 0 |

（審・大橋、中根）

【大阪】

| | 選手 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 本田 | 0 | 0 |
| GK | 広川 | 0 | 0 |
| FP | 高橋 | 9 | 5 |
| FP | 早川 | 16 | 2 |
| FP | 池本 | 3 | 1 |
| FP | 安達 | 6 | 2 |
| FP | 橋本 | 5 | 2 |
| FP | 河原崎 | 4 | 1 |
| FP | 福井 | 9 | 5 |
| FP | 足羽 | 3 | 1 |
| FP | 北居 | 2 | 0 |

1957（1） PT （1）3714

○……2点を先行された三菱は5分大林のゴールを口火に3点連取1点リードの状態をなかばすぎまで保っていたのだが、そのあと大阪の集中攻撃にあって主導権を奪われてしまった。

大阪は、相手の動きの鈍ったスキをすかさず突くあたり、さすがにベテラン揃い。

後半も巧みにペースを握り20分17－11、安全圏に入った。

大阪・高橋の動きがいちだんと光った。

▽第3日・水海道（観衆千二百）
湧永薬品 31（19－7、12－2）9 三菱レイヨン大竹

【三菱】

| | 選手 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 藤本 | 0 | 0 |
| GK | 中嶋 | 0 | 0 |
| FP | 善本 | 7 | 1 |
| FP | 岩本 | 8 | 1 |
| FP | 岡村 | 4 | 1 |
| FP | 重村 | 0 | 0 |
| FP | 大林 | 4 | 1 |
| FP | 大江 | 8 | 2 |
| FP | 武田 | 7 | 2 |
| FP | 末弘 | 0 | 0 |
| FP | 田中 | 1 | 0 |
| FP | 沖重 | 1 | 1 |

（審・山内、住尾）

【湧永】

| | 選手 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 今井 | 0 | 0 |
| GK | 福井 | 0 | 0 |
| FP | 津川 | 9 | 4 |
| FP | 穂積 | 9 | 3 |
| FP | 山本 | 13 | 7 |
| FP | 松木 | 6 | 4 |
| FP | 戸田 | 9 | 5 |
| FP | 高橋 | 2 | 2 |
| FP | 木野 | 7 | 5 |
| FP | 迫 | 0 | 0 |
| FP | 緒方 | 1 | 1 |

3156（1） PT （2）409

○……湧永は木野を中心とした豪快な攻撃でスタートから一方的な展開。三菱も大江を軸に頑張ったものの、湧永のシャープな守備陣を破ることができず、手の打ちようがなかった。

しかし、最後まで両チームとも活発な動きをつづけ、ハンドボールの町として知られる水海道のファンを充分楽しませた。

（個人得点5傑（第3週まで））①蒲生（大同）41 ②佐藤（本田）25 ③中井（大同）22 ④井手（大崎）21 ⑤大原（大同）、田上（本田）、村田（三景）20

## 男子第4週

第1日の7月9日四日市市体育館、岐阜県民体育館で各1試合、第2日の10日山梨県長坂高体育館で1試合の計3試合が行われた。

▽第1日・岐阜（観衆八百）
大崎電気 20（7－8、13－7）15 三菱レイヨン大竹

○……前半なかばからペースを握った大崎は後半12分18－13とし、楽な展開かとみえたが、そのあと三菱の大江、田中らに反撃をうけてたじたじとなり25分18－17と詰められた。

しかし、どうにか守りを固めて追加点を許さず、28分椿原のゴールで一息ついた。

【三菱】

| | 選手 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 藤本 | 0 | 0 |
| GK | 中嶋 | 0 | 0 |
| FP | 善本 | 3 | 1 |
| FP | 岩本 | 10 | 3 |
| FP | 岡村 | 4 | 1 |
| FP | 大林 | 12 | 3 |
| FP | 武田 | 1 | 0 |
| FP | 大江 | 14 | 6 |
| FP | 田中 | 1 | 1 |
| FP | 沖重 | 2 | 2 |

（審・藤本、吉田）

【大崎】

| | 選手 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 原田 | 0 | 0 |
| GK | 岡部 | 0 | 0 |
| FP | 佐藤 | 6 | 2 |
| FP | 井手 | 13 | 4 |
| FP | 能波 | 8 | 3 |
| FP | 椿原 | 8 | 4 |
| FP | 斉藤 | 6 | 5 |
| FP | 橋本 | 2 | 1 |
| FP | 佐伯 | 1 | 0 |
| FP | 家村 | 3 | 1 |
| FP | 新田 | 0 | 0 |
| FP | 坂口 | 0 | 0 |

2047（3） PT （1）4717

## 総合力で湧永優る

▽同・四日市（観衆千二百）
湧永薬品 17（9－6、8－3）9 本田技研鈴鹿

【本田】

| | 選手 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 柴田 | 0 | 0 |
| GK | 細野 | 0 | 0 |
| FP | 田上 | 4 | 0 |
| FP | 佐藤 | 19 | 5 |
| FP | 豊岡 | 2 | 1 |
| FP | 川上 | 0 | 0 |
| FP | 矢野 | 1 | 0 |
| FP | 西田 | 4 | 2 |
| FP | 勝田 | 2 | 1 |
| FP | 高木 | 0 | 0 |
| FP | 嶋林 | 0 | 0 |
| FP | 松永 | 0 | 0 |

（審・奥村、稲石）

【湧永】

| | 選手 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 今井 | 0 | 0 |
| GK | 福井 | 0 | 0 |
| FP | 山本 | 8 | 2 |
| FP | 戸田政 | 5 | 2 |
| FP | 松本 | 5 | 3 |
| FP | 穂積 | 13 | 5 |
| FP | 木野 | 3 | 3 |
| FP | 津川 | 7 | 2 |
| FP | 迫 | 0 | 0 |
| FP | 高橋 | 1 | 0 |
| FP | 緒方 | 0 | 0 |
| FP | 市原 | 0 | 0 |

1742（1） PT （0）329

○……佐藤、田上に頼る本田に対し、湧永は全員がポイントゲッター。しかもそれを動かす木野が、ますます〝支配役〟として巧味を増し、増半25分早くも8－3と差が開いた。

本田は5分2－0と元気のよい飛び出しだったが、そのあとの攻めが単調で、あっさり主導権を手放した。

## 日新、三景に打ち勝つ

▽第2日・長坂（観衆八百）
日新製鋼 31（15－11、16－8）19 三景

【三景】

| | 選手 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 佐藤 | 0 | 0 |
| GK | 小林 | 0 | 0 |
| FP | 佐々木 | 5 | 0 |
| FP | 村田 | 15 | 7 |
| FP | 中馬 | 8 | 5 |
| FP | 西窪 | 2 | 1 |
| FP | 山村 | 9 | 2 |
| FP | 川島 | 6 | 3 |
| FP | 鈴木 | 2 | 1 |
| FP | 中村 | 0 | 0 |
| FP | 内藤 | 3 | 0 |
| FP | 飯島 | 1 | 0 |

（審・後藤、槇田）

【新日】

| | 選手 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 三田 | 0 | 0 |
| GK | 佐野 | 0 | 0 |
| FP | 泉 | 2 | 1 |
| FP | 下茂 | 11 | 4 |
| FP | 脇若 | 5 | 4 |
| FP | 越智 | 7 | 5 |
| FP | 徳田 | 12 | 8 |
| FP | 大庭 | 12 | 6 |
| FP | 松木 | 1 | 1 |
| FP | 村川 | 1 | 1 |
| FP | 関本 | 1 | 1 |
| FP | 吉田 | 0 | 0 |

3152（3） PT （2）5119

○……前半18分8－7の乱戦から日新は三景の単調な攻めと凡ミスをついて越智、徳田がびしびしと速攻を決め、前半でダブルスコアという予想外の展開。

日新の猛攻は後半もつづき、三景は完全にのまれてしまった。波にのった時の日新の強さ、崩れだすと立ち直れない三景のもろさがくっきりと現れた試合。

【個人得点5傑（第4週まで）】①蒲生（大同）41 ②佐藤（本田）30 ③村田（三景）27 ④井手（大崎）、徳田（日新）25

## 男子第5週（最終週）

第1日の7月16日豊橋市体育館で2試合、京都府立体育館で1試合、第2日（最終日）の17日更埴市体育館で2試合、蒲郡市体育館、石川県体育館で各1試合の計7試合が行われ、前期全日程を終えた。

▽第1日・豊橋（観衆千五百）
三景 25（11－13、14－8）21 大阪イーグルス

【大阪】

| | 選手 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 本田 | 0 | 0 |
| FP | 高橋 | 10 | 7 |
| FP | 福井 | 12 | 3 |
| FP | 早川 | 3 | 0 |
| FP | 池本 | 17 | 7 |
| FP | 橋本 | 4 | 1 |
| FP | 河原崎 | 8 | 3 |
| FP | 安達 | 1 | 0 |
| FP | 足羽 | 0 | 0 |
| FP | 北居 | 0 | 0 |
| FP | 山口 | 0 | 0 |

（審・岡前、佐分）

【三景】

| | 選手 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 佐藤 | 0 | 0 |
| GK | 小林 | 0 | 0 |
| FP | 中馬 | 14 | 7 |
| FP | 村田 | 7 | 1 |
| FP | 西窪 | 9 | 4 |
| FP | 山村 | 7 | 3 |
| FP | 川島 | 2 | 1 |
| FP | 佐々木 | 11 | 5 |
| FP | 鈴木 | 8 | 4 |
| FP | 中村 | 1 | 0 |
| FP | 内藤 | 0 | 0 |
| FP | 吉近 | 0 | 0 |

2559（3） PT （0）5521

○……日新戦を落とした三景が奮起、3位に希望をつなぐ1勝をあげた。

三景は前半、中馬、西窪の鋭い動きでポイントをあげ、だんぜん優勢だったが、後半約16分間はPTで2点を加えただけ、このため大阪の反撃をくい、18分18－16と詰め寄られた。しかし、このあと再び中馬の活躍で辛勝。

大同特殊鋼 25（15－8、10－7）15 本田技研鈴鹿

【大同】

| | 選手 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 柳川清 | 0 | 0 |
| GK | 倉谷 | 0 | 0 |
| FP | 中井 | 6 | 1 |
| FP | 花輪 | 6 | 4 |
| FP | 蒲生 | 6 | 6 |
| FP | 大原 | 7 | 4 |
| FP | 柳川実 | 6 | 4 |
| FP | 松原 | 5 | 3 |
| FP | 藤中 | 7 | 2 |
| FP | 中本 | 1 | 1 |
| FP | 浦田 | 1 | 0 |

（審・鈴木、大橋）

【本田】

| | 選手 | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 柴田 | 0 | 0 |
| GK | 細野 | 0 | 0 |
| FP | 田上 | 8 | 2 |
| FP | 佐藤 | 19 | 8 |
| FP | 西田 | 2 | 0 |
| FP | 矢野 | 7 | 2 |
| FP | 豊岡 | 1 | 0 |
| FP | 川上 | 2 | 2 |
| FP | 高木 | 2 | 1 |
| FP | 松永 | 0 | 0 |
| FP | 嶋林 | 0 | 0 |
| FP | 勝田 | 2 | 0 |

1533（0） PT （0）4525

○……本田は前半、佐藤のシュート力でどうにか対抗したが、後半になると総合力が歴ぜん。15分18—9と大差がついた。

▽同・京都（観衆千二百）

湧永薬品 27（13—3、14—7）10 日新製鋼

| 得 | S | 【日新】 | |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 三田 | GK |
| 0 | 0 | 佐野 | GK |
| 2 | 5 | 泉 | FP |
| 1 | 3 | 脇若 | FP |
| 0 | 6 | 大庭 | FP |
| 3 | 9 | 下茂 | FP |
| 2 | 5 | 徳田 | FP |
| 0 | 6 | 関本 | FP |
| 0 | 1 | 村田 | FP |
| 1 | 1 | 松木 | FP |
| 1 | 2 | 吉田 | FP |
| 0 | 0 | 湯中 | FP |

| 得 | S | 【湧永】 | |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 今井 | GK |
| 0 | 0 | 福井 | GK |
| 2 | 5 | 山本 | FP |
| 4 | 5 | 松本 | FP |
| 3 | 4 | 戸田政 | FP |
| 4 | 11 | 津川 | FP |
| 5 | 8 | 穂積 | FP |
| 4 | 8 | 木野 | FP |
| 3 | 3 | 高橋 | FP |
| 1 | 1 | 緒方 | FP |
| 1 | 3 | 藤本 | FP |
| 0 | 0 | 迫 | FP |

（審・吉田）

2748（2）PT（1）3810

○……明日の大同戦を前にした湧永は気力充実、10分まで日新の20回を越す攻撃を固い守りではね返す一方、14秒木野のゴールを口火に4点をあげ、順調なすべり出し

その後も攻守にまったくソツなくプレーして、日新は後半15分すぎ、どうにか攻撃をまとめて10点台に乗せたにすぎなかった。

**日本リーグ男子前期成績**

| | 湧 | 同 | 三 | イ | 本 | 崎 | 日 | 菱 | P | 総得点 | 総失点 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①湧永薬品 | … | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 14 | 163 | 77 |
| ②大同特鋼 | ● | … | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 12 | 191 | 103 |
| ③三景 | ● | ● | … | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | 8 | 136 | 150 |
| ③イーグル | ● | ● | ● | … | ○ | ○ | ○ | ○ | 8 | 123 | 139 |
| ⑤本田技研 | ● | ● | ● | ● | … | ○ | ○ | ○ | 6 | 105 | 120 |
| ⑥大崎電気 | ● | ● | ● | ● | ● | … | ○ | ○ | 4 | 111 | 149 |
| ⑥日新製鋼 | ● | ● | ○ | ● | ● | ● | … | ○ | 4 | 126 | 150 |
| ⑧三菱レ | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | … | 0 | 86 | 153 |

（注）前期終了時の公式順位は特に発表されないため，同勝ち点は同順位とした。

## 湧永、終盤に底力示す

▽第2日＝最終日・蒲郡（観衆千五百）

湧永薬品 19（8—7、11—10）17 大同特殊鋼

| 得 | S | 【大同】 | |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 柳川清 | GK |
| 0 | 0 | 倉谷 | GK |
| 4 | 10 | 藤中 | FP |
| 2 | 4 | 中井 | FP |
| 1 | 1 | 松原 | FP |
| 3 | 6 | 花輪 | FP |
| 1 | 1 | 柳川実 | FP |
| 4 | 14 | 蒲生 | FP |
| 0 | 0 | 中本 | FP |
| 1 | 1 | 大原 | FP |
| 1 | 2 | 浦田 | FP |

| 得 | S | 【湧永】 | |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 福井 | GK |
| 0 | 0 | 今井 | GK |
| 3 | 5 | 木野 | FP |
| 6 | 10 | 穂積 | FP |
| 4 | 7 | 山本 | FP |
| 1 | 7 | 津川 | FP |
| 1 | 5 | 松本 | FP |
| 3 | 6 | 戸田政 | FP |
| 1 | 1 | 高橋 | FP |
| 0 | 0 | 緒方 | FP |
| 0 | 0 | 藤本 | FP |
| 0 | 0 | 迫 | FP |

（審・丸岡）

1941（2）PT（1）3917

○……残り3分17—17と10回目のタイスコア。このあと湧永が28分PT（高橋）、29分5秒穂積で19—17、全勝でUターンを決めた。

国際的実力といわれる両者の対決にふさわしく、秀れた個人技をチームプレーにまとめ、白熱したが、湧永がわずかに押し気味、後半17分14—10と点差をあけた。

しかし大同も強い。18分から5分足らずの間に逆転をやってのけた。湧永ののぞかせた小さな乱れをついて藤中、蒲生、浦田らがゴール19分14—14、さらに21分蒲生22分松原で一気に16—14と抜き返したのである。

湧永は23分木野、25分戸田政（同点）、26分山本と再び波にのり17—16とし、期待にたがわぬエキサイティングな場面の連続、27分大同・大原が同点シュートを決めると場内のムードは最高潮に達した。

両チーム死力をつくした一戦でさすが、といえる内容だった。

## イーグルス勝つ、日新粘れず

▽同・金沢（観衆千五百）

大阪イーグルス 23（9—8、14—8）16 日新製鋼

| 得 | S | 【日新】 | |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 三田 | GK |
| 0 | 0 | 佐野 | GK |
| 0 | 3 | 泉 | FP |
| 0 | 0 | 村川 | FP |
| 0 | 1 | 吹上 | FP |
| 4 | 15 | 下茂 | FP |
| 2 | 4 | 脇若 | FP |
| 0 | 5 | 越智 | FP |
| 4 | 9 | 大庭 | FP |
| 2 | 3 | 関本 | FP |
| 4 | 8 | 徳田 | FP |
| 0 | 0 | 吉田 | FP |

| 得 | S | 【大阪】 | |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 本田 | GK |
| 7 | 12 | 福井 | FP |
| 4 | 4 | 早川 | FP |
| 1 | 3 | 河原崎 | FP |
| 3 | 5 | 高橋 | FP |
| 6 | 14 | 池本 | FP |
| 1 | 5 | 安達 | FP |
| 1 | 2 | 橋本 | FP |
| 0 | 1 | 足羽 | FP |
| 0 | 0 | 北居 | FP |
| 0 | 0 | 山口 | FP |

（審・若山・村井）

2346（0）PT（1）4816

○……イーグルスが福井の切れ味鋭いシュートで得点すれば、日新も大庭、徳田の巧技で応酬。後半5分までせり合いがつづいたが、このあたりから日新は弱点である守りに粘りが見られなくなり、早川、池本ら巧者揃いのイーグルスに攻めこまれた。

15分18—12と放したイーグルスはスローペースに日新を引きこみみごとに勝ちこしで前期をしめくくった。

## 三景、三菱レをかわす

▽同・更殖（観衆一千）

三景 21（12—7、9—7）14 三菱レイヨン大竹

| 得 | S | 【三菱】 | |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 藤木 | GK |
| 0 | 0 | 中嶋 | GK |
| 7 | 17 | 大江 | GK |
| 1 | 5 | 武田 | GK |
| 1 | 4 | 大林 | GK |
| 3 | 6 | 善木 | GK |
| 2 | 6 | 岩本 | GK |
| 0 | 0 | 岡村 | GK |
| 0 | 0 | 田中 | GK |
| 0 | 1 | 沖重 | GK |

| 得 | S | 【三景】 | |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 佐藤 | GK |
| 0 | 0 | 小林 | GK |
| 4 | 12 | 村田 | |
| 2 | 9 | 西窪 | |
| 3 | 7 | 佐々木 | |
| 2 | 5 | 川島 | |
| 3 | 5 | 山村 | |
| 4 | 8 | 中馬 | |
| 3 | 7 | 鈴木 | |
| 0 | 0 | 中村 | |
| 0 | 0 | 内藤 | |
| 0 | 0 | 吉近 | |

（審・柳沢・加藤）

2153（1）PT（2）3914

## 本田、大崎を逆転で

本田技研鈴鹿 18（6—10、12—3）13 大崎電気

| 得 | S | 【大崎】 | |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 原田 | GK |
| 0 | 0 | 岡部 | GK |
| 5 | 13 | 井手 | FP |
| 3 | 17 | 斉藤 | FP |
| 0 | 2 | 佐藤 | FP |
| 2 | 7 | 能波 | FP |
| 2 | 2 | 椿原 | FP |
| 0 | 2 | 橋本 | FP |
| 1 | 2 | 家村 | FP |
| 0 | 1 | 坂口 | FP |
| 0 | 0 | 佐伯 | FP |
| 0 | 0 | 新田 | FP |

| 得 | S | 【本田】 | |
|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 柴田 | GK |
| 0 | 0 | 細野 | GK |
| 5 | 10 | 田上 | FP |
| 7 | 14 | 佐藤 | FP |
| 5 | 8 | 喜井 | FP |
| 0 | 2 | 豊岡 | FP |
| 0 | 4 | 矢野 | FP |
| 1 | 2 | 勝田 | FP |
| 0 | 0 | 西田 | FP |
| 0 | 0 | 高木 | FP |
| 0 | 0 | 川上 | FP |
| 0 | 0 | 松永 | FP |

（審・山下・高橋）

1840（2）PT（0）4613

**個人得点15傑（前期）**

①蒲生（大同）51
②佐藤（本田）45
③村田（三景）32
④徳田（日新）31
④大江（三菱）31
⑥井手（大崎）30
⑦福井（大阪）29
⑦下茂（日新）29
⑨穂積（湧永）28
⑩田上（本田）27
⑪山本（湧永）26
⑪池本（大阪）26
⑬津川（湧永）中馬（三景）ら7選手が25得点

## ブラザー，ジャスコ勝点12で並ぶ

予想どおりの混戦模様。ブラザー工業(愛知)，ジャスコ(三重)が同勝ち点（12）で並びそのあと僅差で日本ビクター(茨城)，立石電機（熊本）が追う。第2回日本ハンドボールリーグの女子前期（28試合）は毎回首位の入れ替るもつれた展開で，後期（10月9日開幕）になだれこむこととなった。

好調な4強に対し，前年大活躍した東京重機（東京）は1勝をあげたにとどまり，期待の日立栃木（栃木）も波に乗り切れなかった。

## 4強伯仲、迫う立石、ビクター

# 日立（5敗）調子の波つかめず

**女子 第2週**

6月25日広島県立体育館、熊本市体育館、26日熊本市体育館、山口県立体育館、福岡市民体育館で各1試合の計5試合が行われた。

▽第1日・広島

日立栃木（栃木）16（11－2 5－1）3 東京重機（東京）

| 得 | S | 【日立】 | | 【重機】 | S | 得 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 粂谷 | GK | 佐久間 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 高橋 | GK | | | |
| 1 | 1 | 山井 | FP | 鈴木 | 3 | 1 |
| 2 | 3 | 吉田 | FP | 折口 | 3 | 1 |
| 2 | 2 | 小根沢 | FP | 古谷 | 2 | 0 |
| 4 | 6 | 荒木 | FP | 宮下 | 1 | 1 |
| 2 | 3 | 田村 | FP | 寄田 | 1 | 0 |
| 4 | 8 | 島田 | FP | 寺田 | 0 | 0 |
| 0 | 1 | 大輪 | FP | 横山 | 6 | 0 |
| 1 | 2 | 山戸 | FP | 細谷 | 2 | 0 |
| 0 | 1 | 水上 | FP | 沖山 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 鈴井 | FP | | | |
| 16 | 27 | （1） | PT | （1） | 18 | 3 |

（審・平田 荒谷）

○……日立の成長が目立つ一戦だった。早いパスワークと脚力で当りのない重機ディフェンスを崩し16分8－1と大差、後半は疲れからか好機を逃す場面もあったが、まず順調な試合ぶりをみせた。

重機は攻撃に決め手がないばかりか、守りも迫力に欠け完敗。

▽同・熊本

立石電機（熊本）19（12－2 7－3）5 大和銀行（大阪）

| 得 | S | 【立石】 | | 【大和】 | S | 得 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 和田 | GK | 中尾 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 丸山 | GK | 丸山 | 0 | 0 |
| 1 | 5 | 篠田 | FP | 富家 | 7 | 0 |
| 2 | 2 | 山下恵 | FP | 増永 | 4 | 1 |
| 3 | 6 | 平下 | FP | 西田 | 4 | 3 |
| 5 | 11 | 紀野 | FP | 宮木 | 7 | 0 |
| 0 | 2 | 林 | FP | 岡村 | 2 | 1 |
| 3 | 6 | 池渕 | FP | 清水 | 0 | 0 |
| 3 | 5 | 桑原 | FP | 義川 | 0 | 0 |
| 1 | 3 | 橋ノ口 | FP | 内海 | 1 | 0 |
| 0 | 1 | 姫野 | FP | 楊枝 | 0 | 0 |
| 1 | 1 | 羽田 | FP | 中武 | 1 | 0 |
| 19 | 42 | （3） | PT | （0） | 26 | 5 |

（審・蒲山 山本）

○……立石は大和のミスから速攻機をつかみ、15分4－0。そのあとポストから2点を返されたが、危気はなく、20分以降の好機を活かして、粘ろうとする大和を突き放した。

大和も、いい形になる場面があったが立石GK和田の老巧なプレーに止められてしまった。

### 紀野一人で8点も実らず

▽第2日・熊本

ジャスコ（三重）12（8－5 4－4）9 立石電機

| 得 | S | 【ジャ】 | | 【立石】 | S | 得 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 久保 | GK | 和田 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 山本 | GK | 丸山 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 平田 | FP | 山下恵 | 2 | 1 |
| 4 | 12 | 松下 | FP | 紀野 | 15 | 8 |
| 0 | 1 | 林 | FP | 篠田 | 6 | 0 |
| 2 | 5 | 金田 | FP | 平下 | 3 | 0 |
| 2 | 7 | 鈴木 | FP | 池渕 | 3 | 0 |
| 2 | 6 | 河田 | FP | 林 | 3 | 0 |
| 0 | 0 | 笠 | FP | 橋ノ口 | 0 | 0 |
| 2 | 8 | 若田 | FP | 桑原 | 1 | 0 |
| 0 | 0 | 横山 | FP | 姫野 | 1 | 0 |
| 0 | 1 | 辻本 | FP | 羽立 | 1 | 0 |
| 12 | 40 | （2） | PT | （6） | 35 | 9 |

（審・蒲山 山本）

○……優勝戦線に響くカードらしく、序盤10分間は3－3と互角だったが、ジャスコは13分松下の自陣から射った超ロングシュートが決まって波にのり鈴木、河田の速攻やPT2本などで18分7－4。さらに後半開始早々若田が2点連取して10－5としたのが大きかった。

立石はポイント源が紀野一人に片寄りすぎ、ジャスコの固い守りを攻め崩すだけの切れ味がなかった。

立石の地元紙である「熊本日々」は、この試合を『得点差以上に実力の開きを感じさせた』と評した。

▽同・山口

日本ビクター（茨城）21（12－2 9－2）4 東京重機

| 得 | S | 【日ビ】 | | 【重機】 | S | 得 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 鈴木 | GK | 佐久間 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 塙 | GK | | | |
| 3 | 4 | 蓮見 | FP | 鈴木 | 4 | 2 |
| 7 | 14 | 加藤 | FP | 折口 | 8 | 0 |
| 2 | 6 | 穂積 | FP | 古谷 | 7 | 0 |
| 6 | 9 | 小島 | FP | 宮下 | 0 | 0 |
| 2 | 4 | 斉藤ゆ | FP | 寄田 | 3 | 1 |
| 1 | 2 | 染谷 | FP | 横山 | 6 | 0 |
| 0 | 3 | 池田 | FP | 細谷 | 6 | 1 |
| 0 | 3 | 藤原 | FP | 沖山 | 0 | 0 |
| 0 | 1 | 伊藤 | FP | | | |
| 0 | 2 | 江橋 | FP | | | |
| 21 | 48 | （6） | PT | （0） | 34 | 4 |

（審・岡村 横瀬）

○……初登場のビクターは20秒と4分蓮見の巧技で先制、その後もスピードにあふれた攻撃と、小島の冷静な〝PT力〟で一方的に点差を開き、優勝候補の貫録をみせた。

重機は13分すぎに連続ゴール、2－5とした以外は、ほとんど好機がなく、後半、新人主体のビクターとも亘りあうことなく敗退した。

ビクター小島のPTによる6得点はリーグ新。また17点差もリーグ新である。

### 大崎の逃げ切り成功

▽同・福岡

大崎電気（埼玉）9（5－4 4－3）7 日立栃木

| 得 | S | 【大崎】 | | 【日立】 | S | 得 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 中島 | GK | 粂谷 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 藤村 | GK | 高橋 | 0 | 0 |
| 1 | 1 | 中村 | FP | 山井 | 1 | 0 |
| 1 | 2 | 席定 | FP | 吉田 | 7 | 1 |
| 2 | 9 | 大場 | FP | 小根沢 | 2 | 1 |
| 2 | 5 | 深堀 | FP | 荒木 | 4 | 2 |
| 1 | 14 | 西 | FP | 田村 | 3 | 1 |
| 0 | 0 | 工藤 | FP | 大輪 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 内野 | FP | 島田 | 14 | 2 |
| 0 | 0 | 佐々木 | FP | 水上 | 0 | 0 |
| 2 | 5 | 陽田 | FP | 山戸 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 小笠原 | FP | 鈴井 | 0 | 0 |
| 9 | 36 | （1） | PT | （2） | 31 | 7 |

（審・野村 福田）

○……日立は15分のPTで4－2とリード、ペースを握るかにみえたが、このあと動きが鈍り、大崎に3点を奪われ、追う立ち場に代った。大崎は後半5分6－6とタイにされたが、大きく崩れず、13分陽田、16分大場で優位を保ち、18分田村に1点を返されたが、24分ダメ押し点をあげ逃げ切った。

（個人得点5傑（第2週まで））①紀野（立石）16 ②島田（日立）13 ③荒木（日立）11 ④松下（ジャ）9 ⑤宮平（ブエ）8

**女子 第3週**

7月1日市川市民体育館で1試合、2日静岡県草薙体育館で2

試合、山梨県体育館で1試合、3日水海道二高体育館で1試合の計5試合が行われた。

▽第1日・市川

ジャスコ 15（5―0、10―2）2 大崎電気

| 得 | S | 【ジャ】 | | 【大崎】 | S | 得 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 久保 | GK | 中島 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 山本 | GK | 藤村 | 0 | 0 |
| 2 | 9 | 松下 | FP | 中村 | 4 | 1 |
| 5 | 10 | 河田 | FP | 席定 | 6 | 1 |
| 4 | 7 | 鈴木 | FP | 工藤 | 4 | 0 |
| 0 | 1 | 林 | FP | 内野 | 0 | 0 |
| 1 | 1 | 平田 | FP | 大場 | 15 | 0 |
| 0 | 6 | 若田 | FP | 深堀 | 12 | 0 |
| 0 | 0 | 笠 | FP | 佐々木 | 1 | 0 |
| 0 | 1 | 横山 | FP | 陽田 | 7 | 0 |
| 1 | 3 | 金田 | FP | 小笠原 | 0 | 0 |
| 2 | 2 | 辻本 | FP | | | |
| 15 | 40 | (1) | PT | (0) | 49 | 2 |

（審・佐分、大塚）

○……GK久保の一人舞台だった。攻めては大たんなパスアウトで得点機を開き、守っては後半12分まで36本のシュート(含むゴール外)を無得点に捌いた。

FP陣も松下の軽妙な配球と河田、鈴木らの好シュートで好調、終盤には新人・辻本が連続2ゴールするなど気勢をあげた。

大崎は全般に力強さがなく、後半12分30秒が初得点というのでは完敗もしかたなかった。

## ブラザー、立石に攻め勝つ

▽第2日・静岡

ブラザー工業 10（5―3、5―3）6 立石電機

○……波にのっているブラザーが3連勝を飾った。

勝因は守りの強さ。前半は出足のよさで立石の攻撃を16分間完封

| 得 | S | 【ブ工】 | | 【立石】 | S | 得 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 山本 | GK | 和田 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 屋比久 | GK | | | |
| 2 | 9 | 宮平 | FP | 篠田 | 12 | 1 |
| 3 | 7 | 小森 | FP | 山下恵 | 2 | 0 |
| 1 | 3 | 山中 | FP | 平下 | 2 | 1 |
| 2 | 2 | 植田 | FP | 紀野 | 9 | 3 |
| 1 | 3 | 中川 | FP | 林 | 0 | 0 |
| 1 | 1 | 川村 | FP | 池渕 | 3 | 1 |
| 0 | 0 | 岩井 | FP | 橋ノ口 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 則武 | FP | 桑原 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 宮本 | FP | 姫野 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 岡山 | FP | 羽立 | 0 | 0 |
| 10 | 25 | (1) | PT | (1) | 28 | 6 |

（審・吉田、西川）

後半は、素早い帰陣で相手の速攻を食いとめた。

守りがよければ、当然、攻撃も好テンポ。小森、宮平、川村らのポイントで優位に立ち、後半12分8―6と迫られた場面も落ち着いてそのあとの立石の反撃を断ち切り、20分小森、23分植田がゴールを突き放した。

昨年までなら2点差の場面でブラザーは浮足立ち優位を手放してしまっただろうし、一方、立石はたたみかけてペースを奪いとったにちがいない。

そういかなかったところに今季の両者の力がのぞける。

## ビクターあっさり主導権

▽同

日本ビクター 22（9―4、13―5）9 大崎電気

○……体力、個人技に優るビクターは前半10分1―2の劣勢をあっという間に挽回、20分7―4とリード、そのあとは一方的に大崎を攻めまくった。

| 得 | S | 【日ビ】 | | 【大崎】 | S | 得 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 鈴木 | GK | 中島 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 斉藤ま | GK | 藤村 | 0 | 0 |
| 0 | 1 | 蓮見 | FP | 中村 | 1 | 1 |
| 3 | 6 | 加藤 | FP | 席定 | 5 | 0 |
| 6 | 10 | 穂積 | FP | 工藤 | 2 | 0 |
| 7 | 8 | 小島 | FP | 内野 | 0 | 0 |
| 2 | 4 | 斉藤ゆ | FP | 大場 | 11 | 3 |
| 0 | 1 | 染谷 | FP | 深堀 | 15 | 5 |
| 1 | 2 | 池田 | FP | 佐々木 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 藤原 | FP | 陽田 | 4 | 0 |
| 2 | 6 | 岩城 | FP | 小笠原 | 0 | 0 |
| 1 | 2 | 寺村 | FP | | | |
| 22 | | (6) | PT | (2) | 38 | 9 |

（審・稲石、奥村）

大崎も深堀、大場らで得点するが散発的。

▽同・山梨

ジャスコ 13（7―2、6―4）6 大和銀行

| 得 | S | 【ジャ】 | | 【大和】 | S | 得 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 久保 | GK | 中尾 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 山本 | GK | 丸山 | 0 | 0 |
| 3 | 7 | 松下 | FP | 岡村 | 0 | 0 |
| 3 | 4 | 林 | FP | 清水 | 0 | 0 |
| 0 | 3 | 金田 | FP | 富家 | 6 | 1 |
| 1 | 2 | 鈴木 | FP | 増永 | 9 | 3 |
| 4 | 7 | 河田 | FP | 義川 | 1 | 1 |
| 0 | 0 | 平田 | FP | 内海 | 3 | 0 |
| 0 | 0 | 笠 | FP | 楊枝 | 1 | 0 |
| 0 | 3 | 若田 | FP | 西田 | 2 | 0 |
| 1 | 2 | 横山 | FP | 宮本 | 5 | 1 |
| 1 | 2 | 辻本 | FP | 片地 | 0 | 0 |
| 13 | 30 | (2) | PT | (0) | 27 | 6 |

（審・後藤、槇田）

○……ジャスコの強味はバラエティに富んだ選手を揃えていることだ。この日はその特色が立ち上りからよく出て、大和ディフェンスは完全にゆさぶられてしまった。

大和は新進らしいプレーで、1点でも差をつめようと健闘したが後半17分5―10まで。終盤は再び力の差をみせつけられた。

## ブラザー、痛いPT失敗

▽第3日・水海道

日本ビクター 10（6―2、4―3）5 ブラザー工業

| 得 | S | 【日ビ】 | | 【ブ工】 | S | 得 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 鈴木 | GK | 山本 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 塙 | GK | 屋比久 | 0 | 0 |
| 1 | 5 | 蓮見 | FP | 山中 | 6 | 1 |
| 4 | 11 | 加藤 | FP | 小森 | 12 | 3 |
| 0 | 10 | 穂積 | FP | 宮平 | 10 | 1 |
| 5 | 8 | 小島 | FP | 中川 | 2 | 0 |
| 0 | 2 | 斉藤ゆ | FP | 岩井 | 0 | 0 |
| 0 | 3 | 染谷 | FP | 植田 | 1 | 0 |
| 0 | 0 | 池田 | FP | 川村 | 1 | 0 |
| 0 | 0 | 藤原 | FP | 宮本 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 伊藤 | FP | 則武 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 江橋 | FP | 岡山 | 0 | 0 |
| 10 | 39 | (3) | PT | (0) | 32 | 5 |

（審・高橋、山下）

○……前期1位に影響する一戦。ビクターは2分加藤、6分PTで先行、ブラザーも10分宮平で追いかけたが、GK鈴木を要とするビクター守備陣の固い守りにあってこれまでのようなリズムをつかめない。

このスキをビクターは小島のPT2本を含む3得点の活躍と加藤でつき、前半は意外の大差。

後半滑り出しは互角だったがしだいにビクターが押し気味となり17分10―4。勝負がついた。

ビクターが攻守にそつなくプレーしたのに対し、ブラザーは最後までまとまらず、要所で得たPTを3本失敗したのも痛い。

このPTを決めていれば、勝機へつながる局面も予想できた。

〔個人得点5傑（第3週まで）〕①紀野（立石）19②小島（日ビ）18③加藤（日ビ）、松下（ジャ）14④河田（ジャ）、島田（日立）13

## 女子 第4週

第1日の7月9日四日市市体育館で2試合、第2日の10日岐阜県民体育館と山梨県長坂高体育館で各2試合の計6試合が行われた。

▽第1日・四日市

日本ビクター 11（7―3、4―2）5 大和銀行

| 得 | S | 【日ビ】 | | 【大和】 | S | 得 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 0 | 鈴木 | GK | 中尾 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 斉藤ま | GK | 丸山 | 0 | 0 |
| 1 | 2 | 染谷 | FP | 岡村 | 1 | 1 |
| 2 | 5 | 斉藤ゆ | FP | 中武 | 6 | 0 |
| 1 | 5 | 小島 | FP | 宮本 | 4 | 1 |
| 1 | 8 | 穂積 | FP | 富家 | 7 | 1 |
| 4 | 8 | 加藤 | FP | 増永 | 7 | 2 |
| 2 | 2 | 蓮見 | FP | 西田 | 1 | 0 |
| 0 | 0 | 藤原 | FP | 内海 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 伊藤 | FP | 義川 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 寺村 | FP | 片地 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 池田 | FP | 楊枝 | 0 | 0 |
| 11 | 30 | (1) | PT | (0) | 26 | 5 |

（審・鈴木、大橋）

○……序盤、大和が善戦。富家、増永、岡村のゴールで15分3―4とせりあった。しかし、しだいにビクターのスピードとフォーメーションプレーに押され、後半6分5―8のあとは1ゴールも奪えず敗れた。

ビクターも好調とはいえなかったが、守りで大和をしのぎ順当な勝利といえる。

## ジャスコ、辛くも勝つ

ジャスコ 8（1―2、7―3）5 東京重機

○……いきなり2―1とされたジャスコは、落ち着きのない試合ぶりで凡ミスや雑なシュートを繰り

| チーム | | 選手 | S | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 【重機】 | GK | 佐久間 | 0 | 0 |
| | FP | 鈴木 | 5 | 0 |
| | | 折口 | 8 | 3 |
| | | 古谷 | 4 | 1 |
| | | 宮下 | 1 | 0 |
| | | 寄田 | 0 | 0 |
| | | 横山 | 11 | 1 |
| | | 細谷 | 0 | 0 |
| | | 沖山 | 0 | 0 |
| 【ジャ】 | GK | 久保 | 0 | 0 |
| | | 山本 | 0 | 0 |
| | FP | 河田 | 8 | 1 |
| | | 金田 | 4 | 2 |
| | | 松下 | 9 | 1 |
| | | 鈴木 | 9 | 1 |
| | | 林 | 0 | 0 |
| | | 若田 | 9 | 2 |
| | | 平田 | 0 | 0 |
| | | 辻本 | 1 | 1 |
| | | 横山 | 0 | 0 |
| | | 笠 | 0 | 0 |

（審・吉田・西川）

840（2）PT（0）295

返し、前半は22分のPT1点だけというひどさ。

後半もいきなり折口に割られ、15分まで重機に先行を許した。

そのあと、どうにか松下から好パスが出るようになり若田が巧く走って同点、20分すぎ金田の連続ゴールで勝ちを決めた。

重機は、ジャスコがもたつく間に、もう2〜3点欲しかったが、それだけの力に欠けた。

### 重機、大和を振り切る

▽第2日・岐阜（観衆九百）

東京重機 13（8−2 5−5）7 大和銀行

| チーム | | 選手 | S | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 【大和】 | KG | 中尾 | 0 | 0 |
| | | 丸山 | 0 | 0 |
| | FP | 富家 | 7 | 0 |
| | | 増永 | 5 | 4 |
| | | 内海 | 2 | 0 |
| | | 宮本 | 10 | 2 |
| | | 義川 | 1 | 0 |
| | | 西田 | 1 | 0 |
| | | 中武 | 0 | 0 |
| | | 片地 | 0 | 0 |
| | | 岡村 | 1 | 1 |
| | | 東木 | 0 | 0 |
| 【重機】 | KG | 佐久間 | 0 | 0 |
| | FP | 折口 | 6 | 1 |
| | | 横山 | 7 | 2 |
| | | 古谷 | 3 | 2 |
| | | 細谷 | 6 | 5 |
| | | 鈴木 | 4 | 2 |
| | | 宮下 | 0 | 0 |
| | | 寄田 | 2 | 1 |
| | | 沖山 | 1 | 0 |

（審・奥村・稲石）

1329（2）PT（2）277

○……大和が4分増永のゴールで先行して始まったが、重機は鈴木がすぐに取り返し、さらに細谷、横山、折口らがたたみかけて18分6−1、主導権を握った。ここらは、同じ6敗同士でも重機の試合なれに一日の長があった。

後半、大和は守りは持ちなおしたものの、攻撃にテンポが出ず13分5−9まで。結局、前半の失点が負担となった。

### 松下活躍、ビクターに土

ジャスコ 9（4−1 5−5）6 日本ビクター

| チーム | | 選手 | S | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 【日ビ】 | GK | 鈴木 | 0 | 0 |
| | | 斉藤ま | 0 | 0 |
| | FP | 加藤 | 8 | 1 |
| | | 斉藤ゆ | 1 | 0 |
| | | 穂積 | 11 | 0 |
| | | 蓮見 | 0 | 0 |
| | | 小島 | 5 | 5 |
| | | 染谷 | 0 | 0 |
| | | 池田 | 3 | 0 |
| | | 藤原 | 0 | 0 |
| | | 伊藤 | 0 | 0 |
| | | 岩城 | 0 | 0 |
| 【ジャ】 | GK | 久保 | 0 | 0 |
| | | 山本 | 0 | 0 |
| | FP | 平田 | 0 | 0 |
| | | 鈴木 | 6 | 0 |
| | | 河田 | 5 | 1 |
| | | 松下 | 11 | 7 |
| | | 若田 | 1 | 0 |
| | | 金田 | 1 | 1 |
| | | 笠 | 0 | 0 |
| | | 横山 | 0 | 0 |
| | | 林 | 1 | 0 |
| | | 辻本 | 0 | 0 |

（審・吉田・西川）

925（2）PT（5）286

○……前日不調に悩んだジャスコが、見違えるばかりの攻守でビクターの連勝（昨年から8連勝）にストップをかけた。

1分河田、3分松下と両エースがビクターの守備網を破り、さらに松下が14分PT、18分とゴールを決める大活躍、GK久保の美技もつづいて4−0とした。

ビクターは動きが鈍く、後半4分3−4としたものの、得点はすべてPT(小島)。

ジャスコは、1点差に詰められても余裕があり6、7分松下で6−3と優位をキープ。22分ビクターはようやく加藤がシュートを決め6−8としたものの、ジャスコは23分金田で突き放した。

▽同・長坂

ブラザー工業 14（5−5 9−4）9 日立栃木

| チーム | | 選手 | S | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 【日立】 | GK | 条谷 | 0 | 0 |
| | | 高橋 | 0 | 0 |
| | FP | 山井 | 7 | 1 |
| | | 晴山 | 7 | 1 |
| | | 吉田 | 3 | 0 |
| | | 小根沢 | 2 | 1 |
| | | 荒木 | 6 | 4 |
| | | 島田 | 8 | 2 |
| | | 田村 | 0 | 0 |
| | | 大輪 | 0 | 0 |
| | | 山戸 | 0 | 0 |
| | | 鈴井 | 0 | 0 |
| 【ブエ】 | GK | 山本 | 0 | 0 |
| | | 屋比久 | 0 | 0 |
| | FP | 山中 | 11 | 4 |
| | | 小森 | 9 | 3 |
| | | 宮平 | 5 | 2 |
| | | 中川 | 2 | 0 |
| | | 岩井 | 4 | 3 |
| | | 植田 | 3 | 2 |
| | | 則武 | 1 | 0 |
| | | 平井 | 0 | 0 |
| | | 宮本 | 0 | 0 |
| | | 川村 | 0 | 0 |

（審・斉藤・千野）

1435（1）PT（4）339

○……日立はPT（荒木）を巧く活かして先手をとりつづけ、あるいはと思わせたが、後半7分7−7からブラザーのスピードある攻撃をうけて一気に攻め崩されてしまった。

ブラザーは、すっかりプレーに幅の出た小森がPTで8−7としたあと14分みごとなシュートをみせリード、そのあと宮平、山中らに好配球して得点機をつかみ、21分13−8と大勢を決めた。

立石電機 16（7−6 9−3）9 大崎電気

○……大崎・陽田が立ち上り6分間に3得点、このリードを巧く活かして、後半10分まで立石を苦しめた。

| チーム | | 選手 | S | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 【大崎】 | GK | 中嶋 | 0 | 0 |
| | | 藤村 | 0 | 0 |
| | FP | 中村 | 2 | 1 |
| | | 席定 | 4 | 0 |
| | | 工藤 | 2 | 0 |
| | | 内野 | 0 | 0 |
| | | 大場 | 7 | 2 |
| | | 深堀 | 8 | 3 |
| | | 陽田 | 5 | 3 |
| | | 西 | 0 | 0 |
| | | 佐々木 | 0 | 0 |
| | | 小笠原 | 0 | 0 |
| 【立石】 | GK | 和田 | 0 | 0 |
| | FP | 篠田 | 9 | 3 |
| | | 山下恵 | 6 | 3 |
| | | 平下 | 5 | 2 |
| | | 紀野 | 10 | 6 |
| | | 林 | 1 | 1 |
| | | 池渕 | 2 | 0 |
| | | 橋ノ口 | 0 | 0 |
| | | 桑原 | 2 | 1 |
| | | 姫野 | 1 | 0 |
| | | 羽田 | 0 | 0 |

（審・清水・小松）

1636（5）PT（1）289

しかし、5戦目でようやくチーム全体にリズムが戻ってきた立石は12分篠田、13分PTで12−9、終盤は新人・桑原の得点などで押しまくった。

【個人得点5傑（第4週まで）】①紀野（立石）25②小島（日ビ）24③松下（ジャ）22④加藤（日ビ）19⑤河田（ジャ）、荒木、島田（ともに日立）、増永（大和）15

## 女子第5週（最終週）

第1日の7月16日京都府立体育館で2試合、第2日の17日（最終日）蒲郡市体育館で2試合、石川県体育館、更殖市体育館で各1試合の計7試合が行われ、前期全日程を終えた。

▽第1日・京都

ブラザー工業 15（8−1 7−7）8 大崎電気

○……ブラザーが圧倒的な力の違いをみせた。

大崎がせり合えたのは5分1−2まで。そのあとはブラザー小森、岩井らのシュートが次々と決まり22分8−1、この間大崎は16本のシュートを失敗している。

後半も同じような展開で12分13−5、勝負がついた。

| チーム | | 選手 | S | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 【大崎】 | GK | 中島 | 0 | 0 |
| | | 藤村 | 0 | 0 |
| | FP | 大場 | 18 | 3 |
| | | 深堀 | 4 | 0 |
| | | 席定 | 6 | 0 |
| | | 中村 | 3 | 3 |
| | | 工藤 | 7 | 0 |
| | | 陽田 | 5 | 2 |
| | | 佐々木 | 0 | 0 |
| | | 小笠原 | 0 | 0 |
| | | 内藤 | 0 | 0 |
| | | 西 | 0 | 0 |
| 【ブエ】 | GK | 山本 | 0 | 0 |
| | | 屋比久 | 0 | 0 |
| | FP | 小森 | 13 | 6 |
| | | 中川 | 3 | 0 |
| | | 宮平 | 6 | 1 |
| | | 植田 | 5 | 2 |
| | | 山中 | 7 | 2 |
| | | 岩井 | 4 | 3 |
| | | 川村 | 0 | 0 |
| | | 平井 | 0 | 0 |
| | | 則武 | 1 | 1 |
| | | 宮本 | 0 | 0 |

（審・山本・望月）

1539（1）PT（0）438

立石電機 12（7−3 5−3）6 東京重機

○……大和戦で片目をあけた重機は全員の動きが滑らかとなり11分3−4と食い下って興味をもたせ

**日本リーグ女子前期成績**

| | ブ | ジ | ビ | 立 | 崎 | 日 | 重 | 大 | P | 総得点 | 総失点 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①ブラザー | … | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 12 | 88 | 58 |
| ①ジャスコ | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 12 | 81 | 47 |
| ③ビクター | ○ | ● | … | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | 10 | 89 | 46 |
| ③立石電機 | ● | ● | ○ | … | ○ | ○ | ○ | ○ | 10 | 81 | 57 |
| ⑤大崎電気 | ● | ● | ● | ● | … | ○ | ○ | ○ | 6 | 64 | 95 |
| ⑥日立栃木 | ● | ● | ● | ● | ● | … | ○ | ○ | 4 | 66 | 68 |
| ⑦東京重機 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | … | ○ | 2 | 48 | 95 |
| ⑧大和銀行 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | … | 0 | 47 | 98 |

（注）前期終了時の公式順位は特に発表されないため同勝ち点は同順位とした。

| 【重機】 | | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 佐久間 | 0 | 0 |
| FP | 横山 | 8 | 2 |
| | 折口 | 10 | 1 |
| | 鈴木 | 10 | 1 |
| | 古谷 | 3 | 0 |
| | 宮下 | 0 | 0 |
| | 寄田 | 2 | 0 |
| | 細谷 | 4 | 2 |
| | 沖山 | 0 | 0 |

（審・幸田 狩野）

| 【立石】 | | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 和田 | 0 | 0 |
| FP | 山下恵 | 3 | 1 |
| | 紀野 | 8 | 3 |
| | 池渕 | 9 | 2 |
| | 篠田 | 7 | 1 |
| | 平下 | 2 | 1 |
| | 林 | 1 | 0 |
| | 桑原 | 3 | 2 |
| | 姫野 | 0 | 0 |
| | 羽立 | 1 | 1 |
| | 橋ノ口 | 1 | 1 |

1236（0）PT（1）376

たが、そのあと約20分間単調に流れて無得点、立石は桑原の好シュートなどで4点をあげ後半7分9－3と安全圏に入った。

▽同・豊橋

日本ビクター 12（8－3、4－2）5 日立栃木

| 【日立】 | | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 桑谷 | 0 | 0 |
| | 高橋 | 0 | 0 |
| FP | 小根沢 | 3 | 2 |
| | 島田 | 11 | 0 |
| | 山井 | 3 | 2 |
| | 吉田 | 2 | 1 |
| | 荒木 | 2 | 0 |
| | 晴山 | 3 | 0 |
| | 田村 | 3 | 0 |
| | 大輪 | 1 | 0 |
| | 山戸 | 1 | 0 |
| | 鈴井 | 0 | 0 |

（審・奥村 稲石）

| 【日ビ】 | | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 鈴木 | 0 | 0 |
| | 斉藤ま | 0 | 0 |
| FP | 穂積 | 4 | 0 |
| | 蓮見 | 2 | 1 |
| | 加藤 | 2 | 1 |
| | 斉藤ゆ | 1 | 1 |
| | 小島 | 11 | 9 |
| | 池田 | 0 | 0 |
| | 染谷 | 2 | 0 |
| | 藤原 | 1 | 0 |
| | 江橋 | 0 | 0 |
| | 伊藤 | 1 | 0 |

1224（8）PT（0）295

○……ビクター・小島がPT8得点というリーグ新をマーク、日立を突き放した。

小島は後半22分フィールドゴールを決めており、1試合9得点もリーグ新である。

日立は立ちあがり10分山井の連続ゴールで先行、いいムードだったのだが、守りが荒く、PTをとられては失点という拙戦、その上島田がシュートコースを読まれて反撃の芽をつみとられた。

## キャリア不足の大和

▽第2日＝最終日・蒲郡

大崎電気 18（10－3、8－9）12 大和銀行

| 【大和】 | | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 中尾 | 0 | 0 |
| | 丸山 | 0 | 0 |
| FP | 西田 | 5 | 2 |
| | 宮本 | 2 | 2 |
| | 義川 | 3 | 1 |
| | 永増 | 5 | 2 |
| | 富家 | 0 | 0 |
| | 岡村 | 6 | 3 |
| | 東木 | 1 | 0 |
| | 中武 | 10 | 2 |
| | 内海 | 1 | 0 |
| | 楊枝 | 0 | 0 |

（審・鈴木 大城）

| 【大崎】 | | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 中島 | 0 | 0 |
| | 藤村 | 0 | 0 |
| FP | 中村 | 3 | 2 |
| | 席定 | 10 | 5 |
| | 工藤 | 5 | 1 |
| | 内野 | 1 | 1 |
| | 大場 | 8 | 5 |
| | 深堀 | 6 | 4 |
| | 佐々木 | 0 | 0 |
| | 陽田 | 3 | 0 |
| | 小笠原 | 0 | 0 |

1836（1）PT（0）3312

○……大和は5分岡村、10分西田で2－0の好スタートを切ったが大崎も10分をすぎてから動きがよくなり、大場の連続ゴールなどであっという間に形勢逆転、20分8－2とした。

大和はキャリア不足で、乱調になると、それを立てなおすチーム力がまだない。

## ブラザー首位決める快勝

ブラザー工業 22（11－3、11－6）9 東京重機

○……前期をトップで折り返そうというブラザーの気力が立ちあがりからはっきりと判り、重機はつけいるスキがなかった。

勝負は15分8－1と簡単にケリがついてしまい、重機は後半、横山のシュート力でなんとか点差をつめようとしたが、ブラザーの守りが固く思うように攻めこめなかった。

| 【重機】 | | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 佐久間 | 0 | 0 |
| FP | 折口 | 7 | 3 |
| | 細谷 | 4 | 1 |
| | 横山 | 9 | 4 |
| | 鈴木 | 2 | 0 |
| | 古谷 | 2 | 1 |
| | 寄田 | 0 | 0 |
| | 宮下 | 1 | 0 |
| | 沖山 | 0 | 0 |

（審・稲石 奥村）

| 【ブエ】 | | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 山本 | 0 | 0 |
| | 屋比久 | 0 | 0 |
| FP | 岩井 | 5 | 3 |
| | 山中 | 4 | 3 |
| | 宮平 | 8 | 5 |
| | 中川 | 5 | 2 |
| | 植田 | 7 | 3 |
| | 小森 | 7 | 5 |
| | 則武 | 2 | 1 |
| | 宮本 | 0 | 0 |
| | 平井 | 0 | 0 |
| | 川村 | 0 | 0 |

2238（4）PT（2）259

## 立石、優勝争いの権利確保

▽同・金沢

立石電機 9（5－2、4－5）7 日本ビクター

| 【日ビ】 | | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 鈴木 | 0 | 0 |
| | 塙 | 0 | 0 |
| FP | 加藤 | 3 | 2 |
| | 斉藤ゆ | 0 | 0 |
| | 穂積 | 5 | 1 |
| | 小島 | 3 | 2 |
| | 染谷 | 3 | 1 |
| | 池田 | 6 | 1 |
| | 蓮見 | 0 | 0 |
| | 藤原 | 0 | 0 |
| | 伊藤 | 0 | 0 |
| | 岩城 | 0 | 0 |

（審・望月 新村）

| 【立石】 | | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 和田 | 0 | 0 |
| FP | 篠田 | 10 | 3 |
| | 山下恵 | 2 | 1 |
| | 紀野 | 5 | 3 |
| | 池渕 | 6 | 0 |
| | 林 | 1 | 1 |
| | 平下 | 1 | 0 |
| | 橋ノ口 | 2 | 0 |
| | 桑原 | 1 | 1 |
| | 姫野 | 0 | 0 |
| | 羽立 | 1 | 0 |

929（3）PT（1）207

○……「勝てば優勝争いに残れる」（井監督）という立石は、前半山下の好リードとGK和田の好守で押し気味に試合を進め篠田の3ゴールとPT2本で先行、後半も巧くチャンスをものにして18分9－4。

ビクターは焦りからか加藤の強引な突っこみが目立つばかりで、プレーがまとまらず、残り5分からやや疲れののぞいた立石守備陣を染谷らがついて2点差としたものの、内容的には完敗だった。

## ジャスコ、善戦の日立降す

▽同・更殖

ジャスコ 15（11－7、4－2）9 日立栃木

| 【日立】 | | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 桑谷 | 0 | 0 |
| | 高橋 | 0 | 0 |
| FP | 吉田 | 5 | 1 |
| | 小根沢 | 0 | 0 |
| | 島田 | 6 | 1 |
| | 晴山 | 12 | 3 |
| | 荒木 | 6 | 2 |
| | 山井 | 2 | 1 |
| | 大輪 | 0 | 0 |
| | 山戸 | 0 | 0 |
| | 鈴井 | 0 | 0 |
| | 田村 | 2 | 1 |

（審・加藤 柳沢）

| 【ジャ】 | | S | 得 |
|---|---|---|---|
| GK | 久保 | 0 | 0 |
| | 山本 | 0 | 0 |
| FP | 金田 | 3 | 0 |
| | 若田 | 4 | 2 |
| | 河田 | 7 | 4 |
| | 平田 | 0 | 0 |
| | 松下 | 3 | 2 |
| | 鈴木 | 7 | 4 |
| | 笠 | 0 | 0 |
| | 林 | 5 | 3 |
| | 横山 | 1 | 0 |
| | 辻本 | 1 | 0 |

1531（3）PT（2）339

○……前半20分7－7と激しいせりあい。そのあとジャスコは二木のPTを林が決め、さらに若田の連続ゴール。優位に立った。

ジャスコは今季、若田の伏兵的な活躍が目立つ。

日立はビクター戦につづき、肝心なところでPTをとられ、それが敗因の一つになった。

ジャスコは尻あがりの好調で6連勝、ブラザーに追いついた。

‖個人得点15傑（前期）‖

①小島（日ビ）35
②紀野（立石）31
③小森（ブエ）25
④松下（ジャ）24
⑤加藤（日ビ）22
⑥宮平（ブエ）19
⑥河田（ジャ）19
⑥大場（大崎）19
⑨荒木（日立）17
⑨増永（大和）17
⑪島田（日立）16
⑫篠田（立石）14
⑫深堀（大崎）14
⑭山井（日立）13
⑮鈴木（ジャ）12

## 湧永、洗れんされた展開

**前期短評** 男子は予想どおり湧永薬品と大同特殊鋼が圧倒的な強さ。

僅差でまず湧永が優位をとったが、大同に逆転の余地は充分残されている。

湧永は欧州武者修行で全員にプレーへの厳しさがいっそうつき、技術的には、スピードプレーというよりクイックプレーともいうべき洗れんされた展開である。

三景がまずまず、イーグルスが健闘したのに対し、本田技研が攻撃陣の薄すさから低迷したのは惜しい。

女子も激戦、混戦という前評判どおり。ブラザー工業が、進境著しい小森を要に頑張ったのが光る「初優勝」のプレッシャーをどうはねのけるかが後期の課題。日立栃木が奮起すると、このあとますますもつれそうだ。

◆順位の決めかた 男女とも前後期各チーム14試合の通算で順位を決めるが、その方法は①勝ち点（勝2、分1、負0）。②同勝ち点の場合は当該チーム同士の勝敗。③当該チーム同士の勝敗が五角（1勝1敗または2引き分け）の場合は2試合の合計スコア。④、②③でも決まらぬ場合は全試合の得失点差。⑤、④でも決まらぬ場合は全試合の得点数。

# プレス・ルーム ＜2＞

小山　敏昭
――共同通信社運動部――

**■期待と不安の新生全日本**

モスクワを目指す男子の新生全日本のメンバーを見てビックリした。ビックリしたというより、期待と不安が一緒になったような複雑な感じを持ってしまった。

期待―それは言うまでもなく、欧州の大型チームに対抗すべく平均身長182・2センチ、170センチ台の選手がわずかに三人だけというジャンボチームを作ったことだ。ミュンヘンでもモントリオールでも背の低い日本のディフェンス陣の上から打つシュートが何本見られたことか。そのためになんとか体格だけでも負けない選手をということで選考されたことと思うし、またプレーでも未知の可能性を秘めた若手を選んだのだと思う。この大型化というのは現在の日本スポーツ界のかかえる大きな課題であり、いま男子のバレーボール、全日本も岩田や小牧（ともに新日鉄）といった190センチ台の選手を導入し、またバスケットボールでも190センチ以上の選手を全国からリストアップして、全日本候補などに選んでいる。こうした他の競技の大型化もオリンピックや世界選手権での教訓が生かされているからだ。

その意味ではハンドボールも同じ教訓を学び、今後につなげようという意欲が十分にうかがえる。精神力ではどこにも負けない日本だけに、体格でも負けないという「力」が加われば、今後世界のトップクラスとも五角に戦っていけるからだ。

不安―これも言うまでもない。男子の中心選手だった木野、藤中本田をはずしてしまったことだ。彼等は日本ハンドボール界の象徴的な存在だった。常に全日本に名を連らね、彼等がいることで若手もはつらつとしたプレーをしていたことは事実だ。だが「将来性」ということ「可能性」ということで今回メンバーからはずされてしまった。その決定には常務理事会で大変な論議があったというし、選考した側には今後の「勝算」があってしたことだと思うのでなんら文句の言いようはない。

でも敢て一言いわしてもらえれば、本田以外の二人もなんとかコーチとかコーチ補佐として残せなかったのか。彼等の経験を少しでも若手に教えるためにも…。立ち遅れているコーチ制度の確立のためにも……。

まさにこの新旧交代は球史に残る大転換だが、これが「英断」と言われるか「失敗」と言われるかは、今後時間が解決してくれることと思う。でもそこには人間の努力が介在し得る点も多い。この大転換がマイナスにならないように全関係者が結束して、盛り立てることが一番大事だ。

**■「ハンドボールの町」を…**

日本ほど多くのスポーツが行われている国はまずないだろう。陸上、水泳、野球、サッカー、スキー、スケート…。そして最近ではサーフィンやハングライダーなどまでが日本のスポーツ界に仲間入りし、若者の人気になっている。しかしその人気が即、普及ということに結がるかと言うと、これにはいろいろな疑問が出てくる。

現在、日本の各地には市町村の名前を挙げるとそこで盛んなスポーツがすぐに出てくるようなところが多い。

例えば「サッカーの町」と言えば広島や藤枝市(静岡)韮崎市（山梨）浦和市（埼玉）など。「柔道の町」と言えば天理市（奈良）「ホッケーの町」と言えば樋脇町（鹿児島）や飯能市（埼玉）など。まさにスポーツがその市町村の代名詞になっている。

また韮崎市や茨城県の古河市では市議会で「市技」にサッカーを決め、市全体でバックアップしているところもあるし、樋脇町でも小中学校高校はもちろんチビッ子からママさんチームまであり、みんなが余暇にはスティックを持ってボールを追いかけている。

こうした市町村とスポーツの結びつきは、競技の普及と発展に極めて大事であることは言うまでもない。

ヨーロッパ各国では市単位、町単位でハンドボールリーグが組まれ、それが全国リーグに巧くつなげられている。

すぐにはそこまでいかないだろうが、市町村単位のハンドボール組織は、必要なことだ。

そこで提案だが、「ハンドボールの町」を日本のどこかに作ってみてはどうだろうか。「○○市」と言えば「ハンドボール」「ハンドボール」と言えば「○○市」というようにチビッ子から老人までがボールを手にしてプレーをしているような…。

いまでも神埼町（佐賀）とか水海道市（茨城）など高校チームの強い、伝統のあるところではかなりその〝要素〟を持っている。

しかしまだまだ世間一般には伝わっていない。

また昨年結成した日本リーグも比較的大都市から離れた中小都市に本拠地を置くチームも多く、その可能性は十分にある。

ただだまっていてはそんな町は出来るはずはない。

日常から交流会や、指導など選手や関係者が努力しなければならないことはかなり多い。

しかし努力いかんでは日本の各地に「ハンドボールの町」を誕生させることも夢ではないのだが。

# 男子、惜しくも「全勝」を逸す

## ～日韓学生交流（6月・韓国）～

## 女子個人技主体の韓国が優勢

第11回（女子第6回）日韓学生交流は6月17日から24日まで全日本学生選抜軍（藤松博団長ら役員8名、選手男・13、女・14名）が遠征して男女各4試合を行った。

男子は、韓国側にいちぢほどの精彩がなく、今春の世界学生選手権代表5名を含む全日本学生が優勢を示して3勝1敗と勝ちこした。

女子は、学生との対抗戦では1分け1敗だったが、実業団との対戦では、ナショナルプレイヤーを中心とする、相手の迫力に満ちた個人技に押され連敗。4月の社会人交流につづき、韓国女子界の成長を印象づけた。

通算成績は男子が52戦31勝3分18敗、女子が20戦7勝2分11敗となり、女子は50年6月の第4回交流以来、対学生チームで白星がない。

なお、次回は明後年、韓国側を迎えて日本で行われる予定。

### 男子

第1戦・釜山大との試合は6月18日16時40分から釜山九徳体育館（32m×20m）で行われた。審判＝李正魯、福田英明（日本）

全日本学生 22（15－4, 7－7）11 釜山大

| 得 | 【釜山】 | | 【日本】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 李向傑 | GK | 大畑 | 0 |
| 0 | 金相泰 | GK | 須波 | 0 |
| 2 | 朴正国 | FP | 生駒 | 5 |
| 1 | 白南哲 | FP | 新井田 | 2 |
| 2 | 柳光洙 | FP | 長野 | 1 |
| 0 | 玉盟守 | FP | 勝地 | 4 |
| 1 | 崔容煥 | FP | 北里 | 5 |
| 0 | 李延雄 | FP | 高橋 | 2 |
| 4 | 全延彬 | FP | 木下 | 1 |
| 1 | 朴性培 | FP | 島中 | 0 |
| 0 | 鄭浚喆 | FP | 佐々木 | 0 |
| 0 | 宋鍾錫 | FP | 白井 | 2 |
| 11 | （1） | PT | （2） | 22 |

◇その他の出場者【日】FP大西（得0）【釜】FP趙昇済（得0）

### 後記　大畑　孝広

○……対戦相手の釜山大は韓国3位といわれる実力校。

試合を前にして「緒戦だから固くならないで、自分のプレーができるように……」と考えた。

しかし、会場に着いたとたん、やはり国際試合ならではの雰囲気が場内をうめていた。ここで気分が高まってはいけないと思い、心を静めた。だが反面、「よし一発やるぞ!!」という闘志もわいた。コートが32m×20mと小さかったために、相手がペースをつかむ前に、我々のペースに引きずりこまねばと思った。

相手の攻撃は変則的な4・2で45度のボール廻しから始まりポストにつなぐプレーがほとんど。

日本のディフェンスは当りも詰めもよく、カンのいい守りをみせた。

日本の攻撃は、緒戦にしてはコンビネーションがうまくいき、速攻も確実に決めて上々のデキで幸先よい1勝をあげた。（日大3年・GK）

### 後半なかばから本調子

第2戦・忠南大との試合は20日18時から大田忠武体育館（38m×20m）で行われた。審判＝柳寅吉・黄水渕

全日本学生 26（15－11, 11－13）24 忠南大

| 得 | 【忠南】 | | 【日本】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 田鎰柱 | GK | 須波 | 0 |
| 0 | 趙長来 | GK | 大畑 | 0 |
| 4 | 朴徳培 | FP | 新井田 | 3 |
| 9 | 李徳熙 | FP | 長野 | 3 |
| 4 | 林然得 | FP | 生駒 | 2 |
| 4 | 安熙喆 | FP | 勝地 | 1 |
| 1 | 全吉煥 | FP | 北里 | 5 |
| 2 | 申栄燮 | FP | 高橋 | 7 |
| 0 | 李炳璣 | FP | 白井 | 0 |
| 0 | 金善国 | FP | 大西 | 0 |
| | | FP | 木下 | 4 |
| | | FP | 佐々木 | 1 |
| 24 | （7） | PT | （4） | 26 |

◇その他の出場者【日】FP島中（得0）

### 後記　生駒　靖夫

○……第一戦に快勝した我々だが旅の疲れで動きが鈍く、試合開始早々得点をあげられ苦しいスタートをきった。レフェリーの判定も韓国流で、ポスト・サイドシュートは、ほとんどペナルティーになってしまう。そのうえ忠南のゆっくりした攻撃ペースに乗せられたため、日本はなかなかリズムがつかめなかった。前半なかばから高橋の得点を中心に追上げ、二点差まで詰め寄れた。

後半も、両チームの攻撃パターンは変らなかったが、10分を経過すると、日本の速攻が出始め、北里、新井田と得点を重ね、ついに逆転に成功。しかし、忠南もサイドシュートで反撃、終盤は一点を争うゲーム展開になったが、日本は辛くも二点差で振切った。

ジャッジの問題もあり、日本は少々冷静さを失なっていたが、チームが一つにまとまって逆転できたことは大きな収獲であった。

（京都産大4年・FP）

### 最後まで〃後手〃円光に1敗

第3戦・円光大との試合は21日16時から裡里の円光大体育館で行われた。

円光大 20（11－9, 9－10）19 全日本学生

| 得 | 【円光】 | | 【日本】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 張福煥 | GK | 大畑 | 0 |
| 0 | 林圭夏 | GK | 須波 | 0 |
| 9 | 崔永寿 | FP | 勝地 | 1 |
| 6 | 崔炳章 | FP | 北里 | 3 |
| 4 | 杜晩執 | FP | 長野 | 7 |
| 0 | 柳南朝 | FP | 高橋 | 2 |
| 0 | 金芳永 | FP | 新井田 | 1 |
| 1 | 朴裁秀 | FP | 生駒 | 5 |
| 0 | 金満郷 | FP | 木下 | 0 |
| 0 | 金在容 | FP | 佐々木 | 0 |
| 0 | 朴容台 | FP | 大西 | 0 |
| | | FP | 島中 | 0 |
| 20 | （6） | PT | （1） | 19 |

◇その他の出場者【日】FP白井（得0）

### 後記　新井田　司

○……肉体的にも精神的にも疲れが蓄積し、その上、二日続きの試合というハードスケジュールのもとに試合が開始された。昨日は立ちあがり気合いのはいらない試合をしたが、今日は相手が強豪だと知らされたため全員ファイトにあふれていた。しかし、心配された立ち上がりが、やはり悪かった。戦力のわからない相手、特に異国の地でやる試合は立ち上がりでリードを奪わないと勝利を握ることが困難だと思った。点をとられては返し、とられては返すというパターンをくり返し、後手、後手となったのが結局は敗因ではなかっ

ただろうか。その上、日本では考えられないほどの観客の応援があり、ベンチからの指示が選手に伝わらないというほどの異常な雰囲気も我々を戸惑わせた。後半にはいってもこのペースを変えることができずに終ってしまった。

海外遠征での試合は、すべての面において不利な条件が重なり、力の差がはっきりしていても今日のようなゲームになってしまう。なんとなく後味の悪いゲームであった。

（日大4年・FP）

## 気力でピンチ脱す

第4戦（最終戦）・成均館大との試合は「第8回西敏郎杯争奪戦」として23日17時30分からソウルの永東高校体育館で行われた。審判＝福田英明（日本）、李文植。

全日本学生 27（11―6、16―12）18 成均館大

〔注〕本誌前号19頁速報23―18は誤り。

| 得 | 【日本】 | | 【成均】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 大畑 | GK | 安仁鎬 | 0 |
| 0 | 須波 | GK | | |
| 7 | 北里 | FP | 李康皓 | 0 |
| 5 | 生駒 | FP | 張星淳 | 0 |
| 4 | 長野 | FP | 白根煌 | 2 |
| 4 | 高橋 | FP | 崔昌南 | 11 |
| 2 | 新井田 | FP | 高正圭 | 5 |
| 2 | 勝地 | FP | 孫錫正 | 0 |
| 0 | 大西 | FP | 金光洙 | 0 |
| 0 | 島中 | FP | 尹誠源 | 0 |
| 0 | 白井 | FP | | |
| 3 | 木下 | FP | | |
| 27 | (3) | PT | (3) | 18 |

◇その他の出場者【日】FP佐々木（得0）

### 後記　木下　徳文

○……全勝を狙っていた我々に、前日（対円光大）の敗戦は口惜しいものであったが、今日の試合は前学連会長の西敏郎氏杯がかかっていたし、最終戦ということも重なって、試合前からチーム全員の気力は充分みなぎっていた。そう言った全員の闘志が空回りする事なく、選抜チームの欠点である個人技に走りがちなプレーを制御し、チームプレーに徹したのが今日の勝因であったと思う。

立ち上がりは、対円光戦とはうって変って、ディフェンスがよく前までつめ、相手のプレーを完全につぶし、打たせてとるという理想的なディフェンスをした。攻めても速いボール回し、相手のミスに乗じた速攻など多種多彩な攻撃をみせた。しかし徹底的につき離せるチャンスを逸したため、後半一時は一点差まで追い上げられ、危ない場面をむかえたが、そこを気力で乗り切り、あとは点差が開く一方という試合展開になった。韓国遠征最後の試合を勝利で飾る事ができ、うれしく思うとともに、たとえ異国という条件が悪い所でも、その問題を克服して、試合に勝たなくては、いくら親善と言う事であっても、得るところがないと思った。（大阪経大4年・FP）

### 訪韓全日本学生

- 団長　藤松　博（東海）
- 監督　藤原　侑（関東）
- 総務　市川　孝夫（九州）
- 審判　福田　英明（九州）
- 男子代表
  - コーチ　大西　武三（筑波大監督）
  - マネ　松下　信宏（中央④）
  - GK　大畑　孝広（日大③）
  - 　　須波　雅人（筑波③）
  - FP　生駒　靖夫（京都産大④）
  - 　　島中　明（大体大④）
  - 　　木下　徳文（大阪経大④）
  - 　　北里まこと（早稲田④）
  - 　　新井田　司（日大④）
  - 　　長野　透（中央④）
  - 　　勝地　文雄（慶応④）
  - 　　大西　和雄（日体④）
  - 　　高橋　良輔（名城④）
  - 　　佐々木信男（東北学院④）
  - 　　白井　正彦（筑波③）
- 女子代表
  - コーチ　樫塚正一（武庫川女監督）
  - マネ　渡辺富士子（日女体④）
  - GK　大森　幸子（日体④）
  - 　　堀田小和子（日体④）
  - FP　寺尾真知子（日体④）
  - 　　藤井日出子（日体④）
  - 　　森　奥子（日体④）
  - 　　矢野　弥生（日体②）
  - 　　恒川　薫（武庫川女③）
  - 　　福島　恵子（武庫川女③）
  - 　　今井　晴美（武庫川女②）
  - 　　甲斐　恵子（東女体④）
  - 　　川波　理子（東女体②）
  - 　　今木　通代（中京④）
  - 　　森戸由紀子（筑波③）
  - 　　加藤みどり（大体大③）
- ○内は学年

### 洞ケ瀬選手不参加

男子代表に選ばれていた洞ケ瀬直幸選手（早大4年・FP）は負傷のため参加しなかった。

## 女子

第1戦・韓星女大との試合は6月18日15時25分から釜山九徳体育館で行われた。審判＝李善行、鄭正雄。

韓星女大 22（11―5、11―5）10 全日本学生

| 得 | 【日本】 | | 【韓星】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 大森 | GK | 金貞姫 | 0 |
| 0 | 堀田 | GK | 孫美子 | 0 |
| 1 | 寺尾 | FP | 李福姫 | 3 |
| 2 | 森 | FP | 李延礼 | 1 |
| 2 | 藤井 | FP | 金順愛 | 3 |
| 0 | 福島 | FP | 姜善紛 | 3 |
| 1 | 甲斐 | FP | 李外子 | 0 |
| 1 | 川波 | FP | 金鐘淑 | 0 |
| 0 | 今井 | FP | 宋賢淑 | 0 |
| 3 | 森戸 | FP | 張泉妖 | 7 |
| 0 | 今木 | FP | 金貞玉 | 1 |
| 0 | 矢野 | FP | 姜京宜 | 4 |
| 10 | (1) | PT | (7) | 22 |

◇その他の出場者【日】FP恒川、加藤（ともに得0）

### 後記　寺尾真知子

○……〃初めよければすべて良し〃我々は前日の念入りなミーティングで、緒戦に向けてすべてを確認しあった。

混成チームという最大のハンデを背負いながらも10日間の厳しい合宿に耐え、団結力を深め、今までやることはすべてやってきた。しかし、立ちあがりの悪さから、次々と失点を許してしまい結果は22―10。

スコアーの上では大差を生んでしまったが精神的には各自強い気持ちで体当りしていったと思う。対戦相手が韓国一位である事と、

コートを包み込む様な、満員の観衆の応援の中で自分でも知らぬ間に、冷静さをなくしてしまっていたようだ。ゲームが終わり、各自がゲームを顧みたとき、何か物足りなさを感じたのは、もう一歩の勝負魂に欠けていたのではなかろうか。ルーズボールの処理のするどさ、速攻への出だし、ロングシュートの威力、すべてが我々よりも勝るものを感じ得た。まさにスピードとパワーにおいて負けてしまったようだった。（日体大4年・FP）

### 造幣公社、評判どおり

第2戦・韓国造幣公社との試合は20日17時から大田市の忠武体育館で行われた。審判＝洪盛杓、福田英明（日本）

韓国造幣公社 21（11—4、10—9）13 全日本学生

| 【造幣】 | | 得 |
|---|---|---|
| GK | 朴英淑 | 0 |
| GK | 金花英 | 0 |
| FP | 李明淑 | 0 |
| FP | 金順淑 | 4 |
| FP | 梁玉姫 | 0 |
| FP | 林礼順 | 0 |
| FP | 李順南 | 0 |
| FP | 李相玉 | 0 |
| FP | 金正淑 | 0 |
| FP | 任昌淑 | 6 |
| FP | 金明恵 | 3 |
| FP | 金福順 | 8 |
| | PT | (2) 21 |

| 【日本】 | | 得 |
|---|---|---|
| GK | 森田 | 0 |
| GK | 大堀 | 0 |
| FP | 寺尾 | 5 |
| FP | 森 | 2 |
| FP | 森戸 | 2 |
| FP | 藤井 | 1 |
| FP | 甲斐 | 1 |
| FP | 今木 | 0 |
| FP | 川波 | 0 |
| FP | 加藤 | 1 |
| FP | 矢野 | 0 |
| FP | 恒川 | 0 |
| | PT | (2) 13 |

◇その他の出場者【日】FP今井（得1）、福島（得0）

**後記　藤井日出子**

○……相手の韓国造幣公社は韓国ナショナルの人も含めたナンバー・ワンチームと聞き、自分たちの力がどこまで通じるか、絶好の機会だと思った。

第1戦は、コートも狭く、観客の歓声にもまどわされ、我々の力を出し切れなかったが、今日は少し違う。

コートの広さも正規だし、スタンドの歓声も気にならなくなっていた。しかし、ベンチの指示はほとんど聞きとれず、やはりその騒がしさには参った。

「失点を少なく」というのが試合前の約束で、立ち上りは比較的固いディフェンスをとれたのだが、10分をすぎるあたりから、相手の強引さに押されはじめ、16分8—2とリードを許した。

取られても取り返すという闘志はあったのだが、一人々々のパワー、プレーの速さで韓国に一歩をゆずってしまった。

明日は再び学生チームとの対戦故障者はいるが、是非勝ちたい。（日体大4年・FP）

### 日本、惜しい引き分け

第3戦・忠州工専との試合は「第5回西畝郎杯争奪戦」として21日16時から忠州工専体育館で行われた。審判＝福田英明(日本)、金東善

全日本学生 14（7—6、7—8）14 忠州工専
引き分け

| 【忠州】 | | 得 |
|---|---|---|
| GK | 具滋香 | 0 |
| GK | 李撥子 | 0 |
| FP | 李明淑 | 5 |
| FP | 宋　順 | 0 |
| FP | 李京姫 | 2 |
| FP | 張福順 | 4 |
| FP | 洪順玉 | 2 |
| FP | 禹相順 | 0 |
| FP | 刘善鏑 | 0 |
| FP | 李起蓉 | 0 |
| FP | 宋南竜 | 1 |
| FP | 洪京淑 | 0 |
| | PT | (4) 14 |

| 【日本】 | | 得 |
|---|---|---|
| GK | 森田 | 0 |
| GK | 大堀 | 0 |
| FP | 寺尾 | 2 |
| FP | 甲斐 | 2 |
| FP | 森 | 1 |
| FP | 今井 | 2 |
| FP | 川波 | 3 |
| FP | 藤井 | 2 |
| FP | 森戸 | 2 |
| FP | 恒川 | 0 |
| FP | 今木 | 0 |
| FP | 福島 | 0 |
| | PT | (1) 14 |

○……忠州工専と日本女子(学生)は一昨年が1敗、昨年が4敗と日本側の劣勢。

昨年のエース李相玉は造幣公社入りして抜けたが、新たに昨夏の高校交流で来日し活躍した李京姫(168cm)、張福順(160cm)、李明淑(164cm)らが加わり、なかなかの陣容。

一進一退から日本は前半終了間ぎわ甲斐のゴールで先行、このリードを後半10分には、さらに1点ふくらませたのだが、スタンドの大歓声をうける忠州は15分すぎ李明淑の連続ゴールで形勢を立てなおし、そのあと互いに2点づつを入れあって、引き分けとなった。

日本は攻撃ミスが多く、再三好機を逸したことと、韓国のサイドからのペナルティすれすれの防禦に泣いた。

### 痛いPTでの7失点

第4戦(最終戦)・仁川市庁との試合は23日16時からソウルの永東高体育館で行われた。審判＝朴鐘甲、高炳勲。

仁川市庁 15（8—4、7—9）13 全日本学生

| 【仁川】 | | 得 |
|---|---|---|
| GK | 崔聖姫 | 0 |
| GK | | |
| FP | 黄分徳 | 0 |
| FP | 趙泰順 | 0 |
| FP | 趙姫順 | 1 |
| FP | 朴妙順 | 5 |
| FP | 金敵愛 | 0 |
| FP | 任順金 | 0 |
| FP | 朴玉景 | 0 |
| FP | 本南子 | 5 |
| FP | 呉永順 | 4 |
| | PT | (7) 15 |

| 【日本】 | | 得 |
|---|---|---|
| GK | 森田 | 0 |
| GK | 大堀 | 0 |
| FP | 藤井 | 2 |
| FP | 寺尾 | 2 |
| FP | 川波 | 1 |
| FP | 森戸 | 3 |
| FP | 甲斐 | 2 |
| FP | 今井 | 2 |
| FP | 矢野 | 0 |
| FP | 恒川 | 0 |
| FP | 福島 | 0 |
| FP | 森 | 1 |
| | PT | (2) 13 |

◇その他の出場者【日】FP今木（得0）

**後記　福島恵子**

○……ウォームアップの時は全員身体もよく動き、よいコンディションだったが、開会式前マイクロフォンの故障で進行が遅れ、そのあとまったく余裕なくゲームが始められた。

そのため、選手の身体がなれる、までに時間がかかり20分までに6—3とリードを許すことになった。

最終戦という緊張も手伝ってせっかく先取点をあげながら、その

### 韓国勢、基本に忠実な守り

**監督　藤原侑**

来年に女子の世界選手権予選そして明後年にはモスクワオリンピックの予選が予定されるだけに、今回の交流は両国新戦力の〝最初の接触〟ともいうべきであった。

楽観的に考えてはいけないが日程など綿密に組まれ最高のコンディショニングで対戦できたら、男女とももう少し好成績を残せたと思う。

毎度感じることだが生活の馴れに順応でき得る心構えの大切さを忘れてはいけない。

さて韓国の実力だが、女子の造幣公社以外は個々の技術を出すための攻防の展開が非常に多く感じられた。

男子ではかつての車聖福、金成憲のようなスターが見当らず、わずかに高正圭(成均館4年、173cm)が目立った程度。

女子は個々の選手に柔軟性がありパワーもある。とりわけ韓星女大の金順愛(167cm)、張白妖(167cm)は素晴しく、社会人では造幣公社の李相玉(168cm)、GK朴英淑(160cm)、仁川市庁の朴妙順(168cm)が相変らず目立つ。

総じて韓国チームはディフェンスのフットワークに秀れ、「足で守る」基本に忠実である。

したがって粗暴行為が少なく警告、退場があまりない。日本選手も見習うべきであろう。

あとパスミスが目立ちシュートまでもちこめず、好機があってもシュートをはずすなど自から苦戦を招いた。

その上、FPの平均身長166cmという長身の相手の攻撃にも、たいに押しこまれ、エースの朴妙順（168cm）のロングをケアする策戦もかえって朴への意識が強すぎてディフェンスが固まり、李南子（174cm）や趙姫順（160cm）にロング、フリースローを射ちこまれた。

また、ポストも自由に動きまわられたため、防禦のフォローが遅れホールディングするたびに警告を受けた。

また第4戦になっても韓国のレフェリングになじめず、この日もPTで7失点。これも大きな痛手だった。（武庫川女大年・FP）

## 遠征を終って

**大西武三・男子コーチ**　「一つのチーム」として厳しさをもつよう望んだが、幸い全員が個性豊かでしかも謙虚さを持ちあわせた選手に恵まれ、その結果、実のある楽しい遠征することができた。困難な環境によく耐え、実力を十分に発揮してくれた選手に感謝したい。この経験を活かし、逞しいハンドボール界の人材に育ってくれることを期待します。

**樫塚正一・女子コーチ**　短い遠征の知識でしかないが、現在の韓国協会の体制では、全日本（女子）は勝つことができないだろう。

しかし、各地方協会が一つにまとまれば、全日本にもピンチが訪れると思う。

それだけ韓国女子選手個々のもつ力は秀れたものがある。

環境、判定など不馴れな面もあったが、今回も日本女子学生界の甘さを痛感しなければならなかったのは残念。

**市川孝夫・総務役員**　ソウル到着後にスケジュールが始めて判明したり、転戦中も各会場間の連絡が不徹底など、スムーズな運営とはいえなかった。

この交流が韓国ハンドボール界にどのような影響を与えるか疑問も多い。韓国スポーツ界での地位向上の一手段であるとするならば韓国側の企画運営全般にわたり一層の努力が必要である。今後継続する為には韓国協会の基本姿勢を再確認する必要があろう。

**福田英明審判員**　私自身のレフェリングは男子2、女子2。韓国審判員はフェアーなレフェリングで、私との呼吸もあい、両国間の相違はあまり感じなかった。

今回の遠征で目立ったのは、日本選手のディフェンスにおけるフットワークの弱さ。そのために退場や警告につながるホールディングを犯し、大きな反省材料になった。

全試合、インドアで運行されたのは、韓国の経済成長を物語ろう

## 地方組織など拡充の韓国

団長　藤松　博

隔年開催決定後の最初の学生交流が日本チーム訪韓でスタートした。昭和四十六年私にとっては最初の訪韓以来六年の歳月が流れていた。動乱の傷あとも痛々しく残っていたあの強烈なソウル市の印象が強かっただけに、ソウルの変貌には目をみはるものがあった。

市の郊外の住宅建設は着々と進み、中心部の高層ホテルの建設もすごい勢いで進んでいる。生活をしているソウル市民の顔にも生活を楽しんでいる明るいものを感じさせた。

こうした変化は高速バスの車窓に映る農村にも全く同じことがいえる。一方韓国ハンドボール界は と考えるに、こうした社会の変化に歩調を合せてここにも変化の兆を感じた。

かつてはソウルを中心にして動いていた組織が、地方の実力の充実と傘下連盟（小体連、中高体連大学連盟）の組織化から、拡大、分散の傾向に動いている様に思えた。とりわけ学生連盟では釜山大学総長を中心に組織され、活動を開始した様に見えた。数年後の日本チームの訪韓時には、おそらく釜山中心の運営が行われるのではなかろうかと思う。伸長期、拡大期には必然的に変化をともなう、中央集権的な運営は、地方自主運営へと移る傾向になる。今回の訪韓にもそれは感じられた。空港で渡されたスケジュールに従って移動した各地区で必らずしもソウルの協会の方針通りではない場面にでくわした。今後の参考として考えるべきは地会協会の自主性を尊重し行動する習慣に切り換える必要性を感じた。

しかしこうした諸問題とは別に若い学生同志が若さをぶつけ合い言葉の障害を乗りこえ互いに理解し合う姿に接し、国際親喜試合の意義を今さらながら痛感させられた。

試合結果からの反省としては、日本の学生チームの課題は女子の強化にあると考える。思い切った強化策を早急に立案し、実施することが、韓国に対する答礼だと考える。関係者の一層の努力を期待したい。

（全日本学連理事）

# 世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）



◇岐阜県実業団ハンドボール連盟◇

| 役職 | 氏名 | 住所 | 勤務先 |
|---|---|---|---|
| 会長 | 清水晴次 | 大垣市中曽根町 | 日本耐酸壜工業取締役 |
| 副会長 | 柳瀬準一 | 岐阜市西部中島 | 二和家具工業取締役 |
| 理事長 | 森島清明 | 大垣市中曽根町 | 日本耐酸壜工業 |
| 理事 | 隅田泰生 | 不破郡垂井町宮代 | 帝人製機岐阜工場 |
| | 新村茂 | 岐阜市西部中島 | 二和家具工業本店 |
| | 泉文俊 | 安八郡安八町大森 | 三洋電機岐阜工場 |
| | 安武英巳 | 大垣市久徳町 239 | 太平洋工業 |
| | 浅野敏夫 | 大垣市中曽根町 | 日本耐酸壜工業 |
| | 高橋省吾 | 大垣市神田町 | 揖斐川電工本社 |

★国学院栃木高(女)59得点

夏の全日本高校選手権栃木県予選で、国学院栃木高女子チームが59―1（前半23―0）という快記録をマークした。おそらくこれは高校女子の20分ハーフの試合であげた〝大量点日本新〟。

1ゴールあげるのに60秒かからぬ計算で、後半にいたっては平均34秒というペース。

本誌の調べでこれまでの最高とみられていたのは、44年5月昭和学院(千葉)が県内大会で記録した57点(失点0)。

ちなみに、女子の国内最高は全盛時の田村紡（三重、廃部）が41年11月、高校チーム相手にあげた64点(失点1)。

男子のほうは40年6月、早大（東京）が、クラブチームから66点（失点8）を奪ったのが目下のところ最高。

高校男子では、55―0という試合があると聞くが詳細をつかんでいない。

読者の皆さんでここにあげた記録を上廻る試合をご存知でしたらぜひ教えて下さい。

★名大クが韓国遠征記を発表

名古屋大学クラブ（愛知）は5月1日から5日間、韓国遠征を行なったが（本紙153号既報）この程その遠征記と旅行記を小冊子にまとめた。

前半は各試合記録と対戦記、後半は隣国韓国を知るための各分野にわたるレポートよりなっている。

同クラブでは試合をするということのほかに、この遠征を機に韓国をよく見、理解しようとした。したがって後半は各学生の専門分野によって韓国の歴史、経済、ことば、生活などそれぞれの研究発表となっている。

名大クでは、今後韓国遠征をする選手たちが行く前にこの小冊子に目を通せば幾分かは理解できるのではないか、また海外遠征後に各自の技術研究発表の場としてこういったものを作ることにより、より一層成長できるのではないかそのための参考に供することができれば幸いです、といっている。

★ 引きつづき中学指導要領に

文部省は7月23日小・中学校の新しい学習指導要領を告示したが、ハンドボールは、中学校（1～3年生）保健体育授業として引きつづき〝採用〟されている。

中学校の指導要領改定は昭和44年以来、戦後4回目のもの。

ハンドボールは6月8日に発表された原案では、その例示からはずれており、日本協会をはじめハンドボール関係者の表情を暗くさせていた。

★静岡の全国クラブ大会盛況

静岡協会が日本協会普及指導部の協賛をえて開いた「第1回全国クラブ大会静岡大会」は7月16、17の両日静岡市民体育館で開かれたが、男子は18都府県から22チーム、女子は5県から6チームが参加した。

男子は当初16チーム以内の予定だったが、予想を上廻る反響があり、大成功だった。

男子ベストフォアは優勝した佐世保ク（長崎）のほか高知ク（高知）、氷見ク（富山）、AOK栃木（栃木）、女子は京都クが優勝、静岡城北ク、笠松ク(岐阜)、浜南ク（静岡）がつづいた。＝詳報次号

★モスクワの日程　IOC（国際オリンピック委員会）はこのほど一九八〇年のモスクワ・オリンピックの競技日程を明らかにした。

それによるとハンドボールは男子12ケ国、女子6ケ国が参加、男子は7月21、22、24、26、27、28 29、30日の8日間、女子は7月21 23、25、27、29日の5日間となっている。

開会式は7月19日、閉会式は8月3日。

会場はスポーツパレス（八千人収容）とデイナモスポーツホール（五千人）。

★土曜の集いリポート

昨年四月「ハンドボールOB・OGに集いの場を」「初心者には技術を」を、合言葉にスタートした普及部主催によります「土曜の集い」も、昨年度は、合計八七一名の愛好者を迎え、一応の成果を、みることができました。

特に、二十年来のつき合いといわれる両国高校OBの喜々としたプレー、また現在まで、十五回連続参加の元女子ナショナルプレーヤー・鈴木功子（現姓小木曽）さん、宇井敬子（現姓田辺）さん等の、後輩選手に対する暖かい指導、よきお手本となる衰えをしらない華麗なるフエイント等まさしく、土曜の集いの合言葉にふさわしい集いが毎回のようにくりひろげられました。

本年度も、昨年度の成果をふまえ、よりよき集いになるよう主催者一同、鋭意努力中であります。

なお、本年度は、

一、遠投、ジグザグドリブル等のコンテストの実施
二、熟練者には、審判法の習得
三、常に、一〇〇名前後の参加者を——特に、OB、OGの参加を主催者側の合言葉として、盛り上りを、図っております。

五月の集いには、早速、遠投コンクールを、実施いたしました。

特に、女子の部、中村さんの一投は、三十五米離れた壁の中腹にぶち当て、並みいる男性軍を、あ然とさせました。なお、三位までの、男女入賞者にはジャンプシュートを型どった豪華なトロフィを進呈いたしました。

以上のように、主催者側は、やる気満々であります。

どうか同僚、先輩、後輩、ボーイフレンド、ガールフレンドお誘いのうえでの参加を、お待ちしております。

問合わせにつきましては、TEL〇四八四・六四・八〇二九室川まで。

（室川正治・編集委員）

★…8月は13日、9月は17日いずれも午後5時から東京青少年総合センターで。

# 全日本高校選手権展望

嶋田　新太郎

第28回全日本高校選手権は8月2日から7日まで山口市の山口高校特設グランドに全国47都道府県から選び抜かれた男女各49校が参集して行われる。

例年話題となる初出場校は男子6、女子8校。

対照的に出場回数の多さを誇るのは25回の涌谷（女、宮城）、23回の新居浜工（男、愛媛）、20回の水海道二（女、茨城）、19回の盛岡一（男、岩手）、四日市工（男、三重）、秋田和洋（女、秋田）など。和洋女は実に17回連続出場である。

◇男子展望　2連勝を狙う下関中央工（山口）が地元の利を活かしたいところだが、新居浜工（愛媛）、名南工（愛知）、鶴舞（千葉）らの力も相当なもので、ベスト4への道はけわしい。

呼声が高いのは静岡農（静岡）熊本一工（熊本）、岩国（山口）氷見（富山）、小倉西（福岡）らで、特に小倉西×氷見の勝者に注目が集まる。

このほか、初出場ながら関東1位の川口北（埼玉）岩国工（山口）、函館有斗北海道、仙台育英（宮城）青森商（青森）、中大付（東京）がダークホース。

思い切ってベストエイトを占ってみると下関中央工または鶴舞、新居浜工×青森商（青森）の勝者、大阪市立（大阪）、中大付、岩国工、小倉西、氷見などは手固そうだが、岩国、熊本一工、静岡農、盛岡一、川口北がひしめくパートは、まったく予断を許さない。

わずかに地元岩国有利とみたいが、予想どおり進めば、最後の栄冠は下関中央工×岩国の山口同士対氷見×小倉西の勝者によって争われるのではなかろうか。

◇女子展望　第2シードの熊本女商（熊本、前年2位）の評判がいい。

3回戦に予想される水海道二（茨城）×小松市女（石川）の勝者が熊本とどろ戦うか。

このゾーンには秋田和洋（秋田）藤村女（東京）なども顔を並べており激戦だ。近畿1位の御坊商工(和歌山)も侮れない。

前年優勝・大分東（大分）のゾーンは函館商(北海道)、新居浜市商(愛媛)、涌谷(宮城)、栃木女（栃木)、山陽女（広島）らの強豪がむらがり、大型選手が卒業した大分東は苦しそう。

女子の上位進出校をしぼるのは毎年のことながら至難だが、あえて探し出せば大分東、函館商×住吉学園（大阪）の勝者、新居浜市商、山陽女、有磯(富山)、岩国商(山口)、涌谷、岩津(愛知)、水海道二、御坊商工、小松市女、和洋女、徳山（山口)、清水商（静岡)熊本女商のなかからだろう

そして、熊本女商、水海道二、御坊商工、小松市女、和洋女側のゾーンを勝ち進んできたチームが……ということになるのではないだろうか。

いずれにせよ男女炎天下の一発勝負。日頃の練習プラス、コンディショニングも微妙な影響を及ぼすし、ましてや、この舞台へ登場してきた98校に実力差があろうハズはない。

どのチームにも栄冠の可能性は充分にあるのである。

特に、男子は悲願の一千校突破が成った（＝本誌3頁）最初の年である。内容の濃い試合を期待したいと思う。

また、女子はあるいはこの大会の選手が、モスクワ・オリンピックに間にあうかもしれない。夢いっぱいの大会である。（全国高体連副部長）

◇……男子……◇

- 下関中央工（山口）
- 明石北（兵庫）
- 鶴舞（千葉）
- 大曲農（秋田）
- 柏崎工（新潟）
- 鶴崎工（大分）
- 富岡（群馬）
- 新居浜工（愛媛）
- 青森商（青森）
- 名南工（愛知）
- 興南（沖縄）
- 修道（広島）
- 倉敷工（岡山）
- 大阪市立（大阪）
- 上田（長野）
- 隼人工（鹿児島）
- 坂出工（香川）
- 関東学院（神奈川）
- 岩国（山口）
- 東山（京都）
- 熊本一工（熊本）
- 静岡農（静岡）
- 盛岡一（岩手）
- 川口北（埼玉）
- 学法石川（福島）
- 境港工（鳥取）
- 土佐（高知）
- 中大附（東京）
- 八幡工（滋賀）
- 佐世保西（長崎）
- 函館有斗（北海道）
- 岩国工（山口）
- 加納（岐阜）
- 添上（奈良）
- 都城工（宮崎）
- 北陸（福井）
- 岩井（茨城）
- 小松工（石川）
- 国学院栃木（栃木）
- 四日市工（三重）
- 松江工（島根）
- 大石田（山形）
- 小倉西（福岡）
- 仙台育英（宮城）
- 神埼農（佐賀）
- 御坊商工（和歌山）
- 池田（徳島）
- 塩山商（山梨）
- 氷見（富山）

◇……女子……◇

- 大分東（大分）
- 住吉学園（大阪）
- 函館商（山口）
- 富田女（岐阜）
- 昭和学院（千葉）
- 延岡（宮崎）
- 新居浜市商（愛媛）
- 山陽女（広島）
- 米沢女（山形）
- 国分実業（鹿児島）
- 有磯（富山）
- 群馬女短附（群馬）
- 岩国商（山口）
- 浦添（沖縄）
- 涌谷（宮城）
- 米子南商（鳥取）
- 明倫（神奈川）
- 三本松（香川）
- 栃木女（栃木）
- 郡山女（福島）
- 夙川学院（兵庫）
- 小諸商（長野）
- 東海大五（福岡）
- 岩津（愛知）
- 水海道二（茨城）
- 別府青山（大分）
- 御坊商工（和歌山）
- 小松市女（石川）
- 津山商（岡山）
- 青森西（青森）
- 郡山（奈良）
- 藤村女（東京）
- 辻（徳島）
- 守山女（滋賀）
- 神埼農（佐賀）
- 津女（三重）
- 和洋女（秋田）
- 徳山（山口）
- 武生商（福井）
- 島原農（長崎）
- 中芸（高知）
- 深谷一（埼玉）
- 清水商（静岡）
- 浜田商（島根）
- 新潟江南（新潟）
- 日川（山梨）
- 花巻南（岩手）
- 西京商（京都）
- 熊本女商（熊本）

# ことしも大阪イーグルス中心

## 全日本教職員選手権

第20回全日本教職員選手権は8月10日から13日まで長野県更埴市の屋代高校グランドで行われる。

男子は33都府県から44チームが参加、一地区からの〝多党化〟がますます進み、20年前に12都府県13チームによってスタートした頃を思い出せば、「教職員球界」の足どりの確かさと、新たな方向をうかがうことができる。

優勝争いは、日本リーグ前期4位の大阪イーグルスが一番手。

企業チームにはさまれながら、巧みな試合展開、勝負どころでのスピードプレーは、国内を代表するチームにふさわしく、7連覇はまず間違いなさそう。

イーグルスの日本リーグにおける活躍が、他チームを刺激しているのも、またたしか。

特に、前年あと一歩のところまでイーグルを追いこんだ千葉教員が2回戦で顔を合わせるのは興味深い。

前年2位の茨城はコンドルズと勇しい名に変えたが、第1回（昭33）の勝者はこの茨城、記念大会のことしは是非、勝ちたいところだろう。

このほか三重、栃木、福井、愛知教員、熊本、長野、神奈川、静岡教員団なども意欲は充分である

かつてイーグルスと激闘を演じたスワロー兵庫や、埼玉勢（フェニックス、白鷺ク）はメンバーの固定化から勢いをなくしてはいるが、まだまだその実力は捨て難い

ことしから国体に教員の部がなくなり、各チームは成年男子に国体の道を求めている。はるかにこれまでより出場の枠が拡がった感じで、それだけに練習量も豊富のようだ。

ともすれば個人技のつなぎあわせだけの試合が多かっただけに、内容的にも「20年」の重味をそろそろ見せて欲しい。

5年目の女子はオープンの特典がなくなり、ことしから日本協会登録が義務づけられたため出場チームが減るのではないかと思われたが、一昨年の8チームを上廻る10チームが集った。

この発展は、日体、東女体、東京教大、中京などのOGの情熱に負うところが大きい。

来年の国体は、成年女子が、一県一代表だけに、女子教員の〝集結〟はいっそう強まろう。

岩手の2連勝をめぐって大阪、武蔵野ク（東京）、愛知、埼玉栃木らが、激しい試合をくりひろげることになりそうだ。

◇……男子……◇

大阪イーグルス
千葉教員
長崎教員
富山教員
ストーリング静岡
東京教員B
A・T・F（愛知）
ロイヤルスワロー（兵庫）
広島県教職員
三重教員
埼玉フェニックス
栃木教員
大阪教員ク
岩手教員ク
青森教員ク
群馬教員ク
山口県教員団
福井教員
岐阜教員
福島教員ク
滋賀教員
佐賀教員ク
スワロー兵庫
山口県教員団B
東京教員
和歌山教員ク
愛知教員
新潟教員
佐野工教職員（大阪）
長野教員ク
山梨教員
熊本教員
香川教員
千葉教職員ク
白鷺ク（埼玉）
岡山教員
神奈川教員団
秋田教員ク
オールドイーグルス（大阪）
宮崎教員
愛教ク（愛知）
静岡教員団
大阪教員クB
コンドルズ（茨城）

女子教職員組み合せ

岩手教員
岐阜教員
大阪教員B
埼玉栃木ク
芙蓉ク（ ）
大阪教員
武蔵野ク（東京）
長崎県教職員
山口県教員団
愛知教員

# 中学生大会は麻生（茨城）で

第6回全国中学生大会は8月17日開会式、18、19日競技の日程で茨城県麻生町・麻生中学に全国から男女各チームが参加して開かれる。

夏休みに入ってからブロック予選が行われるところもあり、本誌〆切りまでに、出場チームは出揃っていないが、大会を開くたびにレベルの向上がみられ、選手の体格も目立って成長している。特に女子は、中学球界の充実度が高校界へ影響する傾向が早くも現われはじめており、ことしは、どのようなチーム、プレイヤーが飛び出してくるか興味深い。

# 4回目迎える高専選手権

第4回全国高専選手権は8月25日（開会式）から27日まで秋田県立体育館を主会場にして行われる。参加校は、規定の地区割りにしたがった16校。

過去3回の成績をみると一関（岩手）、大阪府立（大阪）、宇部（山口）がトップスリーといえ、ことしあたり、この壁を突き破るような〝新鋭校〟が出るかどうか。

**180名が参加**　指導者を目指す全国教員養成大学ハンドボール研修会は8月23日から26日まで東京の青少年総合センターで開かれるが、参加申しこみは180名（定員）となって〆切られた。

# インター・ハイ目指して（下）

## ～全日本高校選手権各県予選記録～

◇7月15日まで報告分◇

## 東北

◇秋田県

▼男子予選リーグA組

大曲農 18—3 大曲東
秋田南 12—9 羽後
大曲東 10—7 秋田南
大曲農 20—5 羽後
大曲農 22—11 秋田南
羽後 7—5 大曲東

▽同B組

大曲 10—6 湯沢
大曲 17—10 横手
湯沢 23—12 横手

▽同決勝トーナメント1回戦

大曲農 11—9 湯沢
大曲 15—4 大曲東

▽同決勝

大曲農 9—8 大曲

大曲農は3年連続7度目の代表

▼女子予選リーグA組

大曲 12—2 六郷
大曲 6(分)6 大曲農
大曲農 16—0 六郷

▽同B組（1試合）

和洋女 9—1 大曲東

▽同決勝トーナメント1回戦

大曲農 13—0 大曲東
和洋女 8—1 大曲

▽同決勝

和洋女 4—3 大曲農

和洋女は17年連続19度目の代表

◇山形県

▼男子決勝リーグ

新庄工 8—6 東根工
大石田 9—5 真室川
寒河江 14—7 新庄工
東根工 4—2 大石田
寒河江 14—8 真室川
大石田 9—7 寒河江
新庄工 10—9 真室川
寒河江 12—3 東根工
大石田 9—8 新庄工
東根工 8(分)8 真室川

【順位】①大石田②寒河江③新庄工④東根工⑤真室川。大石田は2年連続11度目の代表

▼女子決勝リーグ

竹田女 4(分)4 寒河江
米沢女 14—0 竹田女
米沢女 12—0 寒河江

【順位】①米沢女②寒河江③竹田女

米沢女は3年連続7度目の代表

◇青森県

▼男子1回戦

青森南 15(分)11 七戸
青森東 10—9 五所川原
弘前南 26—7 坂柳
柏木農 11—9 十和田工
鰺ケ沢 7—6 三本木

▽同準々決勝

野辺地 15—5 青森南
弘前南 28—7 青森東
柏木農 15(延)13 青森
青森商 19—12 鰺ケ沢

▽同準決勝

野辺地 14—8 弘前南
青森商 13—7 柏木農

▽同決勝

青森商 11—10 野辺地

青森商は初出場

▼女子1回戦（1試合）

青森東 12—8 七戸

▽同準決勝

青森西 18—1 青森東
野辺地 7—5 三本木

▽同決勝

青森西 11—7 野辺地

青森西は8年連続8度目の代表

## 関東

◇栃木県

▼男子1回戦

栃木農 15(延)14 石橋
馬頭 25—9 矢板中央
国学院栃木 20—10 烏山
足利工 26—15 足利南

▽同準々決勝

馬頭 32—4 足利
栃木農 21—9 宇都宮工
国学院栃木 13—11 藤岡
足利工 27—17 足利商

▽同準決勝

栃木農 13—12 馬頭
国学院栃木 22—4 足利工

▽同決勝

国学院栃木 15—9 栃木農

国学院は3年連続8度目の代表

▼女子1回戦（3試合）

栃木女 15—1 作新学院
藤岡 14—1 足利女
国学院栃木 59—1 足利南

▽同準々決勝

栃木女 22—3 足利商
馬頭 7—4 佐野女
小山城南 10—6 藤岡
国学院栃木 29—2 矢板中央

▽同準決勝

栃木女 17—2 馬頭
国学院栃木 12—2 小山城南

▽同決勝

栃木女 8—4 国学院栃木

栃木女は2年ぶり14度目の代表

◇埼玉県

▼男子予選トーナメント1回戦

朝霞 9—7 国立坂戸
浦和西 21—4 八潮
草加 15—12 桶川
城西川越 20—9 浦和工
秩父農工 25—6 蓮田
県立坂戸 10—7 埼玉栄
大宮 18—3 熊谷
浦和南 19—10 和光
秩父 25—0 羽生一

――第1回IH4位は山口高――

本誌150号（52年2月・記録特集号）64頁「第1回全日本高校選手権」男子のうち、玉名（熊本）がベスト8へ進出したようにお伝えしたのは山口（山口）の誤り。

山口は3回戦で玉名を3—0で破っており、したがって準々決勝は、山口5—1麻生(茨城)準決勝は足利（栃木）5—3山口、3位決定戦は済々黌(熊本)3—2山口でした。

お詫びして訂正するとともにこの資料を提供して下さった山口・常田隆氏にお礼中しあげます。

菖蒲 20—14 北本
浦和実 16—12 大宮北
戸田 34—5 小松原
浦和市立 15—9 春日部
深谷一 10—3 寄居

▽同2回戦

川口北 32—14 朝霞
浦和西 10—9 草加
城西川越 16(分)16 秩父農工

PTC2—0で城西川越の勝ち

大宮 25—6 県立坂戸
浦和南 23—4 秩父
菖蒲 17—13 浦和実
浦和市立 19—9 戸田
川口工 36—5 深谷一

▽同決勝リーグ進出校決定戦

川口北 22—6 浦和西

大　宮 19―13 城西川越
浦和南 28―8 菖　蒲
川口工 16―11 浦和市立
▽同決勝リーグ
川口北 27―13 大　宮
川口工 23―11 浦和南
川口北 16―9 浦和南
川口工 15―12 大　宮
浦和南 20―14 大　宮
川口北 13(分)13 川口工
【順位】①川口北②川口工③浦和南
④大宮。川口北は初出場
▼女子予選トーナメント1回戦
深谷一 24―1 戸　田
秩　父 14―9 八　潮
行田女 12―3 川口女
朝　霞 17―4 熊谷商
浦和西 26―2 熊谷女
浦和市立 6―3 和　光
浦和実 10(分)10 浦和南
　PTC2―0で浦和実の勝ち
川口北 16―0 北　本
▽同決勝リーグ進出校決定戦
深谷一 17―2 秩　父
行田女 11―5 朝　霞
浦和西 15―4 浦和市立
川口北 24―3 浦和実
▽同決勝リーグ
深谷一 3(分)3 行田女
川口北 7―6 浦和西
深谷一 16―3 浦和西
行田女 10―4 川口北
行田女 7(分)7 浦和西
深谷一 10―7 川口北
【順位】①深谷一②行田女③川口北
④浦和西。深谷一は12年連続13度目の代表（深谷女時代を含む）

◇群馬県
▼男子1回戦（3試合）
藤　岡 13―7 前橋商
吉　井 28―9 桐　生
前橋工 29―12 下仁田
▽同準決勝
富　岡 18―7 藤　岡
吉　井 13―6 前橋工
▽同決勝
富　岡 8―3 吉　井
　富岡は2年連続15度目の代表
▼女子1回戦（1試合）
吉　井 18―12 高崎女
▽同準々決勝
高崎市女 13―2 前橋市女
下仁田 13(延)12 前橋東商
群女短大付 20―3 前橋商
吉　井 10―7 桐生女
▽同準決勝
高崎市女 7―4 吉　井
群女短大付 18―3 下仁田
▽同決勝
群女短大付 15―3 高崎市女
　群女短大付は2年連続2度目の代表

◇山梨県
▼男子1回戦（2試合）
峡　北 21―12 韮　崎
甲府南 10―7 谷　村
▽同2回戦
日大明誠 31―7 峡　北
日　川 25―13 甲府西
甲府一 16―10 甲府商
甲府工 21―8 大　月
吉　田 21―11 韮崎工
東海甲府 13―11 都　留
機　山 12―8 長　坂
塩　山 35―0 甲府南
▽同準々決勝
日大明誠 11―9 日　川
甲府工 16―15 甲府一
吉　田 17―12 東海甲府
塩　山 27―2 機　山
▽同準決勝
日大明誠 20―9 甲府工
塩　山 10―4 吉　田
▽同3位決定戦
甲府工 15―13 吉　田
▽同決勝
塩　山 13―10 日大明誠
　塩山は2年ぶり17度目の代表
▼女子1回戦（3試合）
長　坂 11―4 甲府一
甲府商 12―6 一　商
甲府西 9―5 甲府南
▽同準々決勝
日　川 13―3 長　坂
吉田商 14―1 甲府商
吉　田 11―5 塩　山
山　梨 16―1 甲府西
▽同準決勝
日　川 12―3 吉田商
山　梨 6―5 吉　田
▽同3位決定戦
吉田商 8―5 吉　田
▽同決勝
日　川 12―3 山　梨
　日川は3年連続7度目の代表

◇千葉県
▼男子1回戦（Ⅱ準々決勝）
鶴　舞 19―8 清　水
市　原 23―5 柏　南
八千代 15―11 我孫子
佐　原 14―5 小　金
▽同準決勝
鶴　舞 15―10 市　原
佐　原 14―10 八千代
▽同決勝
鶴　舞 14―8 佐　原
　鶴舞は3年ぶり2度目の代表
▼女子1回戦（Ⅱ準決勝）
和洋女 7―5 佐　原
昭和学院 10―3 佐原女
▽同決勝
昭和学院 8―2 和洋女
　昭和学院は3年連続11度目の代表

◇東京都
▼男子1回戦
東村山 25―5 田無工
神　代 25―3 芝工大第一
拓大一 26―6 忠　生
園　芸 21―11 農大一
府　中 21―13 雪ケ谷
佼　成 25―9 桜水商
三　鷹 14―13 明　星
向ケ丘 17―9 　西
府中西 不戦勝 農　業
東大和 不戦勝 八王子東
東 17―10 目　黒
青山学院 17―9 鷺　宮
南多摩 32―2 荻　窪
杉　並 19―10 富　士
城　北 11―7 南葛飾
駒大高 18―15 江戸川
教大駒場 19―8 駒場学園
昭　和 15―6 秋　川
国　立 24―6 学大附
立　川 不戦勝 江東工
創　加 17―8 北多摩
武蔵村山 14―9 玉　川
福　生 16―6 富士森
石神井 15―9 科学技術
日大二 23―11 豊多摩
武工大附 不戦勝 墨田川
練　馬 14―11 杉並工
三　商 25―6 東亜学
葛西南 不戦勝 武　蔵
小　岩 26―4 駿台学
青　山 33―8 城西大附
葛飾野 不戦勝 聖学院
明星学園 14―10 五　商
上　野 14―10 錦　城
保　谷 17―12 清　瀬
明　星 16―12 国分寺
▽同2回戦
東村山 13―12 神　代
拓大一 31―2 日　野
園　芸 31―1 成　城
府　中 不戦勝 小金井工
開　成 13―8 佼　成
向ケ丘 20―6 三　鷹
府中西 不戦勝 昭和一
東大和 11―3 井　草
青山学院 11―8 東
南多摩 30―3 調布北
杉　並 12―1 広　尾
城　北 13―3 両　国

駒大高 15－8 府中東
昭和 6－4 教大駒場
国立 8－5 立川
創加 17－7 北多摩
早大学院 19－5 武蔵村山
福生 12－5 白鷗
石神井 不戦勝 永山
日大二 不戦勝 武蔵工大附
深川 19－7 練馬
三商 44－5 志村
小岩 30－9 葛西南
青山 26－4 駒込
羽田工 17－12 葛飾野
片倉 17－2 明星学園
上野 18－2 教大附
明星 14－9 保谷

▽同3回戦

日体荏原 14－12 東村山
拓大一 23－4 園芸
府中 16－8 開成
府中西 15－9 向丘
東大和 16－11 青山学院
南多摩 不戦勝 杉並
駒大高 15－3 城北
新宿 17－11 昭和
中大附 14（延）11 国立
創価 17（延）13 早大学院
石神井 20－10 福生
深川 23－12 日大二
三商 15－9 小岩
羽田工 8－5 青山
片倉 13－4 上野
三宅 22－11 明星

▽同4回戦

拓大一 14－11 日体荏原
府中 16－11 府中西
南多摩 16－10 東大和
駒大高 15－11 新宿
中大附 34－8 創価
深川 19－9 石神井
三商 29－14 羽田工
三宅 30－4 片倉

▽同5回戦

拓大一 15－10 府中
駒大高 23－13 南多摩
中大附 18－13 深川
三宅 29－18 三商

▽同決勝リーグ

中大附 9（分）9 拓大一
三宅 23－15 駒大高
中大附 20－16 駒大高
三宅 24－18 拓大一
拓大一 16（分）16 駒大高
中大附 16－14 三宅

【順位】①中大附②三宅③拓大一④駒大高。中大附は3年ぶり11度目の代表。

▼女子1回戦

石神井 7－4 豊多摩
三商 9－5 学大附
青山学院 不戦勝 農業
南多摩 18－2 日野
日大二 6－5 葛飾商

▽同2回戦

石神井 不戦勝 富士
深川 不戦勝 八王子東
拓大一 10－5 二商
桜水商 12－4 武蔵
本所 不戦勝 荻窪
昭和 5－4 吉祥女
三商 不戦勝 富士森
小平 16－2 清瀬
日体桜華 4－0 五商
府中西 11－10 調布北
小岩 不戦勝 白鷗
保谷 16－2 志村
東村山 11－4 国立
青山学院 11－9 東大和
南多摩 17－0 武蔵丘
神代 不戦勝 墨田川
農大一 10－2 一商
桐朋女 10－4 向島商
国分寺 11－3 福生
広尾 5－2 雪ヶ谷
三鷹 7（延）5 玉川
府中 4－3 江戸川
園芸 不戦勝 明正
佼成 27－1 永山
鷺宮 6－2 江東商
練馬 9－6 北多摩
目白 8－7 南葛飾
杉並 不戦勝 日大二

▽同3回戦

三宅 5－4 石神井
拓大一 14－3 深川
桜水商 7－0 本所
三商 4－2 昭和
小平 11－10 日体桜華
府中西 9－6 小岩
東村山 10－5 保谷
井草 20－2 青山学院
南多摩 9－7 四谷商
神代 9－1 農大一
桐朋女 9－4 国分寺
広尾 12－2 三鷹
府中 9－4 園芸
佼成 13－3 鷺宮
練馬 15－2 目白
藤村 18－3 杉並

▽同4回戦

三宅 20－3 拓大一
桜水商 8－4 三商
小平 22－0 府中西
井草 15－5 東村山
南多摩 15－13 神代
桐朋女 10－5 広尾
佼成 7－4 府中
藤村 22－4 練馬

▽同5回戦

三宅 22－5 桜水商
井草 8－6 小平
桐朋女 9－8 南多摩
藤村 11－4 佼成

▽同決勝リーグ

三宅 14－9 井草
藤村 16－3 桐朋女
三宅 20－4 桐朋女
桐朋女 7－5 井草
藤村 12－5 井草
藤村 8－6 三宅

【順位】①藤村②三宅③桐朋女④井草。藤村は2年連続2度目の代表

## 北信越

◇石川県

▼男子1回戦（2試合）

星稜 20－6 金沢商
金沢市工 23－9 大谷

▽同2回戦

小松工 9－6 星稜

小松商 19—6 羽咋
大聖寺 15—9 錦丘
県工 14—10 津幡
小松 20—5 松任
泉丘 12—3 松陵工
二水 14—5 宝達
寺井 12—5 金沢市工
▽同準々決勝
小松工 24—7 小松商
県工 15—11 大聖寺
泉丘 12—8 小松
寺井 16—2 二水
▽同準決勝
小松工 21—4 県工
泉丘 8—7 寺井
▽同決勝
小松工 12—4 泉丘
小松工は2年ぶり3度目の代表
▼女子1回戦（1試合）
短大高 7—4 津幡
▽同準々決勝
松任 7—6 北陸大谷
小松市女 27—3 短大高
小松商 6—5 金沢商
星稜 9—7 宝達
▽同準決勝
小松市女 19—0 松任
小松商 15—4 星稜
▽同決勝
小松市女 22—1 小松商
小松市女は13年連続13度目の代表

◇福井県
▼男子予選リーグA組
北陸 20—6 科学
北陸 17—9 藤島
藤島 14—4 科学
▽同B組
羽水 18—13 高志
高志 21—12 武生商
羽水 26—7 武生商
▽同C組
武生 25—6 敦賀工
若狭 27—5 敦賀工
若狭 17—10 武生
▽同決勝トーナメント1回戦
高志 18（延）17 武生
藤島 12—9 羽水
▽同準決勝
北陸 18—4 高志
藤島 15—9 若狭
▽同決勝
北陸 21—11 藤島
北陸は初出場
▼女子予選リーグA組
武生商 8—2 福井商
福井商 11—5 若狭
武生商 23—6 若狭
▽同B組
仁愛 16—2 高志
羽水 7—5 藤島
仁愛 6—2 羽水
藤島 14—1 高志
羽水 13—2 高志
仁愛 12—4 藤島
▽同決勝トーナメント1回戦
武生商 9—5 羽水
仁愛 5—4 福井商
▽同決勝
武生商 6—4 仁愛
武生商は2年ぶり4度目の出場

## 近畿

◇滋賀県（二次予選）
▼男子準決勝
米原 16—10 彦根西
八幡工 22—13 彦根東
▽同決勝
八幡工 15—10 米原
八幡工は5年連続9度目の代表
▼女子準決勝
彦根南 8—7 高島
守山女 17—3 大津商
▽同決勝
守山女 12—5 彦根南
守山女は3年連続6度目の代表

◇京都府
▼男子1回戦
嵯峨野 17—11 乙訓
伏見 14—8 城南
鴨沂 20—5 京都商
西京 10—8 同志社
城陽 15—10 洛陽
堀川 17—15 北嵯峨
田辺 12—0 日吉ケ丘
向陽 15—7 大谷
▽同2回戦
洛東 18—9 嵯峨野
伏見 10—4 塔南
鴨沂 12—10 桂
洛星 11—9 西京
城陽 12—10 桃山
東宇治 23—14 堀川
洛北 17—3 田辺
東山 14—7 向陽
▽同準々決勝
洛東 14—11 伏見
洛星 7—5 鴨沂
東宇治 24—6 城陽
東山 26—6 洛北
▽同準決勝
洛星 7—4 洛東
東山 27—9 東宇治
▽同決勝
東山 15—4 洛星
東山は2年連続2度目の代表
▼女子1回戦（3試合）
東宇治 4—3 嵯峨野
城南 7—1 西山
洛東 21—2 桃山
▽同2回戦
鴨沂 5—3 京都女
洛北 14—2 京都商
塔南 17—0 城陽
乙訓 5—3 明徳
光華 8—4 日吉ケ丘
西京 10—3 東宇治
城南 18—2 向陽
精華 7—3 洛東
▽同準々決勝
西京 8—3 鴨沂
城南 8—7 洛北
乙訓 9—6 塔南
精華 5—1 光華
▽同準決勝
西京 6—5 城南
乙訓 3—2 精華
▽同決勝
西京 10—2 乙訓
西京は2年連続2度目の代表

◇大阪府
▼男子1次予選1回戦
八尾 19—6 勝山
四条畷 15—11 寝屋川
藤井寺 24—9 淀工
東淀川 22—1 島本
佐野工 11—7 和泉
牧野 12—8 岸和田
富田林 12—4 茨木
上宮 12（分）12 東住吉
PTC6—5で上宮の勝ち
▽同2回戦
登美丘 28—8 大教平野
北野 28—8 和泉工
三国ケ丘 17—11 大商堺
摂津 13—2 箕面学園
盾津 16—10 市立工芸
大商 17—3 長野
枚方 27—4 花園
高津 10—8 鳳
長尾 12—9 関西大倉
堺東 14—13 阪南
山本 15—7 豊島
桜塚 40—5 東豊中
門真 24—5 泉大津
都島工 12—10 清風
桃山 16—6 泉陽
追手門 18—11 泉南
春日丘 18—0 淀商
堺工 18—4 金岡
此花 10—9 浪商
富田林 10—9 扇町
長野 18—7 追手門
羽曳野 17—14 松原
池田 19—10 同志社
箕面 16—1 北陽
泉北 24—8 千里
春日丘 25—4 大東
住吉 19—5 阿倍野
八尾 12—7 豊中
四条畷 25—12 城東工
北淀 25—10 藤井寺
大阪学院 棄—権 佐野工
初芝 11—7 牧野
天王寺 16—9 上宮
▽同3回戦
八尾 7—11 登美丘
四条畷 18—10 北野
三国丘 14—6 摂津
北淀 15—5 質津
大商 10—8 大阪市立
枚方 24—4 高津
堺東 12—10 長尾
大阪学院 24—10 山本
初芝 15—13 桜塚
門真 12—11 都島工
桃山 11—6 堺工
此花 13—10 富田林
羽曳野 11（分）11 長野
PPC—0で羽曳野の勝ち
箕面 16—3 池田
春日丘 12—6 泉北
天王寺 7（分）7 住吉
PTC2—0で天王寺の勝ち
▽同4回戦（勝者は最終予選へ）
八尾 23—12 四条畷
北淀 11—10 三国ケ丘
枚方 10—8 大商
大阪学院 20—10 堺東
此花 14—12 桃山
初芝 15—4 門真
箕面 17—6 羽曳野
天王寺 55—55 春日丘
▼男子二次予選▽東ブロック1回戦
同志社香里 10（分）10 門真
PTC2—0で同志社の勝ち
大阪市立 17—4 寝屋川
三島 22—7 島本
長尾 24—8 高津
▽同2回戦
四条畷 21—3 同志社香里
都島工 10—4 摂津
大阪市立 16—3 浪商
城東工 24—11 三島
春日丘 17—10 茨木工
茨木 23—3 淀川工
関西大倉 棄—権 大東
長尾 14—10 牧野
▽同敗者復活1回戦
摂津 10—6 門真
寝屋川 10—6 三島
浪商 20—4 追手門
島本 10—9 淀川工
高津 棄—権 大東
▽同（勝者）3回戦
都島工 14—8 四条畷
大阪市立 16—2 城東工
春日丘 22—5 茨木
長尾 20—9 関西大倉
▽同敗者復活2回戦
摂津 10—5 同志社香里
浪商 12—11 寝屋川
島本 7—6 茨木工
牧野 19—4 高津
▽同3回戦
摂津 14—5 城東工
浪商 14—13 四条畷
島本 10—6 関西大倉
茨木 14—10 牧野
▽同4回戦
浪商 18—2 摂津
島本 8（分）8 茨木
PTCで島本の勝ち
▽同（勝者）4回戦
都島工 9—7 大阪市立
春日丘 20—6 長尾
▽同5回戦（勝者が最終予選へ）
都島工 12—6 春日丘
▽同敗者復活5回戦
浪商 18—6 長尾
大阪市立 19—5 島本
▽同6回戦
大阪市立 13—9 浪商
▽同7回戦（勝者が最終予選へ）
大阪市立 14—5 春日丘
▽同南ブロック1回戦
鳳 16—6 泉鳥取
成器 12（分）12 岸和田
PTC2—0で成器の勝ち
三国丘 19—7 泉大津
佐野工 15—6 生野
長野 10（分）10 松原
PTC2—0で長野の勝ち
泉陽 6—5 和泉工
▽同2回戦
境東 13—6 和泉
大商堺 8—6 金岡
富田林 11—8 鳳
住吉 27—4 成器
登美丘 12—9 佐野工
長野 棄—権 羽曳野
泉北 12—6 泉陽
堺工 15—8 大商堺
▽同3回戦
住吉 17—9 富田林
三国ケ丘 15—4 登美丘
泉北 13—5 長野
堺東 9—7 堺工
▽同4回戦
三国ケ丘 17—10 住吉
堺東 6—5 泉北
▽同5回戦（勝者が最終予選へ）
泉北 12—7 三国ケ丘
堺東 9—8 住吉
▽同中ブロック1回戦（1試合）
▽同2回戦
市立工芸 24—10 柏原
阪南 22—6 附属平野
勝山 15—6 盾津
東住吉 28—8 池島
山本 19—10 勝山
清風 27—7 藤井寺
上宮 22—4 花園
▽同3回戦
山本 25—9 阿倍野
清風 21—9 市立工芸
東住吉 12—11 上宮
桃山学院 18—7 阪南
▽同4回戦（勝者が最終予選へ）
桃山学院 15—10 清風
山本 14—9 東住吉
▽同北ブロック1回戦
大商 13—6 東淀川
桜塚 18—7 豊島

扇町15―10大教池田
北野20―8千里
東豊中20―14池田
▽同2回戦
大商12―8豊中
桜塚31―5扇町
北野21―8北陽
東豊中14―13箕面学園
▽同3回戦（勝者が最終予選へ）
北野26―12東豊中
大商22―7桜塚

▼男子最終予選1回戦
大阪学院22―15北野
此花20―12泉北
八尾22―10山本
大阪市立9―6天王寺
桃山学院11―10枚方
大商20―11箕面
都島工14―11北淀
初芝16―13堺東
▽同決勝リーグ出場校決定戦
大阪学院15―14桃山学院
大商12―10此花
都島工11―8八尾
大阪市立17―6初芝
▽同決勝リーグ
大阪学院19（分）19大商
大阪市立17―12都島工
大商12（分）11大阪市立
大阪学院21―15都島工
大商12―10都島工
大阪市立12―10大阪学院
【順位】①大阪市立②大商③大阪学院④都島工。大阪市立は2年連続2度目の代表。

▼女子1次予選1回戦
寝屋川18―4八尾
池田8―3樟蔭東
箕面28―1貝塚
大谷14―0高津
金岡13―10豊島
岸和田13―1大東
泉大津10―4長尾
城南棄権創価女子
枚方7―3北野
長野8―4清友
東豊中13―6扇町
梅花棄権茨木
三国ケ丘3―2北淀
春日丘―淀商
▽同2回戦
天王寺棄権泉北
住吉学園21―3寝尾川
和泉7―5池田
箕面7―5摂津
東大阪6―5大谷
金岡22―9箕面東
山本13―8岸和田
桜塚12―2泉大津
城南6―3鶴見商
枚方11―5生野
宜真8―2長野
門真22―4東豊中
鳳7―4梅花
島本15―2三国ケ丘
春日丘8―6豊中
▽同3回戦
住吉学園10―3和泉
箕面7―4東大阪
山本14―11金岡
桜塚14―6四天王寺
城南3―1枚方
天王寺6―4宜真
門真12―3鳳
春日丘9―5島本
▽同4回戦（勝者が最終予選へ）
住吉学園11―4箕面
桜塚17―3山本
城南4―2天王寺
春日丘10―5門真

▼女子2次予選▽東ブロック予選ラウンド
門真棄権交野
枚方13―4長尾
茨木棄権大東
摂津17―5長尾
鶴見商32―0創価女子
門真10―3島本
鶴見商10―7寝屋川
高津棄権大東
枚方5―4摂津
島本棄権交野
寝屋川16―1創価女子
茨木6―4高津
▽同決勝リーグ
枚方8―6門真
鶴見商20―2茨木
鶴見商9―5枚方
門真26―1茨木
枚方12―4茨木
鶴見商8―3門真
鶴見商が最終予選へ
▽同南ブロック1回戦
泉北没収試合生野
泉大津22―3泉取鳥
三国ケ丘6―2岸和田
▽同2回戦
泉北8―5金岡
鳳5―3泉大津
和泉11―3長野
三国ケ丘11―1貝塚
▽同3回戦
鳳13―3泉北
和泉4―0三国ケ丘
▽同4回戦（勝者が最終予選へ）
鳳2（分）2和泉
PTC2―0で鳳の勝ち
▽同中ブロック1回戦
四天王寺13―4八尾
八谷30―3清友
池島棄権山本
▽同2回戦
東大阪18―2樟蔭東
天王寺5（分）5大谷
PTC2―0で天王寺の勝ち
池島―
四天王寺―
▽同3回戦
四天王寺8（分）8池島
PTC1―0で四天王寺の勝ち
東大阪―天王寺
▽同4回戦（勝者が最終予選へ）
東大阪7―4四天王寺
▽同北ブロック1回戦
北野5（分）5北淀
PTC3―2で北野の勝ち
宜真9―5箕面
東淀川6―5東豊中
池田18―6福島女
豊島10―2扇町
梅花16―2成蹊
淀商5―4箕面東
▽同2回戦
豊中14―1淀商
宜真5―3北野
池田9―4東淀川
梅花9―3豊島
▽同3回戦
池田10―8宜真
豊中8―2梅花
▽同4回戦（勝者が最終予選へ）
池田11―7豊中

▼女子最終予選1回戦（決勝リーグ出場校決定戦）
城南6―0鳳
春日丘13―4池田
東大阪14―8桜塚
住吉学園11―3鶴見
▽同決勝リーグ
春日丘2―1城南
住吉学園16―4東大阪
春日丘8―7東大阪
城南5（分）5住吉学園
住吉学園5―4春日丘
城南6―2東大阪
【順位】①住吉学園②春日丘③城南④東大阪。住吉学園は2年ぶり5度目の代表。

## 中国

◇島根県

▼男子1回戦（＝準々決勝）
松江工 16—12 浜田水産
羽須美 18—4 江ノ川
松江南 23—8 松江農
飯南 25—8 松江商
▽同準決勝
松江工 31—8 羽須美
松江南 9—7 飯南
▽同3位決定戦
飯南 25—5 羽須美
▽同決勝
松江工 16—8 松江南
松江工は2年連続18度目の代表

▼女子1回戦（3試合）
松江家政 7—6 松江南
松江商 19—6 江ノ川
松江市女 8—7 松江農
▽同準決勝
浜田商 7—4 松江家政
松江商 6—5 松江市女
▽同3位決定戦
松江市女 13—8 松江家政
▽同決勝
浜田商 6—4 松江商
浜田商は2年連続4度目の代表

○……記録未着の県もありますがこの企画は本号で打ち切らせていただきます。なお、〆切り後到着の「神奈川」は34頁に掲載しました。

## 四国

◇高知県

▼男子1回戦（1試合）
中村 8—7 追手前
▽同準々決勝
須崎 8—5 高知西
吾北 22—11 須崎工
幡多農 36—8 中村
土佐 22—3 中芸
▽同準決勝
幡多農 20—6 須崎
土佐 18—13 吾北
▽同3位決定戦
吾北 16—9 須崎
▽同決勝
土佐 10—6 幡多農
土佐は3年連続13度目の代表

▼女子1回戦（＝準々決勝）
城山 18—4 伊野商
大正 25—1 佐川
中村 11—1 高知西
中芸 22—6 須崎
▽同準決勝
城山 5—4 大正
中芸 4—2 中村
▽同3位決定戦
中村 10—5 大正
▽同決勝
中芸 10—6 城山
中芸は初出場。

## 九州

◇宮崎県

▼男子1回戦
日南 11—10 宮崎南
宮崎西 15—9 宮崎電子
妻 21—14 宮崎工
小林工 17—8 日南工
都城工 13—4 泉ケ丘
西都商 16—13 日向工
▽同準々決勝
都城商 16—6 日南
延岡 17—11 宮崎西
小林工 25—10 妻
都城工 21—6 西都商
▽同準決勝
小林工 10—8 都城商
都城工 14—6 延岡
▽同3位決定戦
都城商 15—12 延岡
▽同決勝
都城工 16—15 小林工
都城工は4年ぶり5度目の代表

▼女子1回戦（1試合）
日南振徳 7—5 泉ケ丘
▽同準々決勝
西都商 17—3 妻
都城商 13—1 都城西
延岡 17—0 本庄
小林商 13—2 日南振徳
▽同準決勝
小林商 10—6 西都商
延岡 8—3 都城商
▽同3位決定戦
都城商 9(延)7 西都商
▽同決勝
延岡 6—4 小林商
延岡は初優勝

◇熊本県

▼男子1回戦
鎮西学院 22—14 御船
二高 13—10 松橋
八代農 23—10 商大付
熊本市立 24—12 真和
▽同2回戦
天草(定) 19—17 小国
九州学院 20—12 水産
済々黌 26—17 八代工
熊本商 33—10 倉岳
河浦 21—7 東海二
球磨商 16—15 小川工
マリスト 29—7 氷川
熊本一工 24—14 鎮西学院
宇土 14—11 水俣工
牛深 21—12 菊池農
八代 17—13 天草工
熊本 18—8 二高
熊本市商 29—6 八代農
水俣 28—9 天草農
天草 32—10 専大玉名
大矢野 22—9 熊本市立
▽同3回戦
熊本一工 34—8 天草(定)
宇土 18—8 九州学院
済々黌 20—17 牛深
熊本 15—14 八代
熊本市商 31—4 熊本商
マリスト 20—8 河浦
球磨商 16—13 水俣
大矢野 15—13 天草
▽同準々決勝
熊本一工 24—6 宇土
済々黌 10—7 熊本
マリスト 13—12 熊本市商
大矢野 22—10 球磨商
▽同準決勝
熊本一工 18—9 済々黌
マリスト 14—13 大矢野
▽同決勝
熊本一工 20—7 マリスト
熊本一工は6年ぶり2度目の代表

▼女子1回戦
牛深 12—4 九州女学院
大矢野 17—7 信愛女学院
八代農 23—7 鹿本商工
菊池農 17—9 倉岳
天草 18—6 熊本商
水俣 29—4 鎮西学院
天草農 21—6 八代
▽同2回戦
熊本女商 22—4 牛深
菊池農 11—9 尚絅
球磨商 8—6 大矢野
宇土 13—10 熊本市商
氷川 14—7 八代農
松橋 10—9 天草
松嶋商 11—9 水俣
熊本市立 14—1 天草農
▽同準々決勝
熊本女商 22—2 菊池農
球磨商 13—5 宇土
松橋 15—11 氷川
熊本市立 23—9 松嶋商
▽同準決勝
熊本女商 18—1 球磨商
熊本市立 17—5 松橋
▽同決勝
熊本女商 5—2 熊本市立
熊本女商は2年連続3度目の代表

◇神奈川県

▼男子予選トーナメント1回戦

百合ケ丘 9―8 相工大付
鎌倉学園 16―3 柿生
厚木商 15―4 三浦
大和 29―2 上溝南
金井 12―7 立野
北陵 24―4 大和南
相模台工 17―8 桐蔭
県川崎 19―6 松田
市川崎 20―14 瀬谷
戸塚 9―8 麻溝台
県商工 20―6 市川崎工
松陽 16―15 桜ケ丘
日野 19―3 新城
鶴見 19―6 柏陽
磯子工 11―10 秦野
相模原 21―10 多摩
川和 14―13 希望ケ丘
横須賀学院 21―10 座間
北陵 不戦勝 横浜商
川崎北 11―4 港北
商科大 26―3 橘
高津 16―14 翠嵐
緑ケ丘 27―4 茅ケ崎
向岡工 17―5 逗子
平沼 43―2 神奈川工

▽同2回戦

関東学院 46―2 百合ケ丘
鎌倉学園 19―12 厚木商
金井 14―5 大和
東 13―10 北陵
横浜商工 20―13 相模台工
市川崎 25―10 県川崎
県商工 13―7 戸塚
慶応 15―7 松陽
浅野 16―6 日野
鶴見 26―10 磯子工
相模原 13―9 川和
生田 12―11 横須賀学院
光陵 15―8 川崎北
商科大 20―7 高津
緑ケ丘 21―7 向岡工
法政二 14―8 平沼

▽同3回戦

関東学院 18―2 鎌倉学園
金井 14―4 東
横浜商工 21―9 市川崎
慶応 12―9 県商工
浅野 15―11 鶴見
生田 18―9 相模原
商科大 17―8 光陵
法政二 17―6 緑ケ丘

▽同決勝リーグ進出校決定戦

関東学院 14―5 金井
慶応 13―7 横浜商工
浅野 13―10 生田
法政二 16―8 商科大

▽同決勝リーグ

関東学院 14―10 慶応
法政二 16―12 浅野
関東学院 14―8 浅野
慶応 13―10 法政二
慶応 17―12 浅野
関東学院 16―7 法政二

【順位】①関東学院②慶応③法政二④浅野学園。関東学院は2年ぶり9度目の代表。

▼女子予選トーナメント1回戦

県商工 21―4 立野
希望ケ丘 8―4 上溝南
明倫 11―1 高浜
京浜横浜 16―4 高木
東 13―0 多摩
平沼 17―1 大和
日野 5―3 北陵
生田 17―3 緑ケ丘
市川崎 18―0 高津
相模原 9―2 横須賀学院
松陽 4（延）2 戸塚
北鎌倉 8―1 厚木商
相原 不戦勝 橘
上溝 8―3 麻溝台
県川崎 9―5 柿生
川和 14―4 江南

▽同2回戦

県商工 11―1 希望ケ丘
明倫 9（分）9 京浜横浜
PTC2―1で明倫の勝ち
平沼 6―2 東
生田 11―2 日野
市川崎 6―3 相模原
北鎌倉 16―3 松陽
上溝 20―1 相原
川和 13―5 県川崎

▽同決勝リーグ進出校決定戦

明倫 2―1 県商工
生田 12―4 平沼
市川崎 9―2 北鎌倉
川和 4―2 上溝

▽同決勝リーグ

明倫 12―4 生田
川和 7（分）7 市川崎
明倫 5―4 市川崎
川和 12―3 生田
市川崎 8―2 生田
明倫 5―2 川和

【順位】①明倫②川和③市川崎④生田。明倫は5年連続5度目の代表

# 九州選抜を韓国へ派遣 高体連

第11回（女子第4回）日韓高校交流は、8月15日から19日まで「九州高校選抜・男女」（中西敬一団長ら役員5、選手24）が遠征して行われるが、全国高体連ハンドボール部は7月2日、そのメンバーを発表した。

日韓高校交流は、43年から昨年まで（女子は48年から）日本体協事業として各競技一斉に行っていたが、ことしから単独交流に切り替えられ、ハンドボール界は、遠征年（偶数年）は、各ブロックの選抜チームを順次派遣し継続することになったもの。

高校の単独交流は38年11月、韓国高校選抜（男子のみ）が来日して以来。

九州選抜は15日出発、16、18日ソウルで男女各2試合を行う予定。選手は全員3年生。

これまでの通算成績は男子が日本側の28戦8勝4分16敗（うち11人制4戦3勝1分）、女子が日本側の6戦3勝3敗。

男子は50年の2分けをはさんで47年の第2戦以来、6試合勝利がない。

訪韓九州高校選抜

| | | | |
|---|---|---|---|
| ・団長 | 中西　敬一 | 全国高体連副部長 | |
| 〔男子〕 | | | |
| ・監督 | 日野　博 | | |
| ・コーチ | 山形　久 | | |
| ・GK | 小川　嘉一 | （小倉西） | 177cm |
| | 西村　達良 | （熊本一工） | 172 |
| ・FP | 東長浜秀吉 | （興南） | 185 |
| | 原田　新治 | （久工大附） | 181 |
| | 内野　義文 | （佐賀農） | 181 |
| | 宇野　巧一 | （済々黌） | 178 |
| | 森木　均 | （小倉西） | 178 |
| | 地主園和志 | （隼人工） | 178 |
| | 藤永　一郎 | （佐世保西） | 175 |
| | 大鶴　勝也 | （熊本一工） | 175 |
| | 有馬　茂 | （小林工） | 166 |
| | 姫野　孝明 | （大分電波） | 165 |
| 〔女子〕 | | | |
| ・監督 | 甲斐　忠義 | | |
| ・コーチ | 井手　和洋 | | |
| ・GK | 井村文光子 | （熊本女商） | 172cm |
| | 植木ちあき | （別府青山） | 164 |
| ・FP | 三好由香里 | （別府青山） | 169 |
| | 千原　彰子 | （熊本女商） | 168 |
| | 薮田　典子 | （東海第五） | 166 |
| | 徳渕　妙子 | （神埼農） | 165 |
| | 蔵本由美子 | （島原農） | 163 |
| | 川辺　操枝 | （小林商） | 162 |
| | 福永　光子 | （熊本女商） | 160 |
| | 柿木美津子 | （財部） | 159 |
| | 喜久山晶子 | （浦添） | 156 |
| | 江島　直美 | （福埼農） | 155 |

〈リポート〉

# 年代別にみたインターハイ出場監督の指導法

山崎正利
（中部工業大学）

## 一、はじめに

わが国のスポーツは、学校体育を中心に発達してきた。中でも学校の課外活動としての運動部が、その中心的役割を果たしてきているといってよい。現在でも、各種スポーツ団体の登録会員の三分の二は、学生、生徒であるといわれている。このように学校教育を基盤に、教育の手段として、あるいは行政的な立場から、運動部は育てられてきた。その運動部にたずさわる指導者は、顧問教師と先輩である。

最近になって、運動部に対して学校や一般の人々が批判的な目で見るようになってきた。例えば、最近のスポーツが著しく高度化してきたために、運動部活動を一日数時間、日曜日も返上して練習をしなければ、試合における成績が期待できなくなる。そのために毎日のハードトレーニングで、学業の時間がほとんどなくなり、学業が二義的になりがちなので、学校から敬遠されがちになる。また、このように小数の選手の活動のために、学校の体育施設が独占される。生徒会費の大部分が運動部活動のために使われ、他の生徒の活動が無視されるなど、機会執等の立場からの批判、運動部内の人間関係における伝統的な封建性をきらって、最近運動部に入部する生徒が減少していること。さらには運動部指導者の勤務時間や責任問題をめぐって、論争がなされている等々で、学校の運動部は根底からゆさぶられているのが現状である。

このような現状の中で、ハンドボール部を指導し、第25回全日本高等学校ハンドボール選手権大会に出場した指導者を対象に、ハンドボール部の指導に関する実際を調査した結果を報告する。

## 二、研究目的

ハンドボール部の指導者の指導状況や指導理念を年代別に明らかにする。

## 三、調査方法

(1) 期日　昭和49年8月1日

(2) 場所　北九州市立総合体育館

(3) 調査方法　質問紙法

(4) 調査対象　第25回全日本高等学校ハンドボール選手権大会出場チーム監督全員

(5) 調査表配布数　98（男子チーム49、女子チーム49）

(6) 調査表回収数　65（男子チーム34、女子チーム31）

(7) 調査表回収率　66.3%（男子チーム69.3%、女子チーム63.3%）

## 四、結果と考察

(1) 指導者の年令

図1に示すように指導者の年令層は、20才代は男子チームに、30才代は女子チームにやや多く、40才代は男女チーム共ほぼ同じである。全国大会に出場した監督の半数以上は30才代であり、全体では男子、女子チームの指導者の平均年令は、33.5才である。

(2) ハンドボール部の指導計画

クラブ活動の計画を誰が推進するかについてみたのが、図2である。男子チームと女子チームの間に有意差がみられる。男子は「クラブ員全員で話し合ってきめる」44.1%と約半数、女子は16.1%と小数であり、女子チームは「指導者だけできめる」54.8%と半数以上あるのに対して、男子チームは14.7%と少ない。「指導者、主将マネジャーできめる」は男子41.2%、女子29%となっている。これを指導者の年令層からみると、男子チームの20才代、30才代は「指導者、主将、マネジャー」で決定するチームが85.7%と圧倒的に多い。女子チームは、20才代、30才代、40才代とも指導者だけできめているチームが過半数に達している。このような指導者中心のクラブ活動の良否は別として、その要因について考察を加える。

スポーツをするときのタイプを次の2つに分けてみた「練習と並行して参考書を読んだり、人の話しを聞いたりして理論的な練習をしないと気がすまないタイプ（思考派）。理論的な勉強にはあまり興味がなく、ただひたすらに練習を積み重ねるタイプ（無思考派）。」の2つのタイプについてである。その意味では「無思考派選手」が全国大会に出場した女子チームに多いといえる。筆者は、第22回高等学校ハンドボール選手権大会に出場した選手をこの2つのタイプに適応して報告した。それによれば男子選手71.2%、女子選手84.5%と無思考派選手が多く、ただひたすらに監督、コーチのいう通り練習する無思考派選手である。そのため指導者は、選手の身体的、精神的な特性や傾向、あるいは社会的、経済的環境等に注意しながら指導にあたることが望まれる。同時に中学時代ハンドボールを経験する選手が少ないことも要因の1つに挙げられると報告した。このようにハンドボール競技の経験の程度や無思考派選手との関連か

図1. 指導者の年令(%)

平均…男子・女子チームとも33.5才

図2. クラブ活動の計画(%)

ら、女子チームの場合、指導者が中心となる傾向が強く、男子チームにおいては、指導者よりも、むしろ選手が中心となり、それぞれの選手が持つ特性を発揮できるよう計画されているといえる。

(3) 指導者の指導に対する考え

文部省の通達に運動部の指導は学校教育の一部として、生徒の正常な身体的発達を図るとともに、責任、協力、寛容、明朗などの望ましい態度、習慣の育成を目ざして行なわれるべきである。……学校における生徒指導や特別教育活動一般の問題として、検討し指導の強化を図る必要がある。この際学校における運動部の指導に、次の事項に留意され、運動部の運営が、単に生徒の自主的活動に放任されることなく、学校教育の一部として充分な指導が行なわれるよう、ご配慮願います。」とある。このように学校教育の一環として充分な指導ということに対して、実際の現場にたずさわっている指導者の考えは、どうであるかについて聞いてみた。図3は、過去にハンドボールの指導を「やめたい」と思った事があるかという設問に対しての結果である。年令別に有意差があり、男子チームでは、指導をやめたいと考えた事が「ある」者は、20才代は10％と低率であるが、30才代、40才代では過半数の指導者が、やめたいと考えた事がある。女子チームも、20才代は33％と少ないが、30才代は65％と男子チームより多い。40才代はほぼ男子チームと同様である

全体では、20才代の指導者は非常に少ないが、30才代、40才代は過半数の指導者がハンドボールの指導を一度は「やめたい」と考えた事がある。その「やめたい」と考えた理由については、図4（次頁）に示す通りである。「時間的に余裕がない」「体力的にまた技術的に自信がない」「クラブ活動に対して、学校の理解がない」等であり、これを年代別にみると、20才代は「勝利を目ざし「ハンドボールの普及」「自分がハンドボールが好き」そしてハンドボールを通じて人間形成をしていこうとする積極的な態度で指導も熱心である。30才代は「時間的に余裕がなく、自分の生活ができない」「体力的に自信がなく、技術的にむずかしく指導にゆきずまる」「学校の指導体制の方向ずけに疑問を感じる」等に悩み、指導者が消極的になる者と反面、「勝利をめざして」一層積極的に指導にたずさわり、ハンドボールを通じて生徒のちがった面を発見したり、選手とのふれあいによって、チームワークの強化を計る等、より一層徹底した指導をおこなう者とに二分される傾向がみられる。40才代は「時間的に余裕がなく、自分の生活ができない」「学校がスポーツに対して理解関心がないため指導がしにくい」「年令的な問題」などを挙げている。また指導を続ける40才代は、チャンピオンスポーツ的な面はなく、「チームプレーのすばらしさを知ってほしい」「生徒にハンドボール競技から、苦しみ、喜び、努力などを学ばせたい」「ハンドボールの普及」「自分がハンドボールが好き」と教育的配慮にもとづいて指導に当っている者が多い

このように指導者の特徴としては、20才代、30才代は、勝利を目ざして一歩一歩前進することを目標に努力しているが、ややもすれば、スポーツ技術の高度化、勝敗主義、過当競争のあまり学校教育の中での活動目的から、スポーツ勝利主義に流れていくような方向に走る傾向が多分にあり、結果的には学校教育から逸脱していくおそれがある。これでは文部省がクラブ活動における教育的効果を充分認めながらも、指導体制の施策に期ける大きな問題があると考えられる。この解決策としては、運動クラブの持つ教育的価値や位置ずけを再認識し、より合理的な指導制度の確立により、運動クラブの新しいビジョンを検討すべき時期にきているのではなかろうか。

**図3.** ハンドボールの指導を「やめたい」と思ったことがあるか(%)

| | | ある | ない |
|---|---|---|---|
| 20才代 | 男子チーム | 10 | 90 |
| | 女子チーム | 33.3 | 66.7 |
| 30才代 | 男子チーム | 52.9 | 47.1 |
| | 女子チーム | 65.0 | 35.0 |
| 40才代 | 男子チーム | 57.1 | 42.9 |
| | 女子チーム | 60.0 | 40.0 |
| 全　体 | 男子チーム | 41.2 | 58.8 |
| | 女子チーム | 58.1 | 41.9 |

年令別　P<0.02

(4) 指導方針

クラブ活動の指導には、指導者の指導理念が運動部員の行動に大きく影響するものと考えられる。図5は、運動部に「きびしい練習が必要だ」という意見について、賛成か反対かを問うてみた結果である。

20才代の男子チームでは20％、女子チームでは0％、つまり、きびしい練習を否定する者は女子チームの指導者には皆無となっている。男子、女子チームとも30才代40才代では否定する者がやや多くなっている。また、男子チームよりも女子チームの20才代30才代、40才代とも支持する者が圧倒的に多く、男子チームと女子チームの練習について、指導者の考え方の相違をみることができた。

筆者が、第22回全日本高等学校ハンドボール選手権大会参加の選手全員についての調査では、「きびしい練習」が必要だとする者は男子選手68.5％、女子選手64.5％となっており選手自身も指導者同様に、きびしいトレーニングに対して支持していた。

このように指導者と部員との共通する点は、両者とも試合に勝つための共通意識があるために、きびしいトレーニングに精進することができる条件となっている。このような現実の中にあって、指導者は技術指導とあわせて科学的、理論的な指導も同時に進める必要がある。例えば、ハンドボールが

**図5.** クラブ活動（きびしい練習）(%)

| | | 賛　成 | 反　対 |
|---|---|---|---|
| 20才代 | 男子チーム | 80 | 20 |
| | 女子チーム | 100 | |
| 30才代 | 男子チーム | 58.8 | 41.2 |
| | 女子チーム | 65 | 35 |
| 40才代 | 男子チーム | 57.1 | 42.9 |
| | 女子チーム | 80 | 20 |
| 全　体 | 男子チーム | 64.7 | 35.3 |
| | 女子チーム | 74.2 | 25.8 |

年令別　P>0.05

図4. 指導に対する考え方



誕生してくる社会的な背景、またルールや技術など一つ一つ認識と理解をさせることによって、ハンドボール競技を正しく理解することにもなる。ハンドボールという運動文化が、これからの社会の発展によって、将来どのような方向に変容しようとしているか等、理論、実践の両面から指導することによって選手はクラブ活動を通して、将来の生活においてもスポーツから離れることなく、生涯ハンドボールを愛好することになる。

次に、激しい練習によって、全国大会に出場している指導者が、どのような気持で試合に臨んでいるかを年代別にみた。20才代の指導者は「全国大会に出場できただけで満足である」「自分のチームが全国的にみてどの程度通用するかためしてみたい」「1回戦だけは勝ちたい」「悔いの残らない試合をしたい」「上位入賞をしたい」としている。

このように全国大会に出場できるチームを作った満足感と、これから自分のチームが全国大会で通用するかどうかをたしかめ、さらによりすぐれたチーム作りをと考えている。30才代では「1回戦だけは勝ちたい」「全国大会に出場しただけで満足である」「ベストコンディションで悔いの残らない試合をしたい」「優勝を目標にしている」「試合を通じて技術を修得したい」「自分のチームが全国的にみて、どれくらい通用するかたしかめたい」等であり、試合中心と同時に勝利中心主義的な考えを持つ指導者が多く、「技能の追求向上」のみがクラブ活動の目的と置き換えエリートスポーツマンを作る傾向が強くみられる。40才代は、全国大会に出場した満足感とか勝利至上主義的な考えは薄く、「最高のコンディションで、最大の効果をあげたい」「平素のものが出れば、勝っても敗けても問題でない」「想い出になる大会にしてやりたい」「上位入賞が目標である」という。このように40才代では、練習に対して努力することが勝敗以上に重要な価値を持っていると考えており、ハンドボールを通じて授業では得られない人間開発をめざして指導に当っている。

## 五、まとめ

今回の調査のその結果を要約すると次のことがいえる。

(1) 指導者の平均年令は、男子女子チームとも33・5才である。

(2) クラブ活動の指導計画は、指導者中心が多く、女子チームは、男子チームにくらべ、より指導者中心的である。なかでも20才代は、その傾向が強く、30才代、40才代になるにしたがって、その傾向が弱くなっている。

(3) 過去に1度はハンドボールの指導を「やめたい」と考えた者が半数以上いる。当然のことながら20才代30才代さらに40才代と年令層が高くなるにつれて多くなっている。

(4) 指導面では、20才代が最も熱心で、より成績をあげるために積極的に指導を行なっている。30才代は家庭生活とクラブ活動の板ばさみになり指導が消極的になる者と、その反面より積極的に指導しようとする者とに二分されていく傾向がある。40才代は「ハンドボール部」を強くしようとする意識はうすれ部の「和」などの傾面からの教育的配慮に指導の重点がおかれるようになる。

(5) 全国大会に出場した指導者の指導目標を年令層からみると、20才代では、これからのチーム作りの基盤とし、30才代は、勝利を目標にし、40才代は、教育的効果をあげることを目標としている。

謝辞　調査に対して、第25回全日本高等学校ハンドボール選手権大会出場監督の先生方および大会関係者の方々に誌上をお借りして、心から謝意を表します。

# 世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

# 福岡大、みごとに西部を制す

## 女子は新星・九州女大が初優勝

第27回（女子第5回）西部日本学生選手権は6月17日から19日までの3日間、山口県立体育館を主会場に男子19校（中四国7、九州12）女子5校（中四国2、九州3）が参加してトーナメントで行われ男子は福岡大（九州）、女子は九州女大（九州、熊本）がそれぞれ初優勝を飾った。男子で九州産大（九州）の6連覇は成らなかった。

▽男子1回戦（3試合）
西南学院（九州）21（10 11－4 6）10 岡山大（中四国）
広島修道（中四国）22（14 8－4 6）10 東和（九州）
九州大（九州）11（4 7－2 6）8 松山商大（中四国）

### 九州産大、山口大に敗る

▽同2回戦
山口大（中四国）15（6 9－9 5）14 九州産大（九州）
長崎大（九州）19（10 9－4 5）9 熊本工大（九州）
広大福山（中四国）16（8 8－10 4）14 広島工大（中四国）
熊本大（九州）16（11 5－5 4）9 福岡工大（九州）
西南学院 17（7 10－9 6）15 福岡教大（九州）
広島修道 14（6 8－8 2）10 久留米工大（九州）
福岡大（九州）20（12 8－5 7）12 広島大（中四国）
九州大 30（14 16－6 4）10 熊本商大（九州）

▽同準々決勝
九州大 20（10 10－4 5）9 熊本大
長崎大 24（12 12－3 3）6 広島修道
福岡大 22（9 13－3 12）15 広大福山
山口大 15（12 3－7 2）9 西南学院

▽同準決勝
福岡大 15（7 8－7 7）14 九州大
山口大 24（13 11－7 6）13 長崎大

▽同3位決定戦
九州大 23（11 12－10 8）18 長崎大

▽同決勝
福岡大 16（9 7－5 10）15 山口大

▽女子1回戦（1試合）
山口大（中四国）13（9 4－2 0）2 岡山大（中四国）

▽同準決勝
九州女大（九州）14（5 9－5 1）6 福岡大（九州）
山口大 15（8 7－3 3）6 福岡教大（九州）

▽同3位決定戦
福岡大 10（8 2－4 1）5 福岡教大

▽同決勝
九州女大 15（8 7－5 7）12 山口大

後　記

○……男子決勝・福岡大×山口大は、初進出の福岡大の試合ぶりに注目が集まったが、さすがに固さが目立ち山口大のパスカットからの速攻を受け、序盤は大差がついた。

しかし、前半なかばすぎから落ちつきを取り戻し、後半開始直後速攻、ミドルなどで4点連取、逆転するという底力をみせた。

山口大も粘り一進一退の展開になったが、疲れがのぞいてリズムをなくし、勢いづいた福岡大をついに捉らえそこなった。

決勝戦にふさわしい好試合だった。

福岡大のビッグタイトル獲得は初めて。

○……準決勝までの波乱は、2回戦で6連勝を狙った九州産大が山口大の気力に敗れた一戦。ともに春季1位で互角の実力、見応えある攻撃の応酬から山口が先手をとった。しかし、九州産大もじりじりと追いあげ、残り3分マンツウマンからの速攻で14－15としたが山口はそのあとをよく締め、逃げ切った。

このほか、西南が前年2位の福岡教大を破り、久々に元気なところをみせた。

○……女子は新星・九州女大が5月の九州学生につづく進撃をみせた。

勝因は秀れた攻撃力にあり、山口大との決勝戦も相手の凡ミスを拾って速攻、いきなり5－1とするなど、みごとなまとまりをみせた。

# 北信越は金沢大勝つ

北信越学生春季リーグ戦は6月18、19の両日金沢工大体育館に7大学が参加して行われ、二グループに分かれの予選リーグのあと各組同位者で優勝以下を競った。

その結果、決勝戦は金沢大×富山大の顔合せとなり、金沢大が前半で圧倒的優位に立ち、そのまま押し切って2シーズンぶり5度目の栄冠を握った。

▽予選リーグA組
金沢大 41－7 金沢美術工芸
福井大 10－8 信州大（長野）
福井大 12－9 金沢美術工芸
金沢大 30－9 信州大
信州大 25－5 金沢美術工芸
金沢大 23－8 福井大

【順位】①金沢大②福井大③信州大④金沢美術工芸大（〃通算7位扱い）

▽同B組

富山大 18—9 金沢医大

富山大 15—14 金沢工大

金沢工大 28—11 金沢医大

【順位】①富山大②金沢工大③金沢医大

▽5・6位決定戦

信州大 23（11—6 12—3）9 金沢医大

▽3・4位決定戦

金沢工大 36（20—5 16—8）13 福井大

▽1・2位決定戦

金沢大 25（10—11 15—2）13 富山大

○……金沢は谷内口を中心に速攻セットオフェンスを巧みに使い分け、富山のゴールを次々に襲い前半で予想以上の大差がついた。

後半、金沢の気のゆるみから富山は竹内のスタンディングとPT

【富山】得 0 0 1 1 0 1 2 6 0 2 0 0 13
瀬川見本地本井内林木見木
GK｛広姫 FP｛吉森角坂藤竹小船舟朴（審・村谷 川原）
【金沢】瀬田口木井川 田島村原原
内 芝
朝酒谷鈴金早 角福池杉川
得 0 0 6 2 5 1 1 0 0 6 4 0 25

などで追いあげたが及ばなかった。

44年秋以来、優勝から遠ざかっている富山は、ぜひ勝ちたいところだったが、あまりにも前半の失点が大きかった。

## 東北学院が4連勝

### 東北地区大学総体

第28回東北地区大学総合体育大会ハンドボール協技（男子のみ）は7月1日から5日まで岩手県盛岡商高体育館に12大学が参加してトーナメントで行われ、春の東北学生優勝の東北学院（宮城）が東北大（宮城）を激戦の末破って4連勝した。

準々決勝で弘前大（青森）が仙台大（宮城）を破り注目された。

▽1回戦

秋田大 21—8 山形大

弘前大（青森） 18—11 秋田農短大（秋田）

東北工大（宮城） 35—10 北里（岩手）

福島大 14—13 宮城教大

▽準々決勝

東北学院（宮城） 29（13—5 16—3）8 秋田大

弘前大 14（7—5 7—6）11 仙台大（宮城）

岩手大 12（4—3 8—9）12 東北工大

PT2—1で岩手大の勝ち

東北大（宮城） 18（6—12 12—4）16 福島大

▽準決勝

東北学院 31（18—3 13—6）9 弘前大

東北大 18（9—2 9—4）6 岩手大

▽3位決定戦

弘前大 16（7—5 9—4）9 岩手大

▽決勝

東北学院 18（7—9 11—7）16 東北大

### 中四国入れ替え戦

6月26日 広島修道大体育館で行われ、新加盟の島根大が2部入り、1部は修道大（広島）が逆転勝ちで残留。

▽2〜3部

島根大 15—11 山口大工学部

▽1〜2部

広島修道 16（10—3 6—7）10 広島工大

（訂正）本誌前号「中四国学生春季リーグ」2部順位は④徳島大⑤山口大工学部の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

### 大学定期戦

◇第32回関学—早稲田（7月2日・西宮市民体育館）

早稲田 28（14—8 14—5）13 関学

通算成績は早稲田の17勝15敗。

◇第30回慶応—京大（7月2日・慶大日吉記念館）

慶応 27（10—11 17—6）17 京大

通算成績は慶応の21勝2分7敗

◇第24回慶応—甲南（7月3日・慶大日吉記念館）

慶応 25（10—11 15—5）16 甲南

通算成績は慶応の20勝4敗。

## 東軍（男子）代表決まる

関東、北信越、東北、北海道4学連はこのほど9月15日京都で行われる東西対抗に出場の東軍男子メンバーを次のように発表した。

▽監督 菅野（早大監督）▽GK 安田（早）、大畑（日）▽FP 北里 洞ケ瀬、武井、石川、吉見、筏（以上早）、若田（筑波）、新井田（日）、長野（中）、勝地（慶）、佐々木（東北学院）、池村（金沢大）、辻口（北海道教大旭川）

## 内海倫氏が学連新会長に

全日本学連は6月26日東京で開いた全国総合役員会で、空席の会長に内海倫氏（東大出、60才、元警察庁交通局長）を満場一致で推せん、同氏の承諾をうけ発表した。

内海新会長は永く警察畑、防衛畑にあり、特に交通行政で多くの業績を残されている。スポーツ全般に精通、東京オリンピック（当時・警視庁交通部長）のマラソンコース決定に大きな力があった。

学連会長は、昨年6月西敏郎氏が逝去して以来空席だった。

戦前から戦後にかけて、そのポストに不明確な面もあるが、本誌調べでは歴代6人目。

全日本学連が、会長に、いわゆる〝外部〟から人を得たのは初。

# 世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

## ブロック高校選手権

# 盛岡一、青森商にPTC勝ち

第30回東北高校選手権は、6月25、26の両日山形県営体育館に男女各12チームが参加して行われた。

男子は2連勝を目指す仙台育英（宮城）を押し切った盛岡一（岩手）と、新進青森商の決勝戦。文字どおり互角の激戦となり、ブロック高校選手権の決勝としては史上初のペナルティスロー・コンテストにもつれこみ盛岡一が一本優って、11年ぶり14度目の優勝を決めた。

女子は、予想どおり和洋女（秋田）、涌谷(宮城）の両名門校が決勝に進出。8年連続の対決となったが、和洋女が後半みちがえるような攻守で逆転勝ち、3年ぶり10度目のタイトル獲得となった。

これで、8年間の両校の対戦成績は和洋女の6勝2敗（52—43）

▽男子1回戦

大曲農（秋田） 24（11—7　13—4）11 野辺地（青森）

須賀川長沼（福島） 15（7—6　8—5）11 寒河江（山形）

花巻北（岩手） 12（5—4　7—3）7 古川（宮城）

大曲（秋田） 17（8—5　9—9）14 大石田（山形）

▽同準々決勝

仙台育英（宮城） 16（6—8　10—2）10 大曲農

盛岡一（岩手） 10（4—3　6—2）5 須賀川長沼

花巻北 11（4—3　7—4）7 学法石川（福島）

青森商（青森） 13（5—5　8—4）9 大曲

▽同準決勝

盛岡一 8（2—2　6—3）5 仙台育英

青森商 10（7—5　3—3）8 花巻北

▽同決勝

盛岡一 (12)10（4—5　5—4：0—0　0—0：0—0　1—1）(11)10 青森商

2 PTC 1

▽女子1回戦

大曲農（秋田） 7（1—6　6—0）6 米沢女（山形）

福島女（福島） 9（3—3　6—2）5 盛岡一（岩手）

野辺地（青森） 11（2—4　9—3）7 寒河江（山形）

郡山女（福島） 9（5—7　4—0）7 古川商（宮城）

▽同準々決勝

涌谷（宮城） 10（7—3　3—3）6 大曲農

青森西（青森） 10（3—3　3—3：2—0　2—1）7 福島女

花巻南（岩手） 9（5—1　4—4）5 野辺地

和洋女（秋田） 14（6—4　8—8）12 郡山女

▽同準決勝

涌谷 13（8—3　5—6）9 青森西

和洋女 4（0—0　4—1）1 花巻南

▽同決勝

和洋女 5（2—4　3—0）4 涌谷

# 男子で氷見、圧倒的な強さ

第13回北信越高校選手権は6月25、26の両日新潟県柏崎市（男・柏崎高体育館、女・柏崎工体育館）で行われた。参加校は男女とも12

男子は、前評判どおり氷見（富山）が圧倒的な強さを発揮、全試合20点台をマーク、決勝でも初進出の北陸（福井）を寄せつけず4年連続5度目の制覇を遂げた。

女子は、2連勝を狙う有磯（富山）と小松市女(石川)の激突となり、小松市女が立ちあがり4—0とした優位を活かし快勝、2年ぶり7度目の優勝。　（望月　豊）

▽男子1回戦

坂城（長野） 16（9—7　7—2）9 藤島（福井）

氷見（富山） 25（11—2　14—3）5 中条工（新潟）

高岡日大（富山） 12（5—5　7—4）9 柏崎（新潟）

金沢泉ケ丘（石川） 12（7—4　5—3）7 中越（新潟）

▽同準々決勝

坂城 16（9—1　7—2）3 柏崎工（新潟）

氷見 22（11—5　11—6）11 小松工（石川）

上田（長野） 9（5—2　4—3）5 高岡日大

北陸（福井） 22（10—2　12—5）7 金沢泉ケ丘

▽同準決勝

氷見 23（11—1　12—1）2 坂城

北陸 8（4—4　3—3：0—0　1—0）7 上田

▽決勝

氷見 28（13—3　15—4）7 北陸

| 【北陸】 | 得 | | 【氷見】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| GK 山田 | 0 | | GK 水岩 | 0 |
| GK 宮崎 | 0 | | GK 松田 | 0 |
| FP 前田 | 2 | | FP 中山 | 0 |
| FP 半田 | 1 | | FP 大門 | 8 |
| FP 上田 | 0 | | FP 西山 | 7 |
| FP 原田 | 0 | | FP 関谷 | 2 |
| FP 宮川 | 0 | | FP 狩野 | 3 |
| FP 岩本 | 0 | | FP 中浦 | 3 |
| FP 八木 | 0 | | FP 糸 | 3 |
| FP 山本 | 4 | | FP 裏 | 0 |
| FP 藤本 | 0 | | FP 小久保 | 1 |
| FP 田畑 | 0 | | FP 光安 | 1 |

（審・阿部、加藤）

28（1）PT（0）7

▽女子1回戦

小松商（石川） 11（5—0　6—3）3 巻（新潟）

松本美須々ケ丘（長野） 13（5—1　8—3）4 新潟明訓（新潟）

小諸商（長野） 44（20—2　24—0）2 中越（新潟）

小杉（富山） 10（5—1　5—2）3 仁愛女（福井）

▽同準々決勝

武生商（福井） 10（5—2　5—2）4 小松商

有磯（富山） 13（7—4　6—2）6 松本美須々ケ丘

小杉 10（5—1　5—2）3 新潟江南（新潟）

小松市女（石川） 15（6—2　9—2）4 小諸商

▽同準決勝

有磯 5（3—1　2—0）1 武生商

小松市女 5（3—1　2—2）3 小杉

▽同決勝

小松市女 11（7—4　4—2）6 有磯

| 【有磯】 | 得 | | 【小松】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| GK 水口 | 0 | | GK 高橋 | 0 |
| GK 高木 | 0 | | GK 竹本 | 0 |
| FP 岡田 | 0 | | FP 大西夕 | 1 |
| FP 坂下 | 0 | | FP 川本 | 0 |
| FP 杉谷 | 0 | | FP 大西久 | 0 |
| FP 辰野 | 0 | | FP 山下 | 1 |
| FP 田山 | 0 | | FP 木内 | 0 |
| FP 細川 | 0 | | FP 宮西 | 0 |
| FP 山岸 | 3 | | FP 八木 | 2 |
| FP 加納 | 3 | | FP 東出 | 1 |
| | | | FP 池田 | 6 |
| | | | FP 手打 | 0 |

（審・中沢、高橋）

11（2）PT（0）6

### 東海は静農と市邨

第24回東海高校選手権は6月25、26の両日四日市市で行われ、男子は静岡農（静岡）が加茂（岐阜）を21—11で破り初優勝、静岡に5年ぶりの優勝をもたらした。

女子は市邨(愛知)が清水市商（静岡）を15—7で降し初優勝。愛知代表の優勝は13度目、静岡代表の3連勝は成らなかった。

# 各地の記録

## 女子は地元日川クが初

第7回関東クラブ選手権は7月16、17日甲府市の山梨県営体育館に各県代表の男子8、女子7チームが参加して行われた。

男子は、早大OB主体の稲球会（東京）が、準決勝で三春台ク（神奈川）を破り難関を抜け、決勝では富岡ク（群馬）に快勝、2連勝を飾った。

女子は、前年1位の武蔵野ク（東京）が1回戦で全神奈川クにせりあいの末敗れた。

決勝は地元・日川ク（山梨）×全神奈川クの初顔合せとなり、日川クが全神奈川クの反撃を辛くも振り切って初優勝を飾った。

▽男子1回戦（＝準々決勝）
日川ク（山梨）20（10—4、10—10）14 清水ク（千葉）
富岡ク（群馬）22（9—3、13—5）8 浦和市高OB（埼玉）
稲球会（東京）23（12—3、11—4）7 柿の実会（栃木）
三春台ク（神奈川）19（6—9、13—4）13 笠間ク（茨城）

▽同準決勝
富岡ク 15（6—6、9—7）13 日川ク
稲球会 10（2—1、8—6）7 三春台ク

▽同決勝
稲球会 27（13—7、14—3）10 富岡ク

▽女子1回戦（3試合）
栃木女高OG（栃木）5（0—2、5—1）3 深谷一高OG（埼玉）
全神奈川ク（神奈川）10（4—4、6—5）9 武蔵野ク（東京）
昭和学院ク（千葉）15（7—1、8—4）5 前橋ピジョンズ（群馬）

▽同準決勝
日川ク（山梨）8（3—3、4—4…0—0、1—0）7 栃木女高OG
全神奈川ク 9（5—5、2—2…1—0、1—0）7 昭和学院ク

▽同決勝
日川ク 10（7—4、3—5）9 全神奈川ク

## 富士通長野がデビュー

▼第3回信越（長野×新潟）総合体育大会ハンドボール競技（6月長野短大）

▽少年男子
上田高（長野）11—9 新潟高校選抜

▽同女子
小諸商（長野）15—3 新潟江南高（新潟）

▽成年男子
全長野 21—10 全新潟

▽同女子
富士通長野（長野）10—4 江南OG（新潟）

## 野辺地と青森西に川島杯

▼第27回青森県高校春季選手権（兼第12回田川島杯、第1回野辺地町長旗争奪・5月、野辺地町立体育館）

▽男子準決勝
青森商 22—12 十和田工
三本木 11（延）10 柏木農
野辺地 17—5 青森
鰺ケ沢 16（延）11 七戸

▽同準決勝
青森商 22—12 三本木
野辺地 16—7 鰺ケ沢

▽同決勝
野辺地 12（6—4、6—3）7 青森商

▽女子1回戦（1試合）
三本木 12—8 七戸

▽同準決勝
青森西 16—6 三本木
野辺地 20—5 青森東

▽同決勝
青森西 12（6—2、6—1）3 野辺地

## 前期は丸善石油松山1位

▼昭和52年度愛媛県社会人リーグ前期（5～7月・松山市ほか）＝男子のみ

丸善石油松山 29—11 愛媛大
住化菊本 22—16 松山商大
松山ク 30—17 新居浜ク
丸善石油松山 18—14 松山商大
住化菊本 22—13 新居浜ク
松山ク 17—9 愛媛大
丸善石油松山 棄権 新居浜ク
住化菊本 17—10 松山ク
松山商大 18—9 愛媛大
丸善石油松山 15—11 松山ク
住化菊本 31—20 愛媛大
松山商大 棄権 新居浜ク
松山ク 31—8 松山商大
新居浜ク 31—25 愛媛大
丸善石油松山 10（分）10 住化菊本

【順位】①丸善石油松山4勝1分（得失点差38）②住友化学菊本4勝1分（33）③松山ク3勝2敗④松山商大2勝3敗⑤新居浜ク1勝4敗⑥愛媛大5敗

## 男子で奈良勝ち進む

▼第28回奈良県高校選手権（5月・正強高）

▽男子1次大会準々決勝
添上 16—7 正強
奈良 21—8 育英
一条 10—9 生駒
郡山 13—7 畝傍

▽同準決勝
奈良 9—6 添上
郡山 14—9 一条

▽同決勝
奈良 11（4—2、7—1）3 郡山

▽同2次大会3回戦（2試合）
奈良工 10—1 育英
生駒 9—3 正強

▽同4回戦（2試合）
添上 12—8 生駒
一条 16—2 奈良工

▽同5回戦（1試合）
添上 9—5 一条

▽同決勝
添上 14（6—1、8—4）5 郡山

▽女子1次大会準決勝
郡山 11—3 生駒
添上 8—5 一条

▽同決勝
郡山 3（3—0、0—2）2 添上

▽同2次大会1回戦（2試合）
一条 24—0 文短附
生駒 0—0 十津川

▽同2回戦（1試合）
一条 7—3 生駒

▽同決勝
添上 5（1—3、3—1…1—0、0—1）5 一条

▼第7回群馬県クラブ大会（6月吉井高）＝男子のみ

▽1回戦（1試合）
甘楽ク 19—14 前橋ク

▽準決勝
富岡ク 23—18 甘楽ク
前工ク 20—16 藤高ク

▽決勝
富岡ク 18（6—6、12—0）6 前工ク

▼第10回沖縄県一般女子選手権（5月・沖縄高）

▽決勝
小禄OG 10（4—3、6—3）6 興南OG